令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート

東千葉　・・・　P1
中央　・・・　P5
千葉寺　・・・　P9
松ケ丘　・・・　P13
浜野　・・・　P17
こてはし台　・・・　P21
花見川　・・・　P25
さつきが丘　・・・　P29
にれの木台　・・・　P33
花園　・・・　P37
幕張　・・・　P41
山王　・・・　P45
園生　・・・　P49
天台　・・・　P53
小仲台　・・・　P57
稲毛　・・・　P61
みつわ台　・・・　P65
都賀　・・・　P69
桜木　・・・　P73
千城台　・・・　P77
大宮台　・・・　P81
鎌取　・・・　P85
誉田　・・・　P89
土気　・・・　P93
真砂　・・・　P97
磯辺　・・・　P101
高洲　・・・　P105
幸町　・・・　P109

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター東千葉</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">圏域は住宅密集地に位置し戸建てが多い地域と戸建てと集合住宅が混在する地域とに分かれる。特に集合住宅に住む高齢者の中には地域社会との接点を持たず孤立化している方も多く、孤独死や相談があった時にはすでに状態が悪化しているといった問題が顕在化してきている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">１、新型コロナウイルスの影響による地域活動の縮小や高齢者の閉じこもりといった課題に対し、地域活動再開への支援や民生委員との連携による予防的介入を積極的に行う事で影響を最小限に抑える。
２、地域活動の継続や民生委員との関係強化により身近な相談機関であるあんしんケアセンターの周知を行い、地域で孤立している高齢者にも早い段階から介入し予防的な支援に繋げる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">第5回中央東千葉地区部会　地域ケア会議・協議体の開催に向けて、生活支援コーディネーターと連携会議、準備を行った（令和3年4月から9月）特別養護老人ホーム地域交流スペース活用に向けて、生活支援コーディネーターと施設訪問、使用方法について打ち合わせを行った（8月4日）春日地区の高齢者に向けて、社会参加と他者交流の場となるため、飲食とインターネット講座が可能なカフェの資源調査に同行した（8月13日）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">東千葉地区で住民ボランティア、社会福祉協議会と共同で福祉イベントを開催、出張相談室を開催した（11月7日）特別養護老人ホームかなめ一倫荘地域交流スペース活用に向けて、106地区民児協と施設見学を実施した（11月16日、18日）第5回中央東千葉地区部会　地域ケア会議・協議体の開催に向けて、生活支援コーディネーターと連携会議実施、対面開催を実施した（12月2日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">生活支援コーディネーターと連携して、研修会の開催や認知症カフェの運営支援、生活支援サイトの発信を行った。ケアマネジャーにインフォーマルサービスや生活支援サイトの情報発信した事を契機に、院内地区に移動販売の拠点を作る事が出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・介護予防、地域資源に関する最新の情報を生活支援コーディネーターと共に情報収集、共有する。地域住民やケアマネジャー、サービス事業所などの関係機関に対して、情報発信や紹介する機会を持つ。
・東千葉地区で開催した福祉イベントを次年度も開催する。次年度の重点地区である道場北でも同様のイベントが開催できるように地域住民と共働する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">千葉市主催の地域ケア会議にファシリテーターとして参加し、事例検討会を通して地域の薬剤師とネットワーク作りをした（9月）前期は新型コロナウイルスの影響で多職種連携会議の開催は出来なかったが、後期の開催に向けて打ち合わせを行った。圏域内の医療機関や訪問看護事業所に訪問、挨拶する事で顔の見える関係つくりを行った（8月・9月）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">千葉医療センター地域連携室に虐待研修会を案内、居宅ケアマネジャーとネットワーク構築をした（11月10日）中央区あんしんケアセンター主催にて多職種連携会議を開催した（11月17日）千葉市主催の地域ケア会議にファシリテーターとして参加し、地域の薬剤師とネットワーク作りをした（12月）市立青葉病院が主催した千葉市の看看連携を考える会に参加して、コロナ禍における退院支援の在り方について協議、医療職のネットワーク構築を行った（1月19日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">新型コロナウイルス感染症の影響により、あんしんケアセンター東千葉圏域にて多職種連携会議の開催が出来なかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">前期に東千葉圏域、後期に中央区全体で多職種連携会議を合計2回開催する。研修会や出前講座等を企画した際は、出来る限り多くの医療・介護サービス事業所に周知する。千葉市の看看連携を考える会の参加を継続して、医療・介護の連携推進に努める。多職種連携会議等は感染対策を鑑みてオンライン開催も検討する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">支援に繋がりにくい認知症高齢者に関して、他機関や認知症初期集中支援チームと連携し、7/16に適切な支援（居宅ケアマネジャーへの引継ぎ）に繋げることが出来た。認知症サポーター養成講座に関してはコロナウィルス感染対策を講じながら地域住民向けに開催実施（9/24）。地域住民へ認知症高齢者への理解を深めると共に、市で実施している独自の施策について説明を実施することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・支援に繋がりにくいケースは認知症初期集中支援チームと連携しながら適切な医療へ繋げることができた。
・認知症サポーター養成講座は講師として一般市民向け（11/1）、中学生向けを対応した（11/12）
・また松波地区の民生委員を対象とした認知症サポーター養成講座を実施（2/26）徘徊声掛け模擬訓練について来年度開催を目標としていることを講座終了後に周知している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し支援に繋がりにくいケースは他機関と連携しながら適切な医療に繋げることができたため。
・要望のあった認知症サポーター養成講座を一般向け、中学生向けに実施することで、普及啓発活動に努めたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・支援に繋がりにくいケースは、引き続き他機関と連携しながら支援を実施する。
・要望のある認知症サポーター養成講座について、今後も順次対応する。
・松波地区を対象に徘徊模擬訓練を実施していく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・介護予防について定期的に最新の情報を生活支援コーディネーターと連携を図りながら、地域住民やケアマネジャーへ提案することができた。
・より自立支援の視点で個々のニーズに合わせて介護予防ケアマネジメントが出来るように、委託、直営を含めインフォーマルサービスの活用を計画に位置づけられるように支援している。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・自立支援の視点で個々のニーズに合わせて介護予防マネジメントができるよう委託・直営を含め生活支援サイトの活用について情報提供を行った。また交流の場や、ごみ出し支援についてケアマネジャーからの相談に個別に対応した。
・居宅介護支援事業所への情報提供が迅速かつ正確に発信できるよう各事業所のメールアドレスを確認した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>直営・委託を含めインフォーマルサービスについて情報提供はできたが活用できるよう計画に位置付けられるような働きかけまでには至らなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・より自立支援に資する介護予防マネジメントを目指し地域の通いの場やインフォーマルサービス等の活用ができるよう生活支援コーディネーターと連携を図り広報誌などを活用しながら最新の情報提供を行う。
・介護予防マネジメントの実施にあたり適切なサービスが包括的かつ効果的な援助ができるよう委託先のケアマネジャーを対象に研修会を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新規相談を受付、ケース検討をした上で、内容に適した職種、担当者を決定している。翌日には3職種全員で情報を共有し課題の抽出や適切な支援に繋げている。支援に進捗があった際は速やかに報告・相談・検討する体制が出来ている。終結の判断は毎月３職種で協議・決定している。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新規相談を受付した際は内容を確認して対応に適した職種や担当者を決定した。翌朝には3職種全員で情報を共有し多角的に課題分析し訪問対応等を実施した。緊急性が高いケースは、即座に自宅訪問することで早期発見対応した。支援に進捗があった際は速やかに報告・相談・検討する体制が出来ている。当センターだけでは解決が難しいケースは地域住民や行政を含めた関係機関との連携や共同での解決に取り組んだ。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>相談内容に応じて3職種が協働で解決に向けて取り組む事ができた。マンション管理人から相談があったケースでは、精神疾患の対象者が刃物や危険物を持って外出することで傷害事件に発展する危険性があったため、高齢障害支援課、健康課、警察と連携して、医療保護入院に繋げた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">就労、障害、若年層、経済的問題など様々な複合課題は、引き続き関係機関との連携を強化、対応していく。次年度からは中央区複合課題ケース検討会に参加して、事例提出や助言を受けて解決に向けて取り組む。重層的支援会議、認知症初期集中支援チーム会議、地域ケア会議等を活用しながら様々なケース対応していく。自宅訪問等では新たな課題抽出・整理するため、積極的に基本チェックリストを活用していく。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	緊急事態宣言の発令もあり、出前講座は行えなかった。総合相談への成年後見制度や消費者被害への対応は各機関と連携を図りながら促進や適切な対応ができた。また、権利侵害が著しい困難ケースについても区高齢障害支援課と連携を図り適切な対応を行うことができた。また、消費生活支援センターや法テラス千葉へ出向き、お互いの役割について再度確認し今後の連携依頼を実施した（8/25、9/7）。		
後期	具体的な取り組み状況	出前講座はオンラインを活用し、圏域内、法人内の居宅介護支援専門員や薬局、医療機関を対象に開催できた（11/22、12/10）センター独自の広報誌は作成できなかったが、権利擁護に関する情報はセンター掲示板への掲載や地域活動の場で随時発信（10/14）することができた。権利侵害が著しい困難ケースに関しては、区高齢障害支援課など関係機関と連携しながら対応できた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	出前講座はオンラインを活用し実施することができた。消費者被害のケースは消費生活センターと連携しながら地域へ啓発活動ができた。成年後見制度の利用が必要なケース4件を関係機関や制度へ繋げる事が出来た。センター独自の広報誌での権利擁護に関する情報発信は出来なかった。
	次年度に向けた展望	社会情勢に合わせながらオンラインを活用し、民生委員など地域住民向け出前講座を実施した。地域住民への周知と権利侵害が著しいケースの早期発見に努める。センター独自の広報誌を作成し権利擁護に関する情報を周知していく。 権利侵害が著しい困難ケースには、8050問題も視野に入れながら区高齢障害支援課や障害者基幹型相談支援センターと連携し対応していく。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	支援困難事例ケース会議を2回開催した（4月、9月）居宅介護支援事業所向け事例検討会の開催準備、司会進行、ファシリテーター役を担った（7月）利用者家族によるカスタマーハラスメントをケアマネジャーより相談があり、経過の聞き取り、助言、利用者宅の同行訪問を実施した。ケアマネより居宅契約解除の希望があり、利用者の同意を得て事業所変更の支援をした（8月）		
後期	具体的な取り組み状況	中央区主任ケアマネ連絡会や管理者会議で障害者相談員向けに勉強会や研修会を開催した。障害支援制度から介護保険制度の移行が円滑に支援できるよう現在も定期的な打ち合わせを実施している。居宅介護支援事業所、介護施設、病院等を事業所訪問することで、顔の見える関係作りを行った。居宅ケアマネジャーからの依頼を受けて、困難事例相談7件、困難ケース会議3件を開催した。		
年度総括	自己評価	D	自己評価を選択した理由	前期に居宅介護支援事業所との事例検討会をオンラインで開催することは出来たが、後期は事例検討会の開催が出来なかった。一人ケアマネなど少人数の事業所に対するサポートが不十分と感じた。
	次年度に向けた展望	・障碍者相談員向けの研修、勉強会を開催する。 ・居宅ケアマネジャー向けの研修会を開催する。 ・少人数ケアマネの居宅支援事業所とのネットワーク作り、事例検討会を企画する。 ・定期的にオンラインを活用したケアマネサロンを開催、困難ケースなど相談しやすい関係を作る。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	個別の困難事例ケース会議に関しては、人数を絞り、ソーシャルディスタンス可能な会場の確保を実施することで、２件（7/26、8/4）実施することが出来た。会議を実施することで、各関係者間における共通認識を図り、今後の支援に向けての方針を共有することが出来た。		
後期	具体的な取り組み状況	居宅ケアマネから困難事例相談を受けて、個別課題解決・ネットワーク構築のため地域ケア会議を2件開催した（10月、1月）中央東地区部会と地域ケア会議・協議体を開催、地域課題の把握や地域住民と介護事業者とのネットワーク作りを行った（12月）あんしんケアセンター千葉寺主催の自立促進ケア会議に参加した。自立支援の視点から介護予防ケアマネジメントの助言を行った（11月）		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	個別地域ケア会議においては課題に対して関係者間で共有することで、今後の支援に向けた方向性を導き出すことが出来た。地域ケア会議・協議体は新型コロナウイルス感染拡大のため当初の計画より時期は延期されたが、規模を縮小することなく対面で開催することが出来た。
	次年度に向けた展望	重点地域である道場北地区の民生委員と連携して、地域課題や新たな社会資源創出、医療・介護サービス事業所とのネットワーク作りや関係強化を図るための地域ケア会議を複数回開催する。地域住民やサービス事業所等と連携して、迅課題発生時には迅速に個別地域ケア会議が開催できるように努める。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td></td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">コロナ感染拡大防止の対策に準じ開催されている住民主体の体操教室（月2回一か所、3か月1回一か所）の支援を継続した。休止中の体操教室のリーダーとは随時連絡を取り状況確認を行いコロナ禍でもできる通いの場の企画など検討したが実施には至らなかった。いきいきサロンなどでのフレイル予防教室は計画したが感染拡大防止のため中止になった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">感染対策を講じ開催されている住民主体の体操教室の支援を継続した（月2回2か所）長期間休止している地域の公民館との共催で、少人数ではあったが握力測定会を開催できた（10月）生活支援コーディネーターと連携し、リハパートナーの派遣を依頼した事で住民主体の活動支援が出来た（2月）フレイル予防教室の開催（10月２カ所）、ワクチンに関する説明会を実施した（10月）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>開催回数は少なかったが地域住民に対するフレイル予防教室の開催ができた。時間短縮などのため基本チェックリストやいきいき活動手帳の活用ができない場合が多かった。住民主体の通いの場の継続支援はできた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域住民が積極的に健康づくりやフレイル予防に取り組めるように、生活支援コーディネーターや関係機関と連携を図り普及啓発を行い予防活動への参加を促す。
・コロナ禍において住民主体の活動が再開・継続できるよう支援を行う。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="3">千葉市あんしんケアセンター中央</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="3">・同じ小中学校地区でも町丁により地域特性が大きく異なる。
・地域によっては住民主体による支え合い活動が少ないところがある。
・利便性が良いため他区・他市からの転入者が多く、生活範囲内に知り合いのいない高齢者がいる。
・駐車場が無い、またはあっても高額のコインパーキングであるエリアが多く、車を使った訪問型サービスの提供を断られることがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="3">住み慣れている人は、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援し、他市他区から転入してきた人も安心して暮らせるように支援する。地域の支え合い活動だけでなく、自助としての市場サービスの利用も含め、インフォーマルサービスも活用した支援を行っていく。
複合的な問題を抱えつつも親族や支援者がいないケースが増えているため、関係機関と協働して支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="5">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①年度初めに開催状況について確認をし、活動休止している団体に対しては介護予防の体操等のチラシを配布した。
②対象地区の民生委員に案内はしたが、時期等の具体的な話は進められていない。
③主催事業は緊急事態宣言時以外は実施した。セルフケアの大切さについて普及啓発はしたが、地域支えあい活動までは至らなかった。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>地域活動や講座等の開催は計画通りに進められなかったが、可能な範囲で啓発普及を行い、次年度につながるような活動を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①関係団体とは随時連絡を取り合いながら開催状況を確認した。
②地域ケア会議で検討した対象地域に、介護予防教室の開催について周知したところ前向きな意見が聞かれた。開催には至らなかったが、次年度に持ち越しとなった。
③センター主催事業や介護予防活動支援は世情に応じて可能な範囲で開催した。セルフケアに取り組むための資料を作成した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>地域活動や講座等の開催は計画通りに進められなかったが、可能な範囲で啓発普及を行い、次年度につながるような活動を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターと連携しながら、地域の関係団体の情報収集と活動支援を行う。
・セルフケアの意識を高められるような啓発普及をしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①今年度、中央区全体の多職種連携会議の担当センターとなったため、圏域内で訪問診療を行っている医師や地域連携室に連絡を取り、医療介護連携について意見交換を行った。
圏域内の薬局と地域ケア会議を開催し、連携する上で課題と感じていることについて意見交換した。
②圏域内の多職種連携会議はまだ開催できていない。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>現在の状況で行える範囲の活動を行うことができた。医療機関との意見交換では、入院条件等細かいところの確認を行うことができた。多職種連携会議を開催するかどうかも含め、参加予定者と個別に相談し、意向を確認している。年度当初に立てた目標は達成していると判断した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①圏域内の地域医療連携室がある２か所の病院とは意見交換を行うことができたが、新型コロナ感染拡大により全部の病院とは行えなかった。
②医療機関との意見交換の場や薬剤師との地域ケア会議等の機会を通じて圏域内の課題について相談する機会を持てた。圏域内多職種連携会議は検討中。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>現在の状況で行える範囲の活動を行うことができた。医療機関との意見交換では、入院条件等細かいところの確認を行うことができた。多職種連携会議を開催するかどうかも含め、参加予定者と個別に相談し、意向を確認している。年度当初に立てた目標は達成していると判断した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">引き続き個々の医療機関との連携だけでなく、地域ケア会議等を通じて圏域内の医療・介護連携が促進されるような仕組みづくりに取り組んでいく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①支援困難な認知症が疑われるケースについて、認知症初期集中支援チームや認知症疾患医療センターと連携し、医療や介護サービスにつながるように支援できた。
②認知症か精神疾患か判断がつかないケースについて、中央区障害者基幹相談支援センターに相談し、一緒に支援を行った。精神科での治療が必要なケースについて、医療保護入院や退院後の支援について連携した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合相談から認知症により支援が必要な状況にもかかわらず医療介護とつながっていない人を発見した場合には、時間をかけて受診支援を行い、必要に応じて認知症触感医療センターや認知症初期集中支援チームと連携した。
②中学生向けの認知症サポーター養成講座では、２年生を対象に、事前学習も含め学校側と協議しながら開催した。生徒、教員のアンケート結果から、認知症に対して理解が深まったことが窺えた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>関係機関と連携し支援を行ったほか、６５歳未満の人の支援については障害者基幹相談支援センターとも連携し、支援を行うことができた。年度当初に立てた目標は達成したと判断した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・次年度も圏域内の中学校と相談しながら中学生向けの認知症サポーター養成講座を計画する。
・認知症になっても安心して住み慣れた地域て暮らし続けられるよう、地域ケア会議等を活用し、引き続き地域の関係機関と連携していきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①必要に応じて介護保険申請を案内したり、地域のインフォーマルサービスを案内したりしている。
②自宅でできる体操等の資料は作成中。
③委託プランの内容を確認し、必要に応じて担当ケアマネジャーに助言したり、当センターが把握しているインフォーマルサービスを案内した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①介護保険の申請だけでなく、介護予防についての情報提供やインフォーマルサービスの情報提供も併せて行った。
②セルフケアに取り組める資料を作成し所内で周知した。
③ケアプランの内容を確認し、必要に応じて担当ケアマネージャーに助言したり、インフォーマルサービスを案内した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>計画通りに、セルフケアのための介護予防の資料を作成した。インフォーマルサービスの情報収集は随時行い、必要に応じて地域住民やケアマネージャーに情報提供した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターと連携して地域の情報収集と、インフォーマルサービスを活用していく。
・住民主体の通いの場が創出・継続されていくよう、社会福祉協議会地区部会等の活動参加や既存サークルの活動支援を通じて働きかけていきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①広報誌の回覧を予定していたが実施出来なかった。②一部の民児協の定例会に参加し、障害基幹センターが主催した8050問題の講座を協力し実施した。③認知症により徘徊等もあり、生活に支障がでているケースについて地域ケア会議を実施した。対応方法について参加者と協議・共有することが出来た。④情報収集のため、一部の身元保証等高齢者サポートサービス事業所と意見交換した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①広報誌回覧を1月に実施。コロナ感染対策で回覧を自粛する地域もあるが、無理のない範囲で協力を得られた。
②104・105地区はあんしん千葉寺、109地区はあんしん東千葉と民児協の担当地域を共有。各センターと協働し定例会に参加する事で、相談の担当センターも明確にできた。
③必要時、地域ケア会議開を開催できた。
④身元保証等高齢者サポートサービスについて、料金や利用の仕組みが難しいとの声が多い事を把握。事業所情報の整理には至っていない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>センター周知活動として、広報誌の回覧を継続しているが回覧地域の拡大に至っていない。身元保証等高齢者サポートサービスについて、社会資源として情報収集や整理が出来ていない。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">一部地域に限られている広報誌の回覧地域の拡大や出張相談窓口を設けるなど、センター周知活動の拡充、相談窓口といての機能を充実させる。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
	具体的な取り組み状況	①講座の開催を行う事が出来なかった。 ②高齢者虐待の早期発見の為、圏域内のCMを対象に高齢者虐待防止についての研修を行った。 ③社会福祉士連絡会にて、虐待対応について中央区高齢障害支援課や中央区内のあんしんケアセンターと連携方法を検討した。		
後期	具体的な取り組み状況	①権利擁護や特殊詐欺被害防止についての広報誌を作成、自治会等で配布し啓発活動を行った。 ②虐待対応・成年後見申し立てについて、必要に応じ関係機関と連携し速やかに対応した。		
年度総括	自己評価	D	自己評価を選択した理由	・権利擁護について広報誌に載せ配布し、普及啓発を行った。 ・特殊詐欺被害予防・啓発のチラシを作り、自治会にて配布・掲示を依頼した・ ・コロナ感染予防の為、集まっての講座（権利擁護や認知症の理解について）開催ができなかった。
	次年度に向けた展望	・地域活動への参加や研修会の中で、消費者被害や権利擁護（成年後見制度等）の周知・啓発を行う。 ・高齢障害支援課や関係機関との連携を継続して図り、虐待対応・成年後見申し立てについて迅速に対応する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
	具体的な取り組み状況	①年度当初に圏域内の介護支援専門員と一緒に、今年度の研修計画について話し合った。６月に昨年度延期となっていた苦情対応研修を開催。また、介護保険法改正に伴い要介護の帳票が一部変更された件について、１１月に主任介護支援専門員勉強会を開催予定。 ②中央区内の関係機関と連携し、重層的支援体制整備に向け協議している。		
後期	具体的な取り組み状況	①圏域内の主任介護支援専門員、市の関係部署と協働し、新しい要介護帳票の作成指導方法について複数回にわたり検討した。一定の成果が出たため、次年度早々に介護支援専門員向け研修を開催する。 ②８０５０世帯の支援について地域ケア会議を開催した。地域の理解を得るために、障害者基幹相談支援センターと連携し、民生委員を対象に勉強会も開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	複合的な課題を抱える世帯全体の支援を検討するために、中央区の包括的支援機関と連携するための会議を開催し、今後の連携体制について協議することができた。ネットワーク構築という点で年度当初目標にしていた内容を上回ったと判断した。
	次年度に向けた展望	・多様な問題を抱える世帯全体を支援するため、関係機関との連携構築をはかる。 ・地域の主任介護支援専門員と連携し、介護支援専門員に対して細やかな指導を行う。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	①認知症や精神疾患が原因で支援困難となったケースについて、個別ケースの地域ケア会議を開催した。会議を開催したことで課題が整理され、対象者を必要な支援につなげることができた。 圏域内の薬局と、地域課題解決に向けた地域ケア会議を開催した。 ②旭町地区の地域ケア会議は、新型コロナの影響で開催に至っていない。		
後期	具体的な取り組み状況	①旭町地区での地域ケア会議は、新型コロナの影響で延期になっている。人数の関係で他機関は呼べなかったが、対象となるサークルや関係者と協議することができ、介護予防事業開始に向け準備は進んでいる。 ②薬剤師と連携するための地域ケア会議を開催することができたが、２回目は延期となっている。 ③個別ケースの地域ケア会議は、必要に応じて開催することができた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	個別ケースの地域ケア会議の開催や介護予防事業開始に向けた関係者との話し合いなど、年度当初に目標としたことは行うことができたため。
	次年度に向けた展望	・今年度の地域ケア会議では、世帯全体への支援が必要なケースの場合は障害者基幹相談支援センターや警察など様々な関係機関にも参加してもらった。引き続き関係機関の協力を得ながら地域ケア会議を開催していきたい。 ・薬剤師との地域ケア会議をきっかけに地域でのイベント開催につながった。引き続き地域課題の解決を目的とした地域ケア会議も開催していきたい。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①地域活動を休止している団体が多かった為、上半期はいきいき活動手帳の交付はできなかった。
②希望者には、個別に介護予防のための体操のチラシを渡した。自宅でできる体操の資料は作成中。
③地域のサークルは活動休止しているところと、対策をとりながら活動を継続しているところがあった。緊急事態宣言中の活動について、不安を感じる参加者がいたところには助言した。
④地区部会共催で歩こう会を企画したが、緊急事態宣言の為中止となった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①地域のサークル活動や、セルフケアのための資料をまとめたファイルを作成した。いきいき活動手帳は、活動をしている団体にに対して配布した。
②地域の介護予防サークルや各団体とは随時連絡をとりあい、開催の可否を一緒に検討したり最新情報等を確認していった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>地域活動が制限されていた為、可能な範囲で活動し、感染症対策や介護予防の必要性について情報提供しながら活動した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">地域住民が積極的に健康づくりや介護予防に取り組めるような普及啓発を引き続き行う。
既存の団体が活動を継続できるような活動支援を行う。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="3">千葉市あんしんケアセンター千葉寺</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="3">坂道や細い路地が多い地域であり、商店や医療機関が大きな街道沿いに集中している。また、公共交通機関利用のためには、そのような地形を通って大きな街道沿いまで出る必要性があることから、足腰が弱ることで生活のしづらさが生じる可能性がある。
一人暮らし、高齢者のみで構成された世帯からの相談が多く、複雑化した状況で相談に至ることも少なくない。複雑化する前に家族、近隣住民等が異変に早めに気づけるようセンターや各制度等についての周知が必要である</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="3">世代を問わずに『安心して年を重ねることができる地域』を目指し、関係機関と連携し、介護予防活動の大切さや認知症の理解、意思決定支援の大切さ等を伝え、コロナ禍であっても、地域住民が自身の将来を見据えて地域づくりに取り組めるように働きかけていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="5">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・センター内会議等の機会を捉えて、三職種とSCとで情報共有を行い、地域の情報や地域課題の共有を行っている。
・他のセンターと協働して、活動している団体の相談に乗ったり、安全な開催に向けた情報提供を行い、活動の後方支援を行っている。また、後方支援を行っていく中で、担い手の高齢化や後進への引継ぎの難しさ等の課題の共有を行っている。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・総合事業等を利用する利用者及びその利用者を担当しているケアマネジャーに高齢者実態把握アンケートを実施した。
・1層・2層のSCと連携し、地域活動の実態把握を実施し、随時情報共有を行った。
・地域住民主体の介護予防活動の運営支援、公民館でのシニアリーダー体操教室の立ち上げ、介護予防に関する講座、移動販売サービスの活用等について検討を重ねた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・三職種とSCとの情報共有を密に行い、地域の情報収集や地域の団体の実態把握を行った。
・地域で活動している団体の後方支援を行い、活動の開始や継続支援を三職種とSCと連携して行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・葛城公民館でのシニアリーダー体操の立ち上げ及び開催継続支援、公民館との共催事業（通年開催の講座）の検討等を通して、高齢者の居場所づくりや介護予防活動の必要性や重要性について地域住民に発信していく。
・コロナ禍の高齢者の実態把握のアンケート結果を元に、地域における支え合い活動や見守り活動、自主活動グループの運営の後方支援を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・区内のあんしんケアセンターと協力して、コロナ禍の入退院支援をテーマとした多職種連携会議開催に向けて話し合いを重ねている。
・ケアマネジャー支援を行い、様々なケースについての支援を検討・協議していく中で、医療機関との連携について悩むケアマネジャーの現状把握ができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・区内のあんしんケアセンターと連携し、多職種連携会議の開催を行った。
・個別のケース支援を通して、地域の医療機関との連携を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・新型コロナウイルス感染拡大状況やそれに伴う職員の出勤制限等の影響もあり、圏域内の多職種連携会議については開催を見送った。
・コロナ禍において、センター機能の維持を目的とし、ケース対応を優先する形を取り、個別ケースでの医療介護連携を積極的に行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・「多職種連携会議の開催」を主たる目的とするのではなく、多職種連携会議を通して何を行うのか？という多職種連携会議の在り方について意見交換を行っていく必要がある。
・圏域における医療介護連携の在り方や課題について圏域内のケアマネジャーや医療機関と意見交換の開催を検討していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・金融機関からの依頼で認知症サポーター養成講座を開催し、地域の企業での認知症についての正しい知識を身に着けていただく機会となった。
・医療介護連携班の活動にSCと参加し、認知症施策の推進に取り組んでいる。
・地域のサロンで認知症ケアパスの配布と説明を行い、地域住民に向けて認知症施策や窓口の周知等を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍における認知症サポーター養成講座の開催について、オンラインツールを活用した講座内容を検討し、企業や公的な機関からの開催依頼に応じて開催した。
・認知症地域支援推進員の活動に参加し、医療介護連携について、アンケートの実施や初期集中支援チームとの連携等について検討を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・企業や団体からの認知症サポーター養成講座の開催依頼に応じ、認知症についての正しい知識や対応方法についての周知をはかった。
・認知症地域支援推進員の活動に参加し、他の推進員の方や行政等と連携しながら、認知症の方を取り巻く医療介護連携について検討を重ねた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症についての理解、具体的な対応方法を地域住民が学べる機会の創出や当事者の方を地域で支える体制づくりについて、多機関の人々と検討を行う。（認知症サポーター養成講座の開催、声掛け訓練、見守り配信サービスの活用の企画検討、民生委員やケアマネジャー等との連携）
・認知症の相談窓口の紹介リーフレットの設置等について、地域のコンビニやスーパーなどにアプローチをしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・介護予防ケアマネジメントの手引きを活用して、日々のケース支援、ケアプランチェックを行い、コロナ禍における利用者の自立支援やフレイル予防等の視点について伝えた。
・適切な介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の実施を目的として、ケースによっては、居宅介護支援事業所の研修開催の支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・自立促進ケア会議を通して、適切な介護予防ケアマネジメントの視点の確認及びそれに基づいた助言の在り方について関係機関よりアドバイスをいただき、実践に活かすことにつながった。
・総合事業等を利用する利用者及びその利用者を担当しているケアマネジャーに高齢者実態把握アンケートを実施した。
・支援者に向け、サービスや事業について情報発信をし、資質向上の一助となるようにした。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・自立促進ケア会議の開催を通して、介護予防ケアマネジメントの視点及びそれに基づいた支援について検討を行った。
・利用者やケアマネジャーに向けて、アンケート実施し、要支援１・２の高齢者及びその支援者の実態把握を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・実施したアンケート結果やその分析内容をケアマネジャーに対して提供し、日々のケアマネ実践に役立てていただくよう情報発信を行っていく。
・適切な介護予防ケアマネジメント実践に向けて、介護予防ケアマネジメントの手引き等の活用、三職種で連携した対応を行っていく。併せて、地域住民に対する、介護保険制度の正しい活用に関する周知方法について検討を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・多様な課題を抱えるケースの支援にあたっては、ケース会議での検討、高齢障害支援課や多機関と情報共有・検討を行いながら、対応を行った。
・総合相談記録を分析し、地域課題を抽出を行い、センター内での共有を図った。相談内容や地域課題の可視化については、検討の必要性があることを共有した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・警察や行政機関と連携して、安否確認や身寄りのないケースを初めとした複合的課題を抱えたケース支援を行い、早期解決を目指した。
・総合相談の集計を行い、地域の実態把握を行い、民生委員に報告を行い、実態の共有を行った。
・相談記録の整備については、ICT活用を視野に入れて検討を重ねている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・複合的な課題を抱えるケースについては、各機関や団体と連携をとりながら情報交換やケース対応を実施して、早期解決に繋げた。
・ケース会議を定期的に開催して、センター内の情報共有並びに対応の平準化を目指した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・センター移転に伴い、地域住民や地域の各種機関へのセンターの周知を積極的に行い、ワンストップの相談窓口の機能維持を目指す。
・多機関との連携の継続、センターの機能の周知、職員のスキルアップを目指して、高齢障害支援課と連携してケース振り返りを行っていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・消費者被害を早期発見できるようセンターだよりやケアマネ研修会を活用し情報提供を行った。
・成年後見制度や日常生活自立支援事業が必要なケースに対して関係機関と連携して利用に繋がるように支援した。
・区内のあんしんケアセンターの社会福祉士と協力して、勉強会を開催し、他のセンターや高齢障害支援課との連携を強化した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・圏域内の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所に対して高齢者虐待の予防/早期発見を目指して、高齢者虐待に関する勉強会を開催した。また、権利擁護に関する情報（成年後見制度、消費者被害等の防止）提供を行った。
・高齢障害支援課や中央区障害者基幹相談支援センターと連携して、権利擁護の視点が必要なケースについての支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・高齢者虐待防止や個人情報保護に関する研修の開催や認知症施策についての情報提供等を行い、ケアマネジャーや介護サービス事業所の意識啓発を行った。
・権利擁護の視点が必要なケースについては、他機関と連携して解決を目指した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・既に連携している機関以外にも、移動交番や消費生活センター等と新たにネットワーク構築することを目指し、地域住民の権利擁護について情報発信や働きかけを行っていく。
・高齢者虐待防止についての情報発信をケアマネジャーや、介護サービス事業所、地域住民に対して引き続き周知を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・圏域内事業所が開催する事例検討会のZOOM開催のサポートを行ったり、ZOOM操作に慣れていないケアマネジャー向けの支援を行ったりした。
・ケース支援や個別の地域ケア会議等を開催し、ケアマネジャーの後方支援を行った。
・ケアマネジャーからの要望に応じて、防災をテーマとした研修を開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍の影響を受け、町会活動が縮小している地域の民生委員や町会長と連携し、少人数での介護保険や介護予防に関する講座開催を行った。
・SCと連携し、圏域の公民館と出前講座開催や高齢者の居場所づくりについて意見交換を行った。
・オンラインでの事例検討会の実施や意見交換会の開催等を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・民生委員や町会長と連携し、介護に関する講座開催や地域ケア会議開催、防災についての意見交換を行った。
・SCと連携し、圏域の公民館とや高齢者の居場所づくりについて意見交換を行った
・オンラインでの事例検討会を実施し、継続したケアマネ支援の実践を目指した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・総合事業等を利用している高齢者やケアマネジャー等に実施したアンケート結果をもとに、コロナ禍におけるケアマネ実践についての課題について検討をケアマネジャーと行っていく。
・公民館や民生委員、町内会、地区社協等と連携し、高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるような地域づくりについて意見交換できる機会の開催を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・感染対策を取りながら、オンラインツールを活用し、個別ケースの地域ケア会議開催をした。
・地域包括ケア推進課、高齢障害支援課、区内のあんしんケアセンターと連携しながら、自立促進ケア会議開催のために話し合いを重ねている。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・感染対策を取りながら、オンラインツールを活用し、個別ケースの地域ケア会議開催をした。
・地域包括ケア推進課、高齢障害支援課、区内のあんしんケアセンターと連携しながら、自立促進ケア会議開催のために話し合いを重ねている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・個別ケースの検討を通して、地域の課題（非常災害時の要支援者の支援や避難所運営の在り方）発見に繋がり、多機関と連携して、非常災害時の対応について検討を行う活動に繋がった。
・地域ケア会議の開催は、回数としては、少ない結果となった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・個別ケースの地域ケア会議開催については、随時行い、地域課題の把握に努める。
・地域の課題を地域住民や地域の事業所や相談機関と検討する機会を設け、課題の解決を目指す。
・圏域の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所等と連携し、要支援のケースについて検討を行う機会（ミニ自立促進ケア会議）の開催を目指す。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・総合相談記録を元に、コロナ渦における地域の現状や課題把握の為、対象地域の選定を行った。また、ケアマネジャーや利用者を対象にアンケート実施に向けて検討を重ねている。
・コロナ渦におけるサロン立ち上げ時の後方支援を行った。また、サロンへの参加を通して活動状況・内容の把握、参加者へ感染予防の観点に立ったフレイル予防や健康に関する情報提供を行う事ができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新しい生活様式に基づいて既存の団体の活動（末広交友会、星久喜脳トレサロン、元気倶楽部等）が再開または継続できるよう後方支援を行った。
・参加者の意識付けのために、基本チェックリストやいきいき活動手帳、窓口の周知を図った。
・地域活動を運営しているメンバーにいきいき活動手帳についての周知を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・既存の団体が活動再開または活動継続できるようにＳＣや他のあんしんケアセンターと連携して働きかけを行った。
・総合事業等を利用している方に対して、アンケートを実施し、実態把握に努めた。
・低栄養事業を通して、地域住民への働きかけを行い、意識啓発を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・ＳＣと連携して、新型コロナウィルス感染症の感染状況を見ながら、ウォーキングや屋外体操等の開催を目指す。
・公民館や地域の事業所等と連携し、一人でも運動の機会が持てる機会、直接会わなくても交流機会が持てるような機会の創出について検討を行う（オンラインまたは壁面看板の活用等）。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター松ケ丘</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">新型コロナウィルスの感染拡大で緊急事態宣言発出される状況となり感染症対策として、地域活動の多くが中止や延期となっている。感染者数の増加、高齢者施設の休業により、活動の自粛、フレイルが心配される。
高齢者人口は増加して、単身世帯、高齢者世帯の相談は多く寄せられている。認知症や精神疾患を原因として生活に支障を及ぼしている方や経済的困窮にある方からの相談が多い。また、家族の抱えている問題が高齢者の生活に影響している家庭もあり支援の難しさを感じている。
多くの社会資源はあるが、地域差もあり、介護や活動の担い手、後継者などのマンパワーが不足している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">高齢者一人一人が住み慣れた地域で健康に過ごせるよう地域の実情、特性に即した活動を地域の方と共に行う。
感染症対策、防災対策の観点を持ち、新しい生活様式の考えも取り入れ、ICT等の活用、工夫して介護予防などの地域活動を進めていく。
民生委員、社会福祉協議会、町内自治会連絡協議会、医療機関、生活支援コーディネーターや基幹型相談支援事業所、行政機関と連携を図りながら、地域のネットワーク構築、地域包括システム構築の推進を図るため、積極的に地域に赴き、地域活動への参加、協力、情報収集、社会調査等で地域住民のニーズの把握、実情に合わせた地域づくりに取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・移動販売を実施している事業者・生活支援コーディネーターと連携し、販売場所に来られた高齢者にあんしんの周知や介護予防に資するパンフレットを配布した。
・あんしんと連携して活動していた介護予防教室に関しては、感染予防策を講じながら全て再開し見守り体制を維持している。
・センターで運動と脳トレを合わせた介護予防活動やオンラインによる交流会を実施し、人と人との繋がりを創出した。
・健康課・生活支援コーディネーターと連携し、新今井町にてヘルスサポーター養成講座の実施を検討したが、地域の感染に対する懸念を払拭出来ず開催に至らなかった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・千葉中央警察の移動交番と連携し、定期的にマミーマート・東武ストアであんしん周知や介護予防に資するパンフレット等を配布した。
・「オンラインおしゃべり会」の開催を継続(1回/3か月)しており、少しづつ参加者が増えてきている。
・大巌寺の住民よりラジオ体操の集まりを開催したいとの相談があり、実際的な開催方法を共に検討した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍で集まり合うことが困難な中、野外やICTを活用した方法を検討し実行した。
スーパーでは野外で246名の方に直接話しかけ、現在の生活の状況や困り事をお聞きすることができた。又、オンラインで集まり合うことで、感染予防のため会う機会が無くなってしまった高齢者の状況を確認することができている。大巌寺では公園で月1回ラジオ体操の会が始まり、自主的な見守り体制が整い始めている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="5">・次年度も移動交番や商業施設と連携し、直接住民に生活状況や困り事等を聞いたり、生活や健康に役立つ情報を発信していく。
・
野外活動やICTを活用し、感染状況が悪化しても介護予防や見守り体制を維持できるよう取り組んでいく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・今年5・6月にかけて、圏域内居宅介護支援事業所へ「訪問診療」についてのアンケートを実施。日頃お付き合いのある訪問診療やその特徴について情報収集を図り、結果をまとめる。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・10月に行ったケアマネサロンでは、「在宅医療と介護の連携～訪問診療クリニックから～」という研修会を開催。第1部は訪問診療を行っているクリニックの方から講演いただき、第2部では医療情報の交換会を行った。
・3月に「歯科との連携～オーラルフレイルの基礎知識・歯科の視点で多職種連携を考える～」を開催し、フレイルの入り口であるオーラルフレイルについて学び、連携について考える会議を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・昨年、開催を見送った多職種連携会議をオンラインで開催することができた。歯科の先生方の参加もあり、新たな連携の輪を築くことができた。
・オンラインで研修も開催し、気軽に情報交換を行える場を提供できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="5">・より多くの方が多職種連携会議に参加できるよう、開催の時間や時期を検討し、より有意義な会議の開催に努める。
・SNSを活用した情報交換の場を提供し、その中で医療情報についても情報交換できるようにしていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座の開催。認知症キッズサポーター養成講座の開催。認知症カフェの参加。
・認知症コーディネーター・認知症地域推進委員の活動としてみかんの会に参加。
・若年性認知症のケースに対しご家族、障害者基幹センター、若年性コーディネーター、ケアマネ、あんしんで今後の方針について話し合いの場を持った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症カフェ（淑徳オレンジカフェ）は生活支援コーディネーターとともに毎月参加した。
・認知症サポーター養成講座を7回実施。認サポキッズは圏域内中学1年生を対象に4か所で実施した。
・認知症推進員活動としてみかんの会（チームオレンジ、ステップアップ講座）の班活動に参加した。
・初期支援集中チーム、若年性認知症コーディネーターと連携し支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症カフェは継続し参加しているのでコミニュニケーションが築けてきている。
・認知症サポーター養成講座は地域で行うこともあるが、対象者によりオンラインでも行っている。
・みかんの会活動は本人ミーテイング（3回）、ステップアップ講座を6区で開催している。
・困難ケースは初期集中支援チーム、若年性コーディネーターと連携し関わっている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症の方が住み慣れた地域で生活を続けるため、認知症への理解を深めるための普及、啓発を推進する。
・認知症サポータ養成講座（企業、一般）認知症サポータ養成講座（圏域内中学1年生）の開催。
・RUN伴、メモリーウオークなど行事への参加協力
・初期集中支援チーム、若年性認知症コーディネーター―と連携し、相談対応を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新型コロナウィルス感染症の状況がなかなか好転しない中、感染対策に十分な配慮をし、介護予防・日常生活支援事業の利用者に対し、セルフマネジメントが出来るよう支援している。・利用者の課題を共に確認し、現在の情勢の中でも設定した目標が達成できるようインフォーマルサービス等を提案している。・新たな集いの場への参加は難しい状態であるため、感染予防対策が確立している既存の集いの場への参加を活用するよう支援している。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新型コロナウィルス感染症の状況を鑑み、訪問・モニタリング、サービス担当者会議等対応している。基本チェックリスト実施し、利用者自らが自身の状況を把握出来るように支援している。 ・
的確なアセスメントにより利用者の課題を利用者と共有している。達成可能な目標を設定し、それに向けてサービス提供している。生活環境に応じた地域の集いの場を勧め、活用している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・感染対策が継続されている中状況の変化にも柔軟に対応し最善の支援を行っている。
・アセスメントし利用者の課題に対し真摯に対応し、利用者と共に解決に向けて目標設定、サービスの提案提供をしている。 ・
利用者それぞれの生活状況、地域性を考慮し可能な社会参加を促している。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・感染対策が引き続き続くと思われる。感染対策は怠ることはなく、利用者と共にQOLの維持向上を目指し、支援していく。 生きがいや課題を利用者自身が持ち、目標達成に向けてサービスの提案提供をしていく。
・新型コロナウィルス感染症について現在までの経験を生かし、状況に応じた社会参加やインフォーマルサービスの活用をしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3 総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターとも協力しながら、今年度は蘇我コミュニティセンターでの出張相談会を開催し、これまであんしんケアセンターを知らなかった方への周知を行うことができた。
・毎朝のミーティングや、月1回の総合相談ミーティングで支援内容の共有、検討を行い。困難ケースに関しては別途所内ケース会議を設け検討することができている。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・蘇我コミュニティセンターと連携し、出張相談会を2回開催した。
・あんしんだよりを年2回発行し、健康についてや消費者被害の注意喚起、身近な相談窓口の案内をした。
・総合相談支援では、適切な支援や継続的な見守りをするために、多職種と協議しながら対応した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>今のセンターの場所にとどまらず、人が集まり、相談しやすい場所として蘇我コミュニティセンターと連携し、出張相談会を開催することができた。
個別ケース対応では基幹相談支援センターと連携し、本人や家族の状況に合わせて対応することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・センターから遠い場所に住んでいる人も相談しやすいように、出張相談会を開催したり、周知活動を行う。
・総合相談支援について、今後も複数名対応や多職種で関わり支援の検討をしていく。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	高齢者虐待防止について、蘇我コミュニティセンターで出張相談会を開催した際に、地域住民に早期発見と相談先を呼びかけた。 地域のラジオ体操終了後、千葉中央警察署と連携して、月1回詐欺防止や交通安全について注意喚起を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・今年度は生活支援コーディネーターと共同し、圏域の全事業者向けに高齢者虐待防止研修を行った。 ・あんしん職員が講師となって任意後見人やエンディングサポートについて講座を行った。 ・あんしんだよりの臨時号で消費者被害を特集し、配布した。後期も、小塚台公園で行われているラジオ体操終了後に移動交番による消費者被害の講話を月に1回行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	コロナウイルス感染拡大のため、民間企業と連携した大人数での講座を行うことはできなかったが、Zoomを活用したり、屋外、短時間、少人数などの講座を行なうことで、年度計画がほぼ達成していると評価している。
	次年度に向けた展望	・今年度の高齢者虐待防止研修は、初めて生活支援コーディネーターと共同し、「地域で見守る支援体制の構築」をテーマに2部構成で行った。来年度も、虐待の基礎とともに、事業所に有益な情報を発信していく。 ・Zoomの活用や屋外で行うなど、感染状況を鑑みて、地域住民、民生委員、事業所向けに権利擁護の講座を行う。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	高齢者虐待防止について、蘇我コミュニティセンターで出張相談会を開催した際に、地域住民に早期発見と相談先を呼びかけた。 地域のラジオ体操終了後、千葉中央警察署と連携して、月1回詐欺防止や交通安全について注意喚起を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・R3.10.13ZOOMを活用したケアマネサロンを開催した。また、R4.1.13同じくZOOMを活用した圏域の特定事業所の主任介護支援専門員が主催した事例検討会の後方支援を実施した。 ・R4.3.10松ケ丘圏域多職種連携会議をZOOMにて開催した。 ・圏域の居宅介護支援事業所の紹介をあんしんケアセンター松ケ丘広報誌にて行った。 ・引き続き圏域内外の介護支援専門員の皆様から困難事例等の相談を多く受け、対応を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	ZOOMの扱いにも慣れ、圏域の特定事業所の主任介護支援専門員主催の事例検討会では、後方支援としてZOOMの操作を行うことで、コロナ禍でも開催することができた。行政からも参加いただくことができ、多様な意見を聞くことができた。
	次年度に向けた展望	・例年通り圏域内外の居宅介護支援事業所にアンケートを行う。 ・実務的な内容を中心とした研修会を開催する。併せて圏域の特定事業所の主任介護支援専門員主催の事例検討会も後方支援も継続する。 ・SNSを活用した介護支援専門員同士が気軽に情報交換できる場を提供する。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・定期的に開催している白旗1丁目地区の地域ケア会議は、自治会長や民生委員と相談し感染対策を行い開催した。 ・地域ケア会議個別ケース会議は、介護支援専門員からの相談内容に応じて、特に困難と思われるものや、警察や成年後見支援センター、障害者基幹相談支援センターなど多くの関係機関の協力が必要なケースに関しては、感染対策を行い開催した。 ・コロナで実施できなかったに仁戸名町団地の管理者、行政、住宅公社、自治会長（民生委員）を交えて地域ケア会議を開催し、課題やニーズの把握をした。		
後期	具体的な取り組み状況	・定期的に開催している白旗1丁目地区の地域ケア会議は、感染対策を行い開催したが、まん延防止等重点措置が出てからは、自治会長、民生委員と相談し中止せざるを得なかった。 ・地域ケア会議個別ケース会議は、介護支援専門員からの開催要請や相談内容に応じてあんしんからの提案により、特に支援困難と思われるケースについて、事業所の他、警察や成年後見支援センター、行政等関係機関を交えて開催した。 ・仁戸名町団地については管理者、行政、住宅公社、自治会長（民生委員）を交えて定期的に地域ケア会議を開催し、課題やニーズの把握をした。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・今年度蘇我地区の地域ケア会議を目指していたが、コロナ感染状況に波があり、開催までに至らなかった。 ・仁戸名町団地との地域ケア会議が定期開催できるようになる。地域とのつながりの一助となった。 ・白旗1丁目地域ケア会議については、まん延防止が出るまでの間は定期的に開催でき、地域課題について情報共有、収集、個別地域ケア会議につなぐことができた。 ・個別地域ケア会議は介護支援専門員からの開催希望もあり、身近な会議になりつつあるのかと思われる。
	次年度に向けた展望	・白旗1丁目地域ケア会議や個別地域ケア会議については、今後も感染対策を行いながら実施していく。 ・蘇我地区について次年度、蘇我5丁目を中心とした地区と大巌寺町についても圏域内で2番目に高齢化率が高い為、自治会、民生委員を中心とした地域ケア会議の開催を計画する。 ・仁戸名町団地自治会の地域ケア会議が今年度定期的に開催できるようになった為、次年度も継続し、地域特性にあった活動の他、介護支援専門員にも個々のケースについて相談の場としてつなげていけたらと思う。		

<table>
<tr><th colspan="6">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・新型コロナウイルス感染症の影響により、健康課と連携しての介護予防活動は出来なかったが、生活支援コーディネーターと連携し、『セルフケア・介護予防』を周知する地域通信を新たに作成し、昨年回れなかった高齢化率の高い自治会を中心にポステイングを実施した。
・コロナ禍においても活動をしている既存の通いの場に出向き、感染予防及び介護予防の普及啓発を図った。
・フレイル予防として、センターで新たに介護予防の取り組み（脳トレ活動・オンラインおしゃべり会）を開始した。
・生活支援コーディネーターと連携し、地域で新たに立ち上げた介護予防活動にあんしんケアセンター千葉寺と共同で、フレイル予防の周知促進を開始した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・星久喜地区の脳トレサロンの立ち上げを支援し、開催時は介護予防に資する情報を発信した。
・蘇我いきいきセンターと連携し、生きがい活動教室参加者63名に感染予防及び介護予防の普及啓発を図った。
・「がんばろう脳トレ会」を主催し、現在46名が通いで行う脳トレ活動に参加している。
・オンラインおしゃべり会では、リモートで体操をしたり介護予防に資する情報を発信した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・通いの場の立ち上げでは主催者を後方支援してきた。立ち上げ後も課題を共に検討するなど活動の継続支援を行っている。
・感染予防に配慮した新しい形の介護予防活動を開始した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="5">・今年度開始した新しい形(ICTの活用、センターに通いで行う脳トレ)の介護予防活動については、参加者を増やすと共に内容の充実を図る。
・健康作りに熱心な高齢者に声かけし、新たな通いの場を創出を検討する。
・通いの場に出向き、介護予防に関する情報を発信する。又通いの場が継続するよう後方支援を行う。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター浜野</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">この圏域は内科疾患で入院できる病院がなく、医療機関も少ない。また、大型スーパーや銀行といった生活に密着した施設が少ないため、運転をやめた高齢者は日常生活に支障が出始めている。中央区内では最も高い高齢化率だが、介護保険の認定率は一番低く、介護保険サービス利用に対して閉鎖的であることがわかる。新型コロナ感染予防のため、地域活動を休止している団体も多く、担い手の高齢化や活動の継続に課題がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">高齢者が周囲の支援を受けながらも、住み慣れた地域でできる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を深化するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。また、地域共生社会の足がかりになるよう、高齢者以外の方にもセンターの周知活動を行い、地域活動にも積極的に参加する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・社協生浜地区部会が実施している「いきいきサロン」の再開に向けて、地区部会高齢者委員会の役員との意見交換を実施した。屋外での活動や段階的な再開について提案し、1月再開に向けてスタッフも交えて検討していくことになった。
・新型コロナ感染症の収束が見えない中では、「安心サポート生浜（仮称）」立ち上げの検討は難しい状況が続いている。個人宅への訪問を主とした支えあい活動への危機感も強く、意見交換会の目途はたっていない。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・1月に入り、まん延防止等重点措置が発令されたため、地区部会の活動は休止状態が継続されているが、定期的に部会長や役員へ連絡することで、状況の共有や関係性の構築は図れている。こちらから再開を強く促すのではなく、不安や心配を受け止め、新たな形での開催方法を提案することもできたが、実施には至らなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・社協生浜地区部会の活動はほぼ休止状態となっている。1月から再開予定であった「いきいきサロン」は、『感染者数が増大していること』『ワクチン接種を優先とすること』から、再開に向けての話し合いの機会を持つこともできなかった。現時点では、再開の目途も立っていない。意見交換は実施できなかったが、役員へは定期的に連絡して、状況を確認している。
・部会長から、「安心サポート生浜（仮称）」立上げの意向は確認できたが、具体的な活動には至っていない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・1月に入り、まん延防止等重点措置が発令されたため、地区部会の活動は休止状態が継続されているが、定期的に部会長や役員へ連絡することで、状況の共有や関係性の構築は図れている。こちらから再開を強く促すのではなく、不安や心配を受け止め、新たな形での開催方法を提案することもできたが、実施には至らなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・いきいきサロンは2年以上休止している状況のため、再開にあたっては、役員やスタッフの意向や不安を丁寧に聞き取り、スタッフが不安なく、参加者も安心して参加できるように、感染症対策や新たな形での開催の具体例を提案する。
・サロン再開の見通しが立っていないため、センター主催で介護予防教室を開催する。また、感染予防に配慮した自主活動につなげられるように、屋外活動の提案を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・医療機関が実施する研修会や連携会議には積極的に参加し、ネットワーク構築に努めた。
・センター主催の介護予防教室や研修会は、圏域内の訪問看護事業所の協力を得て開催することができた。
・地域課題（一人暮らしの高齢者支援）の提議がもととなり、在宅医療・介護連携支援センターと連携し、支援者向けの手引き作成を検討していくことになり、作成委員会のメンバーとして検討会に参加した。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・圏域の多職種連携会議であがった一人暮らし高齢者支援という地域課題の解決に向けて、手引き作成委員会のメンバーとして、完成させることができた。
・ピアサポートカフェ開催に向け、訪問看護ステーションと連携することができた。
・圏域多職種連携会議開催に向け動いていたが、コロナ感染拡大で書面開催とした。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・R2年度の多職種連携会議の地域課題より、在宅医療・介護連携支援センターと連携して、「おひとりさま支援の手引き」を作成し、完成したパンフレットを各関係機関へ配布することができた。
・訪問看護ステーション管理者の参加協力を得て、癌患者と家族のためのピアサポートカフェを2回開催した。
・生浜地区緊急捜索ネットワークの発足を圏域多職種連携会議で周知するよう、座長医師と打ち合わせた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・圏域の多職種連携会議であがった一人暮らし高齢者支援という地域課題の解決に向けて、手引き作成委員会のメンバーとして、完成させることができた。
・ピアサポートカフェ開催に向け、訪問看護ステーションと連携することができた。
・圏域多職種連携会議開催に向け動いていたが、コロナ感染拡大で書面開催とした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・医療機関が開催する研修会や連携会議に積極的に参加し、情報収集やネットワーク構築に努める。
・コロナの感染状況が落ち着いたら、圏域多職種連携会議を対面で開催し、関係機関との連携強化を図る。
・ピアサポートカフェの開催を継続する。また、癌以外の疾病についても開催を検討する。開催にあたっては、生活支援コーディネーターや訪問看護ステーション等の関係機関と連携を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・公民館の依頼で「認知症と生活習慣」の講演を行った。また、受講者対象に認知症サポーター養成講座も開催した。
・認知症の相談で、受診につながっていないケースは、認知症初期集中支援チームと連携して対応した。
・コロナ感染予防で外出自粛した高齢者の認知症相談の増加を受け、浜野圏域多職種連携会議参加者に向けて「認知症に優しい町づくり検討委員会」への協力を呼びかけて、委員会を発足することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症疑いの未受診の相談については、認知症初期集中支援チームに相談の上、連携して対応することができた。
・塩田町の老人クラブからの依頼を受け、12月9日に認知症サポーター養成講座を開催した。また、サポーター名簿の登録者には、ステップアップ講座を案内して、地域の支援体制の基盤づくりを推進した。
・「生浜地区緊急捜索ネットワーク」の協力要請のため事業所訪問を実施し、ネットワークを発足することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・近隣施設から認知症疑いの高齢者の相談を受け、認知症初期集中支援チームと連携し、病院受診や治療につなぐことができた。
・コロナ感染予防対策を優先するため、認知症カフェの開催はできなかった。
・関係機関の協力を得て、「生浜地区緊急捜索ネットワーク」を構築することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・「生浜地区緊急捜索ネットワーク」を活用した徘徊模擬訓練開催に向けて、多職種で検討する機会を設ける。
・認知症への理解を深めるために認知症サポーター養成講座を開催する。受講者をチームオレンジや認知症カフェ等の認知症の方への支援につなげられるように、生活支援コーディネーターと連携する。
・認知症の相談には、認知症疾患医療センターや初期集中支援チームと連携して対応する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・居宅介護支援事業所に委託している利用者の書類については、事業所ごとに必要書類の一覧を作成し、パソコン上で確認することができている。不足があれば、その都度事業所に依頼し、適切な管理ができた。
・地域のインフォーマルサービスがケアプランに位置づけされるよう、生活支援コーディネーターと連携し、「圏域内社会資源ガイドブック」を紹介した。また、ケアマネ通信を活用して「千葉市の生活支援サイト」にある情報の検索方法について案内した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・居宅介護支援事業所に委託している利用者の書類について、パソコン上で提出状況を管理し、確認している。不足があれば、その都度、事業所へ連絡して提出依頼を行い、適切に管理することができた。
・センター職員が担当している要支援者のケアプランについて、プランの記載方法やインフォーマルサービスの位置づけ等がされているかどうか、プランチェックを実施した。書類に不備、不足がないか各自自己点検を実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・介護予防支援事業所として、センター分の書類の自己点検とケアプランチェックを実施した。他職員のケアプランを共有することで、課題の抽出から導くサービス利用の理由付けやインフォーマルサービスの位置づけを学ぶ機会にもなった。
・委託分の書類については、パソコン管理することで適切に実施できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・要支援者（センター及び委託）のケアプラン内容について、どのようなインフォーマルサービスがプランに組み込まれているか、統計を取ることで町別の傾向を探る。また、生活支援コーディネーターと連携し、周知されているサービスや不足しているサービスや地域資源について検討する。
・居宅介護支援事業所に委託している利用者の書類管理を適切に行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・あんしんケアセンターの周知活動として、2ヶ月に1回広報紙を発行し、自治会で回覧してもらった。
・遺言作成等の相談に対応できるように、センター近隣の司法書士事務所を訪問し、遺言の作成や死後事務委任契約等について情報収集を行った。
・基幹相談支援センターが主催する「8050問題部会」に所属し、関係機関と連携して講演会を開催することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・あんしんケアセンターの周知活動として２ヶ月１回の広報紙発行を継続し、町内自治会で回覧してもらった。小田急浜野団地では、センターの役割を詳しく知りたいとの要望を受けて、広報紙とは別に「おしごと通信」を第３号まで発行した。
・浜野町内会報の記事を見て、県立生浜高校を訪問し、生活困窮やヤングケアラーの実態を共有した。
・三職種会議で実態把握ケースについて進捗を確認し、支援内容について検討し、チームアプローチを実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・周知活動としての広報紙の定期発行を継続することができた。あんしんケアセンターの具体的な業務内容を事例を交えて紹介して欲しいとの要望を受け、「おしごと通信」を発行し、理解を深めてもらうことができた。
・こちらからの働きかけで、高齢者以外の相談の現状について学び、共有することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・次年度も地域活動の縮小継続が予想されるため、2ヶ月に1回広報紙を発行し、身近な相談窓口としてのあんしんケアセンターの周知活動を継続する。また、地域把握を実施する重点地区には「おしごと通信」の発行を有効活用する。
・基幹相談支援センター等の高齢者以外の関係機関とも連携し、ワンストップ対応ができる体制を整備する。
・総合相談の全ケースを毎月三職種会議にて共有し、必要に応じてチームアプローチを実践する。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・息子からの身体的虐待を理由に保護を求めてきた高齢者に対し、高齢障害支援課と連携して対応することができた。 ・千葉中央警察生活安全課に詐欺等への注意喚起の冊子やパンフレット等の配付について相談し、小田急浜野団地自治会アンケートに同封して配布することで、地域住民への消費者被害防止の普及啓発を行うことができた。 ・地域で実際にあった消費者被害についてケアマネ通信を作成し、居宅介護支援事業所へ普及啓発を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域内の居宅介護支援事業所・訪問介護・通所介護・福祉用具貸与・訪問看護事業所を対象とし、高齢障害支援課の協力を得て、12月13日に虐待防止研修を開催した。 ・「権利擁護が必要な方の気づきとその対応」の内部研修を行い、事例を通して成年後見制度について学んだ。 ・消費者被害の相談事例を広報紙にまとめ、回覧による周知活動を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・虐待防止研修に高齢障害支援課を招くことで、昨年度よりも多くの方に参加してもらうことができ、虐待の早期発見の重要性について考えてもらうことができた。 ・消費者被害については、実際の相談事例を用いて周知活動を行うことができた。 ・成年後見の相談はなかったが、どのような人に必要なのかをセンター内で共有できた。
	次年度に向けた展望	・虐待相談は迅速に対応できるよう情報共有に努め、高齢障害支援課との連携を密に図る。状況に応じて、緊急保護や措置入所の実施を求める。また、早期発見のため、事業所に向けて虐待事例の共有や研修を行う。 ・成年後見制度制度の理解を深めるために、外部研修の参加や内部研修を活用する。 ・成年後見制度や消費者被害防止の普及啓発のため、広報紙や介護予防教室を活用する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・5月11日に浜野圏域ケアマネ連絡会を開催し、集団指導・介護報酬改定についての確認・意見交換会を実施した。 ・6月30日の浜野圏域事例検討会は、圏域内事業所2ヵ所の主任ケアマネが中心となり企画・運営し、開催できた。 ・圏域内訪問看護事業所と連携し、圏域居宅・訪問介護・通所介護事業所を対象に「感染症について」の研修会を9月28日に開催した。生活支援コーディネーターと連携し、ケアマネ通信（消費者被害・地域情報について）を発行した。		
後期	具体的な取り組み状況	・民生委員との地区別意見交換会を２月14.15日に開催した。コロナ禍で個別訪問を控えている民生委員と、個別ケースを共有し支援の方向性について確認することができた。新しい民生委員との顔合わせの機会にもなった。 ・圏域事例検討会を10月11日開催した。1月18日開催予定については、コロナ感染者数の増加により中止した。 ・圏域内居宅介護支援事業所(8ヶ所）と、事業所毎の意見交換会を２月1.2.3.7日に実施した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・昨年度未開催であった民生委員との地区別意見交換会を、感染症対策に努めて開催することができ、連携強化が図れた。 ・居宅介護支援事業所との意見交換を通して、研修会や事例検討会を開催することができた。顔の見える関係性も構築できており、地域課題抽出の際にも参考にしている。
	次年度に向けた展望	・圏域内居宅介護支援事業所と連携を図り、要望を確認しながら、事例検討会や研修会を開催する。また、必要な情報について、生活支援コーディネーターとも連携して、ケアマネ通信を随時発行し、情報発信する。 ・来年度は民生委員の大幅改定が予定されているため、地区別意見交換会を開催して関係性の構築に努める。 ・介護支援専門員の個別相談に対し、三職種協働で支援を実施し、必要に応じ個別地域ケア会議を開催する。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・昨年度実施した角栄団地アンケート結果をもとに、自治会と連携を取りながらできる活動について検討の場を持ちたいと働きかけているが、緊急事態宣言発令中は難しいとの相手方の意向で保留となっている。 ・自治会と連携し、小田急浜野団地を対象に地域課題の把握を目的とした全戸アンケートを実施することができた。 ・「認知症に優しい町づくり検討委員会」を地域ケア会議に位置付けて、開催することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・認知症徘徊高齢者の支援について、中央警察署にも参加頂き、11月29日に個別地域ケア会議を開催した。 ・小田急浜野団地のアンケート結果をもとに、自治会役員と10月17日、12月19日に地域ケア会議を開催した。住民の高齢化による困りごとや自治会役員就任の負担などの課題を共有することができた。 ・角栄団地アンケート結果をもとに地域ケア会議を開催する予定であったが、新自治会長と連携できず未開催である。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・ケアマネの依頼を受け、関係機関も交えて、個別地域ケア会議を開催することができた。 ・小田急浜野団地アンケート結果から、自治会活動や高齢者対策を検討する地域ケア会議を開催することができた。角栄団地のアンケート結果を活用することはできなかったが、自治会長の交代によって、自治会活動の継続の難しさを改めて確認することができた。
	次年度に向けた展望	・センターに寄せられる相談傾向や、ケアプランから確認できるサービス利用の内容とインフォーマルサービスの活用状況を地域別に整理して、生活支援コーディネーターと連携して町別の地域ケア会議を開催する。 ・浜野町町内会と連携し、地域課題の把握を目的とした全戸アンケートを実施する。 ・小田急浜野団地アンケートの結果をもとに、高齢者対策や困りごと解決に向けた地域ケア会議を開催する。		

<table>
<tr><th colspan="6">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・センター会議室開催の体操教室、フラワーアレンジメントを継続できるよう感染症対策の後方支援を実施した。
・屋外活動の「生浜歩こう会」を立ち上げ、地域リハビリテーション活動支援事業を活用し５月21日に第1回を開催した。
・全ての活動参加者にいきいき活動手帳を交付し、日々の体調や参加状況の確認とフィードバックを行い、モチベーションの維持に役立てている。シニアリーダーは休止中だが、再開時期についてを役員と意見交換し、検討することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・センター会議室開催の体操教室、フラワーアレンジメントを継続できるよう感染症対策の後方支援を実施した。
・地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、第2回「生浜歩こう会」を11月10日に開催した。
・活動参加者全員にいきいき活動手帳を交付し、日々の体調管理や参加のモチベーションの維持に役立てた。シニアリーダー体操は休止中だが、定期的に意見交換を重ねた。また、シニアリーダー研修修了者と地域課題を共有した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・感染症対策を後方支援することで、概ね活動が継続できている。また、活動終了後の「プチ講座」開催や、資料を配布するなど、高齢者を含む地域住民へセルフマネジメントを支援できた。
・コロナ禍での介護予防を推進すべく、屋外活動の「生浜歩こう会」を継続開催できた。
・いきいき活動手帳を使用して、感染予防と体調管理に役立てることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・感染状況や気候を勘案しながら、「生浜歩こう会」を開催し、自主化に向けて地域選別や人材の発掘を進める。
・センター会議室で実施している活動が継続できるように、引き続き感染対策の後方支援を実施していく。
・生活支援コーディネーターと連携して、地域住民に活動の情報提供を行う。
・いきいき活動手帳の効果的な活用方法について、他センターの取組等の情報収集を行い、センター内で検討する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンターこてはし台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">・センター所在地であるこてはし台は高齢化率が５０％を超えており、高齢世帯や独居高齢者が多い。ボランティア団体などの支援者側も高齢化が進んでおり今後の支援体制に不安がある。
・１６号より北側（センター事務所より距離がある地域。）の宇那谷町、大日町、内山町、み春野地区では、人口密度が低くセンターへの相談件数が極端に少ない地域。通いの場やインフォーマルな社会資源も少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・こてはし台地区での地域ケア会議（年2回）を継続し、地域のネットワーク構築を図る。
・16号より北側の地域に対して、早期対応・早期支援ができる体制づくり、介護予防普及啓発活動を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・第1層生活支援コーディネーターとの連携（生活支援コーディネーター会議の参加）し、新たな社会資源の情報共有（移動販売等）を行った。ケアマネ等に情報提供を行い社会資源の活用を行った。
・コロナの影響から経済的困窮世帯に対して、区社会福祉協議会と連携し経済面の支援を行った。
・地域特性（各地域の年代別人口統計、地区資源等）をセンター内で共有を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・地域特性（各地域の年代別人口統計、地区資源等）をセンター内で共有し地域のニーズ把握を行った。
・第2層生活支援コーディネーター配置に向けて求人等行ったが配置できなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・圏域での地域特性を把握することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・第2層生活支援コーディネーター配置に向けて取り組みを行う。
・地域特性からセンターで活動する重点エリアを定め活動を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・前年度は、少人数での多職種連携会議の開催（ZOOM）となったが今年度は、参加人数を増やし開催した。（サブセンターとして参加）多職種間の連携や情報共有のポイントを確認することができた。
・あんしん看護職会議においては、病院相談員参加し、入退院支援についての情報交換を行うことができた。
・在宅医療・介護連携支援センターとの連携を図り、適切な機関へ繋ぐ事ができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・ICTを活用しハイブリット方式で多職種連携会議（地域ケア会議）を開催することができた。
・あんしん看護職会議においては、各あんしんケアセンター圏域の地域診断を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・ハイブリット形式で多職種連携会議の開催を行えた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・ICTを活用した圏域での多職種連携会議を開催する。
・医療機関等の主催する連携会議、研修会に積極的に参加し医療との連携を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・8月7日　206地区民生委員児童委員むけに認知症サポーター養成講座を開催した。
・オリーブハウスと認知症カフェ開催（令和2年度からの企画）に向けて、検討を行ったが地域活動が再開していない中でカフェを行う事が困難であると判断し延期となった。
・認知症初期集中支援チームとの連携が図れ、早期受診・介護保険サービスの利用等に繋ぐことができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・前年度はコロナで中止となっていた、柏井高校認知症サポーター養成講座を行った。
・オリーブハウスと認知症カフェ開催（令和2年度からの企画）に向けて協議を行ったが地域活動が再開していない中での開催、コロナ感染者数が増えていることから延期となった。
・センター内で、高齢者見守り訓練行う地域を検討した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・若年層に対して（高校生）認知症サポーター養成講座の開催ができた。
・認知症カフェの開催に至っていないが、協議は継続できている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座の開催及び、高齢者見守り訓練の実施を行う。
・令和2年度から企画している、こてはし台地区での認知症カフェを開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・重点項目である16号からの北側エリアについて、自治会長（み春野）と出張相談会・介護予防の活動の場について、相談を行ったがコロナの影響があり実施することができなかった。
・いきいきプラザ主催の健康相談フェスティバルに参加（コロナ禍のため予約制）し、チェックリストを活用して介護予防と生活習慣のアドバイスを行った。また、プラザにて出張相談会の実施を行った。（あんしんケアセンアーさつきが丘と共催）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活の中で、介護予防に取り組みができるように広報誌やセンター掲示板を活用し情報発信を継続することができた。
・地域サロン等の再開に向けて、生活支援コーディネーターと連携し、運営状況の確認と支援を行った。
・重点エリアの活動については、自治会長（地区部会長）と協議（出張相談会・介護予防の活動の場）を行ったがコロナの感染拡大の影響があり、実施することができなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域サロンの活動再開にあたり、生活支援コーディネーターと情報を共有の上、運営状況の確認、支援を行いサロンの参加を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・いきいきプラザの改修工事に伴い出張相談会が行えていないため、他の場所で行えるか検討を行う。
・地域サロン等の再開に向けて、生活支援コーディネーターと連携し後方支援や新たな活動の場を開拓する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者のみの支援だけではなく、花見川区障害者基幹相談支援センターとの連携を図り、世帯としての支援を行った。
・複合的な課題に対しては、ホワイトボードを使い3職種で緊急性の判断、支援方法、終結について検討を行った。
・民生委員会議に参加しコロナ禍で活動制限下での支援体制を確認することができた。連携を図ったことで民生委員・児童委員からの相談を受け、対象者への支援が行えた。</td></tr>
<tr><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・花見川区障害者基幹相談支援センター主催の花見川区地域部会に参加し、地域課題把握と、介護保険と障害サービスの違い、支援課題等の情報共有を行った。
・花見川区障害者基幹相談支援センター主催の研修会に参加し障害サービス分野についての知識向上を図った。
・民生委員児童委員との連携を図り、相談内容や支援経過やアプローチ方法などを、適宜進捗報告をすることで、関係性の構築ができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・花見川区障害機関相談支援センターとの連携し、世帯での支援が行えている。
・地域の関係機関とのネットワークを構築し、支援対象者へのアプローチを行う事ができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・包括３職種で複合的な課題に対して、緊急性の判断、支援方法、終結について検討行う。
・チームアプローチを行い、関係機関と連携を図り適切な相談機関に繋ぎ支援を行う。
・総合相談の内容や支援者との情報交換により地域課題を検証し、地域ケア会議に発展させる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td></td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・千葉市消費者センターとの連携を図り、クーリングオフ制度を活用し消費者被害を未然に防ぐことができた。
・成年後見支援センター、NPO法人と連携し成年後見制度、日常生活自立支援事業を活用し金銭管理等の支援が行えた。
・センター掲示板を活用し、消費者被害等の注意喚起を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・あんしんケアセンター内で虐待対応の研修を行う事ができた。
・新型コロナ感染拡大の為、地域住民を集めて講演会や勉強会の開催はできなかったが、権利擁護の情報をあんしんケアセンター前に掲示した。重点活動地域には、消費者被害の注意喚起のチラシを配布し、権利擁護について関心を持ってもらえるよう情報発信した。
・圏域の居宅介護支援事業所に、消費者被害について注意喚起のチラシを配布する事ができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍で出張して啓発する事は難しい状況であるが、あんしんケアセンター前の掲示板やケアマネジャーが集まる機会等を活用し権利擁護に関する情報を提供することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・あんしんケアセンター内での虐待対応（チーム協議）について意識が高まるよう、あんしんケアセンター内で虐待対応の研修を行う。
・あんしんケアセンター前掲示板や、地域と交流する機会等を活用して権利擁護に関する情報を提供していく。</td></tr>
</table>

5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域主任ケアマネの会を継続開催し、地域課題（こてはし台1丁目から6丁目駐車場問題）について各介護保険サービス事業所へのアンケートの実施を行った。 ・センター内での事例検討や区あんしんケアマネ会議を毎月行い、センター職員のアセスメント向上を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・ＩＣＴを活用しハイブリッド形式で地域ケア会議（こてはし台1丁目から6丁目の駐車場問題）を行った。 ・委託している介護支援事業所向けに、合同連絡会（自立支援に資する介護予防ケアマネジメント）の開催を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・地域ケア会議、合同連絡会を計画通り開催することができた。
	次年度に向けた展望	・地域ケア会議（こてはし台1丁目から6丁目の駐車場問題）の課題等を整理し課題解決について取り組む。 ・各圏域内の介護支援事業所数が偏りがあり、圏域主任ケアマネの会を再編（2～3圏域合同）しケアマネ集い（花見川区介護支援事業所向け研修）を開催する。 ・区内のあんしんケアセンターの勉強会を継続し、事例検討を通じてアセスメントと指導方法等の質を向上を図る。		
6　地域ケア会議				
	具体的な取り組み状況	・相談ケースによって地域ケア会議の開催を検討していたが、対面式の会議開催が困難であり未開催となった。 ・個別ケア会議の分析（どこの地域で、どのようなケースの会議を行ったか）を行った。		
前期	具体的な取り組み状況	・圏域主任ケアマネの会で検討していた地域ケア会議の開催（こてはし台1丁目から6丁目駐車場問題）を行うことができた。 ・個別の地域ケア会議については、都度ケースによって検討したが、コロナ感染拡大の影響が重なり開催することができなかった。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・相談ケース等によっては個別ケア会議を検討したが、コロナの影響があり開催することができなかった。
	次年度に向けた展望	・地域ケア会議の定期開催に向けて、各自治会や民生委員児童委員と協議していく。		
7　一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・地域行事、イベント、サロン等中止が続いている中で、センター前の掲示板や広報誌（リーフレット）の配置行った。 ・月二回行っているはつらつ元気教室では、新たに歩行動作等の測定会を取り入れ、数値化し参加者の意識向上努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・出張相談会（いきいきプラザ職員）を活用し各社会福祉協議会地区部会エリアで開催（健康測定会、出張相談会）をあんしんケアセンター内で企画していたが、コロナの感染者数が増え開催することができなかった。 ・はつらつ元気教室参加者に対していきいき活動手帳（１２名）の活用が行えた。 ・シニアリーダ体操教室再開に伴い、各開催エリアに参加し後方支援を行うことができた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・いきいきプラザの出張相談会を活用した健康測定会もコロナの影響であんしんケアセンター内での企画止まりとなった。 ・シニアリーダ体操教室再活動に向けて後方支援を行うことができた。 ・いきいき活動手帳の活用が行えた。
	次年度に向けた展望	・コロナの感染状況にもよるが、あんしんケアセンター内で企画した健康測定会、出張相談会の開催を行う。 ・あんしんケアセンターの周知や介護予防啓発を行うために広報誌配布個所を増やす。 ・いきいき活動手帳（配布者）への継続的な支援を行う。		

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター花見川</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">センター所在地である花見川団地は昭和43年に建てられた大型団地であり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域でもトップの高齢化率（平均43.7%）である。相談件数も花見川団地で約半数以上を占めている。認知症を伴う高齢・独居世帯の増加から安否確認や後見問題につながる相談が多く、地域住民の大きな不安となっている。また、地域を支える支援団体、民生委員等も高齢化が進み、後任探しや欠員状況が続くなど苦慮している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">花見川団地に限らず、圏域の民生委員、支援団体、地域住人からの情報提供により、認知症を伴う高齢・独居世帯の安否確認等で介入に至るケースが多い。こういう状況を踏まえ、相談件数が少なく活動が不十分な地域へのアプローチや周知活動から地域関係者とのネットワーク作りを推進していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">緊急事態宣言の発令等により、生活支援・介護予防に関するサロン等の活動が一部中断しているが、開催しているサロンについては定期参加し、運営支援を継続している。中断しているサロン等については代表者と再開に向け、打ち合わせを随時行った。また、第１層生活支援コーディネーターの社会資源調査にも可能な限り同行し、相談者へ最適なマッチングができるよう情報の整理を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">現状把握できている高齢者の集い（体操教室含む）の参加は継続し、新たなサロンも開拓で来ている。コロナ禍におけるサロン運営についても、代表者とその都度話し合いが出来ている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">これまで関っている体操教室やサークル活動については、コロナ禍の情勢で中断と再開を繰り返しているが、可能な限り参加し、コロナ禍における運営支援を継続した。また、生活支援コーディネータとの連携も継続し、新たに2カ所のサロンに参加、あんしんケアセンターや介護予防の周知と共に今後も定期参加できるよう働きかけを行った。地区診断はマップやグラフを取り入れ見える化し更新を図った。</td></tr>
<tr><td>年度総括</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">現状把握できている高齢者の集い（体操教室含む）の参加は継続し、新たなサロンも開拓で来ている。コロナ禍におけるサロン運営についても、代表者とその都度話し合いが出来ている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">コロナ禍の情勢に合わせて住民主体の通いの場が展開されるよう、参加を通して後方支援を継続していく。また、生活支援コーディネーターとの情報共有や連携により、新たな通いの場も開拓していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">多職種連携会議についてはコロナ禍の影響を考慮し、年１回のZOOM開催とした。今回はサブセンターとしてグループワークに参加（発表担当）した。コロナ禍におけるガン末期の入退院支援をテーマに、多職種間の連携や情報共有のポイントを確認することができた。また、あんしんケアセンター看護職会議においては病院相談員の参加を頂き、入退院支援についての情報交換を行うことができた。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">当初の予定とは違う流れであったが、結果的に年2回の多職種連携会議の開催に至ることが出来た。他機関の連携会議にも参加できている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">こてはし台圏域での多職種連携会議に参加した。駐車確保については花見川圏域でも課題となっている地域も多く、
様々な角度から地域や関係者に働きかけるポイントを理解することができた。
医療機関等主催の連携会議や研修会にも参加し多職種と連携の推進を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">年2回の多職種連携会議開催を継続させる。うち1回は圏域を調整し、可能な限り地域に即した課題を検討できる会議としていく。開催形式、参加団体等、社会情勢に合わせ柔軟に対応していく。</td></tr>
</table>

（3）認知症施策の推進				
前期	具体的な取り組み状況	認知症サポーター養成講座（以下、認サポ）等の開催に向けて、民生委員の定例会議に参加し周知を図った。自治会組織等に対しては、あんしんケアセンターから最も遠く、社会資源把握が不足している東急自治会を重点地域とし、東急自治会を中心に、あんしんの周知活動を兼ねて認知症関係の企画開催の説明を行った。 認知症初期集中支援チームに、前期３ケース提出し、ZOOM会議に定期参加することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	認知症サポーター養成講座（以下、認サポ）については、いきいきプラザにて地域住人向けの認サポを開催することができた。他にも212民生委員に対して認知症ミニ講座を開催した。 認知症地域支援推進員の活動では、ケアマネジャー向けに認知症高齢者の意思決定支援に関するアンケート作りを行った。 認知症初期集中支援チームへは2ケース提出しZOOM会議に定期参加することができた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	地域住民に向けて認知症関連の講座を1年ぶりに開催することが出来たが、他の各種活動（認知症カフェ等）は行えていない。
	次年度に向けた展望	継続出来ている活動（認知症地域支援推進員活等動）や連携（認知症初期集中支援チーム等）を維持していく。 地域住民に向けて認サポや認知症ミニ講座などを通して「認知症になっても安心して暮らせるまち」づくりを後押ししていく。		

2　第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	いきいきセンター主催の健康相談フェスティバルに参加した。チェックリストを活用し、介護予防につながる生活習慣のアドバイスや社会資源のマッチングを行った。 第1層生活支援コーディネーターの資源調査にも同行することにより、インフォーマル活動の運営状況を把握し、社会資源の整理と情報更新を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	いきいきセンター主催の健康相談フェスティバルに参加した。チェックリストを活用し、介護予防につながる生活習慣のアドバイスや社会資源のマッチングを行った。 第1層生活支援コーディネーターの定例会に参加し、インフォーマル活動や社会資源の整理と情報更新を行った。また、あんしんケアセンター独自でも新たな高齢者サロンを2か所開拓し、運営状況を把握することが出来た。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	具体的な取り組みは計画通り実施できている。 あんしんケアセンター独自で地域の高齢者サロンを開拓し、第１層生活支援コーディネーターに情報提供することできた。
	次年度に向けた展望	地域のイベントやサロン等でチェックリストを活用し、介護予防のアドバイスを行っていく。また、第１層生活支援コーディネーターの資源調査同行も継続し、関わりの薄い地域を中心に新たな活動の場を開拓していく。		

3　総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・新任の民生委員に対し、あんしんケアセンターの役割について説明を行い、今後の連携先としての周知をした。また、定例の民生委員会議にも参加し、コロナ禍の活動制限下での支援体制を確認することができた。その後、個別に多数の相談を受け付け、適切に対応することができた。 ・重点地域（東急町内会）の自治会長にコンタクトをとり、オリジナルパンフレットを作成し回覧板や掲示板での周知を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	212地区民生委員に対して「認知症ミニ講座」を開催、同時に認知症で支援の必要な高齢者をアンケートで情報収集し、総合相談へとつなげることが出来た。花見川団地においてもUR、自治会、民生委員個別に話し合いの場を持ち、リスクの高い世帯情報や各々課題を共有し関係者とのネットワークの構築を図った。 包括３職種による適切な進捗管理を継続することが出来た。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	地域関係者との話し合いの場から、地域の課題や高リスク世帯の情報収集を行い、状況に応じた支援を行うことが出来た。
	次年度に向けた展望	地域関係者とのネットワーク作りから情報収集を行い、地域に応じた支援を継続していく。 令和３年度から重点地区としている東急町内会を中心に、あんしんケアセンターから離れている地域に出張相談の機能も持ち合わせ対応していく。		

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・地域のサロン等での出張講座等は実施できていないが、センター前の掲示板を活用して権利擁護に関する広報誌を配下し、注意喚起に努めた。 ・虐待ケースを５件把握、高齢障害支援課と連携し終結に向け適切に対応することができた。 ・区社会福祉士会議を継続開催、関連機関である成年後見支援センターや障害者基幹相談支援センターとの意見交換会を計画した。 ・日常生活自立支援事業の利用申請や成年後見制度の申立て支援も適宜行うことができた。		
後期	具体的な取り組み状況	区社会福祉士会議を継続し、権利擁護に関する事例検討会以外にも、日ごろから連携を図っている、成年後見支援センターや障害者基幹相談支援センターとの勉強会を開催した。 虐待ケースについては８件を把握し、高齢障害支援課と連携し適切な対応を取ることが出来た。 いきいきセンターの依頼から認知症サポーター養成講座を開催した。出張講座等による啓発活動は出来ていないが、掲示板を活用し情報提供を行うことが出来た。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	虐待対応は高齢障害支援課に速やかに報告し、関係機関と足並みをそろえて適切に対応できている。また、関係機関とも意見交換会により連携の強化を図ることが出来た。
	次年度に向けた展望	引き続き、虐待の対応については高齢障害支援課と情報共有し、他の関係機関と適切に対応していく。 居宅等の事業所に対して権利擁護に関する相談内容や傾向など現状を伝え、注意喚起を行っていく。 認知症サポーター養成講座については、幅広い年代で開催できるよう計画していく。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	圏域の居宅介護支援事業所に向けて、制度改正に伴う勉強会を行った。 主任ケアマネの会、圏域別の主任ケアマネの会を継続し、ケアマネの資質向上に向けて、事例検討を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	介護支援専門員の資質向上に向け、あんしん主任ケアマネの会、圏域別主任ケアマネの会を継続している。事例検討の他に成年後見支援センターとの意見交換会や業務に関するミニ研修会などを企画した。また、「自立支援に資する介護予防ケアマネジメント」をテーマに合同連絡会を開催することが出来た。 医療機関主催の研修会や連携会議にも参加し関係機関との連携構築を図った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	全体・圏域別の主任ケアマネの会を通し、情報交換や勉強会は継続できている。合同連絡会についてもオンライン開催で再開することができている。
	次年度に向けた展望	引き続き、地域のケアマネージャーの資質向上に向け、企画運営を継続していく。多職種連携会議については、より地域に密着した課題の抽出を目的とし圏域単位での開催を目標としたい。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	民生委員や自治会組織等に地域ケア会議の説明等行ったが、度重なる緊急事態宣言の発令等もあり、実施に至らなかった。個別の地域ケア会議についても、困難事例について関係機関で検討する機会はあったが、地域ケア会議としての開催には至らなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	コロナ禍で各団体の足並みがそろわず、令和元年２月を最後に全体の地域ケア会議を中断していたが、再開に向け、各団体と個別に話し合いの場を持ち、開催方法や共通する課題の洗い出しを行った。結果、３月に来年度からの開催に向け課題の共有やテーマ設定などを目的とした地域ケア会議を開催することが出来た。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	地域関係者の意向を確認しながら、全体の地域ケア会議の再開に至った。
	次年度に向けた展望	花見川団地において、年４回程度の定期的な全体の地域ケア会議を目標とする。内容については連続性をもったテーマを設定し取り組みやすい会議としていきたい。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・緊急事態宣言解除後のシニアリーダー体操再開に向け、開催方法の検討など支援者と話し合いの機会を継続できた。介護予防啓発を目的としたオリジナル広報誌も継続的に作成し、掲示や配布など地域へ発信を行った。
・あんしんケアセンター主催の体操教室についても、新たに歩行分析デバイスをとり入れ、歩行力向上に向けた取組みを開始した。
・あんしんケアセンター前広場で平日朝ラジオ体操を開始し、地域の方が自由に参加できる雰囲気作りから介護予防への取り組みの推進を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">コロナ禍で一時休止したサロンやイベントもあったが、開催可能な団体には積極的に参加した。介護予防に資する広報誌の作成と配布を行い普及啓発に努めた。あんしんケアセンター主催のはつらつ元気教室も継続し、いきいき活動手帳の配付から参加状況の確認や今後の参加の動機付けを行った。あんしんケアセンター事務所前で行っているラジオ体操の参加者の増加を目的にサロンや広報誌で普及活動を行った。地域サロンの再開されない地域には回覧板を通じて介護予防に関する広報を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>あんしんケアセンター独自での健康測定会開催には至らなかったが、他の活動は予定通り行ている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">介護予防に資する毎月の広報誌作成し、新たなサロンや集いの場の開拓により地域への発信を継続していく。事務所前のラジオ体操については広報活動を強化し参加者増加を目標としたい。
感染症対策を講じ、あんしんケアセンター主体で関係機関と連携のもと健康測定会等を企画し介護予防の啓発につなげていきたい。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンターさつきが丘</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">1.相談件数が最も多いさつきが丘地区において、特にさつきが丘団地在住である高齢者からの相談が著しく増加。相談内容が複雑化することも多く、課題解決まで至らないこともある。また、さつきが丘団地は築約50年が経過しており、高齢化が進行。近年、独居高齢者の孤独死が続いている。
2.犢橋地区で最も相談が多い千種町においては、生活困窮者の増加に伴い、経済面での支援相談が多くなっている。
3.担当圏域内において、犢橋町のニーズを把握しきれていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・相談内容が複雑化しているケースについては、行政機関の支援が不可欠。行政機関との連携を強化し、課題解決を図る。また、高齢化や孤独死問題においては、民生委員や町内自治会等の地域組織との連携が不可欠。地区部会や民児協への会合出席と地域活動への参加を継続する。不足している町内自治会単位での活動を充実させる。
・犢橋地区での活動が不足しているため、今年度は犢橋町を最重点地区として活動を行う。また、犢橋地区の課題である住宅の点在化や交通機関がないことによる高齢者の孤立について、課題解決に向けて役割の一旦を担う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・地域診断と民児協でのアンケート結果をもとに、認知症が疑われる高齢者の見守り支援や交通事情による買い物困難地域の課題を抽出した。また、課題解決の一例として、買い物困難地域である犢橋町と千種町に移動販売を手配した。
・URさつきが丘団地の生活支援アドバイザーと協働し、介護予防のためのイベント開催を企画した。後期にイベントを開催予定である。また、イベントの一部を第1層生活支援コーディネーターと連携し、ボランティアの手配に繋げた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・URさつきが丘団地と協働し、11/5（金）に地域の高齢者に対し、ミニ講座と脳トレサロンを行った。
・第1層生活支援コーディネーターと連携し、買い物に不自由している高齢者に対し、移動販売のエリア拡充を図った。
・花見川いきいきプラザと第1層生活支援コーディネーターと連携し、1/18（火）に買い物に不自由している高齢者に対し、イオンタウン稲毛長沼店までの移動支援を行った。参加者は事業所で関わりのある高齢者である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・各種関係機関と連携し、共催イベントの開催や買い物困難地域の高齢者への支援に繋げることができた。また、例年以上に第1層生活支援コーディネーターと連携を図ることができた。
・担当地域の民児協に出席することにより、民生委員との関係構築は図れているが、町内自治会単位での活動が一部に限られた。また、町内自治会の会合に出席することができなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・URさつきが丘団地との共催イベントについては、先方より次年度も共催の打診があり、継続が決定している。
・移動支援については、参加した高齢者より好評を得た。花見川いきいきプラザ、第1層生活支援コーディネーターと協議を継続し、新たな高齢者の参加も含めて、次年度以降も定期的開催の方向で話が進んでいる。
・町内自治会単位の活動が不足しているため、会合に出席することにより、信頼関係の構築を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・区内のあんしんケアセンターと協働し、サブセンターとして、8/4（土）にオンラインによる多職種連携会議に出席した。
・7月～9月にかけての区包括看護職会議に、青葉病院 地域連携室の副室長兼看護師長が参加し、退院時の支援や新型コロナウイルス感染の現状について、病院と地域のそれぞれの立場から意見交換を行った。
・認知症や精神疾患のある高齢者について、在宅医療・介護連携支援センターに相談し、助言をもらった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・1/27（木）に区内の他あんしんケアセンター主催によるオンラインでの多職種連携会議に出席した。
・近隣の薬局と連携し、地域の高齢者に対し、薬の管理やオーラルフレイルと栄養についての講座を企画した。
・個別の事例について、歯科医院と連携し、口腔内トラブルの解決を図った。また、コロナ禍により、家族と面会が行えない高齢者について、病院と連携して情報共有を図り、円滑な退院支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域の開業医との連携強化を図ることができた。また、適宜訪問診療時の同席や病院への受診時に同行し、医療従事者と情報共有を行った。
・コロナ禍により、入院中の高齢者の退院支援について、医療従事者との対面的なカンファレンスはごく一部に制限され、不十分なケースもあった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・区内のあんしんケアセンターと協働し、地域情勢に応じた多職種連携会議を年2回開催する。
・病院だけでなく、地域の歯科医院や薬局に対しても積極的なアプローチを行い、高齢者への支援について、情報を共有する機会を作る。
・在宅医療・介護連携支援センター主催の研修等に適宜出席し、多職種連携を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・区認知症初期集中支援チームへの依頼が2件あり、連携して対象者の支援を行った。
・若年性認知症の対象者及びその家族からの相談が1件あり、市認知症疾患医療センターと連携し、支援に繋げた。
・認知症地域支援推進員1名が認知症カフェ班に配属しており、認知症カフェの推進に向けて支援を行った。
・認知症カフェ（ここカフェ）は開催が1回、運営推進会議が1回あり、参加することで引き続き後方支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・11/19（金）に千葉市グループホーム連絡会、12/11（土）に205地区民児協に対し、認知症サポーター養成講座を開催した。千葉市グループホーム連絡会への認知症サポーター養成講座は、先方の希望でオンライン開催とした。
・区認知症初期集中支援チームに1件依頼し、チーム員の医師や看護師と同行訪問を実施した。
・認知症カフェ（ここカフェ）はコロナ禍が落ち着いた10月～12月に開催。毎回出席し、後方支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症サポーター養成講座を開催が2回のみであり、認知症徘徊模擬訓練実施の足掛かりには至らなかった。
・区認知症初期集中支援チームに3件依頼。対象者の早期対応を行うことができた。また、若年性認知症の対象者に対し、市認知症疾患医療センターと連携する機会が作れた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域住民向けの認知症サポーター養成講座を複数回開催し、認知症徘徊模擬訓練実施の足掛かりとする。また、認知症サポーター養成講座の開催だけでなく、認知症についての講話機会を作り、認知症に対する普及啓発を図る。
・若年性認知症対象者の早期発見に努め、市認知症疾患医療センターと協働する機会を増やす。
・認知症地域支援推進員2名は、引き続き班活動を行い、認知症施策に貢献する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・介護支援専門員に対し、直営ケースでは管理者（主任介護支援専門員）より、委託ケースではサービス計画書のコメントを記載する包括3職種より、「自立」に関する視点やインフォーマルサービスについての重要性を指導した。
・コロナ禍において、地域の介護予防活動がほぼ自粛であったため、住民主体の場の後方支援は一部に限られた。
・センター作成の「あんしんさつきが丘便り」を配布することにより、介護予防に対する周知活動を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・3/17（木）に区内のあんしんケアセンターと協働し、地域のケアマネジャーを対象とした自立に資する介護予防ケアマネジメント研修を開催した。主センターとしての役割を担う。
・コロナ禍が一時落ち着いた10月より活動を再開した地域の諸団体の後方支援を行った。また、地域活動に参加した際には、毎回介護予防に関するチラシを配布した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域のケアマネジャーに対し、介護予防観点からの研修を開催したが、委託ケースにおいては、インフォーマルサービスの重要性等についての指導が不足していた。
・基本チェックリストの実施やいきいき活動手帳の配布が一部に限られた。
・介護予防に関する「あんしんさつきが丘便り」の発行が一部に限られた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・委託ケースを担当しているケアマネジャーに対し、ケアプランでのコメント指導で改善が図れない場合は、対面での指導の他、介護予防ケアマネジメントの着眼点に対する意識付けを行う。また、インフォーマルサービスの情報量を増やし、地域の高齢者やケアマネジャーに対し、情報提供を行う。
・基本チェックリストの実施といきいき活動手帳、「あんしんさつきが丘便り」の配布機会を増やす。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・毎月の包括3職種会議にて、継続相談が多いケースの確認と継続・終結の進捗管理を行い、業務の効率化に繋げた。
・困難ケースについて、行政機関や市生活自立・仕事相談センター花見川と連携することが多かった。また、状況に応じて2人体制にて対応した。その他、センター全職員参加による野中式の事例検討会を2回開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・毎月の包括3職種会議において、継続相談が多いケースの確認と、継続及び終結の進捗管理を行った。また、困難ケースについては、適宜包括3職種間で話し合いの場を持ち、適切な支援に繋げた。
・独居や認知症等の複数の課題を抱える高齢者に対しては、訪問機会を増やすことで支援を手厚くした。
・行政機関を中心に、各種関係機関との連携機会が増え、多職種連携による支援を行うことができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・今年度より事務所を移転したこともあり、来所による相談が増えたが、包括3職種間の連携の他、事務員の協力も得ながら、滞りなく相談対応することができた。
・困難ケースについては、各種関係機関と連携し、概ね課題を解決することができている。
・後期は野中式の事例検討会を開催することができなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・包括3職種の更なるスキルアップを図り、困難ケースにおいても、包括3職種全員が対応できる能力を身に付ける。また、権利擁護に関する相談が増えているため、社会福祉士以外の包括3職種のスキルアップを図る。
・相談内容によっては、引き続き各種関係機関を連携し、最善の解決策を見い出して実行する。
・終活や家族支援に対する意識付けを高め、今まで以上のアプローチを行う。特に終活支援を強化する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・虐待対応は1件であり、区高齢障害支援課及びその家族と連携し、迅速に施設探しや見守り体制の構築等を行った。
・成年後見制度について、市成年後見支援センターと連携し、市長申し立てを1件行った。
・消費者被害についての相談はなかったが、「あんしんさつきが丘便り」を配布することにより、被害防止の周知を図った。
・権利擁護について、総合相談ケースやケアマネジャーからの問い合わせがあった際には、情報提供やアドバイスを行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・12/10（金）に法人内の居宅介護支援事業所とあんしんケアセンター合同で高齢者虐待の研修を行った。
・1/18（火）に事業所内で消費者被害についての研修を行った。
・1/31（月）に圏域内のケアマネジャーを対象とした権利擁護に関する研修を行った。
・金銭管理が不十分な複数の高齢者に対し、各種関係機関と連携し、成年後見制度等に繋げた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害についての研修を行うことができた。
・成年後見制度の利用促進を図ることができた。
・早期の介入が必要な高齢者に対し、各種関係機関と連携しながら迅速な対応を行った。
・地域住民に対し、権利擁護の普及啓発活動を行うことができなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・引き続き成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害に関する研修を年１回以上行う。
・各種関係機関との連携を強化し、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の利用促進、普及啓発活動を行う。
・緊急性のある相談に対し、今まで以上の早期発見、早期対応、早期解決に努める。
・地域住民に対し、権利擁護に関する講話会を年１回開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍による地域活動の自粛により、地域の諸団体との連携は一部に限られた。
・4/22（木）に主センターとして、介護支援専門員に対し、今年度の介護報酬改定についての勉強会を開催した。
・7/29（木）に圏域内ケアマネの会を開催し、介護報酬改定や実地指導について意見交換を行った。
・区単位で毎月開催されるあんしん主任ケアマネ会議には毎回出席し、野中式事例検討会にてスキルアップを図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・各種関係機関と連携し、今年度の重点的活動地域であった犢橋町への支援を強化し、一定の成果を得た。
・10/28（木）と1/31（月）に圏域内ケアマネの会を開催。1/31(月）は包括3職種が講師として研修会を行った。
・11月に3日間に分けて圏域内の居宅介護支援事業所（10ヶ所）を訪問し、ケアマネジャーと面談を行った。
・地域のケアマネジャーからの相談が多く、アドバイスや助言の他、サービスの導入まで携わることもあった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・犢橋町について、第1層生活支援コーディネーターを中心とした各種関係機関の協力を得て、目標としていたことを概ね実施することができた。
・圏域内を中心としたケアマネジャーの後方支援を強化することができた。
・コロナ禍により、地域の諸団体との連携は一部に限られた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターと協働する機会を増やし、地域の諸団体に対する支援を強化する。
・地域のケアマネジャーに対する後方支援について、次年度は近隣事業所（にれの木台）と共催にてケアマネの会を開催していくこととなる。また、圏域内の居宅介護支援事業所訪問については、年2回の実施を予定している。
・区単位の活動に関して、年1回開催を予定しているケアマネの集い（研修会）については、主としての役割を担う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・6/1（火）に個別課題の地域ケア会議を開催した。出席者は8名であった。情報共有と今後の支援について検討し、関係機関へ繋ぐことができた。
・9/2（木）の区自立促進ケア会議は、事例提供者として出席した。
・コロナ禍により、地域課題の地域ケア会議を開催できなかった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・12月に個別課題の地域ケア会議開催を予定し、地域の民児協会長をはじめ、担当の民生委員にも会議開催の旨を伝えていたが、対象者が入院したことにより、入院前との状況が一変したため、会議開催には至らなかった。
・地域課題の地域ケア会議について、地区部会長をはじめとした地域の諸団体に対し、開催の有無について確認したが、コロナ禍での対面式による地域ケア会議は難しいこと、オンラインでは出席者が限られるとの意見から開催を見送った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・前期に個別課題の地域ケア会議を1回開催することができた。
・地域の諸団体の意向を尊重し、地域課題の地域ケア会議を開催できなかった。
・区自立促進ケア会議に事例提供者として出席。対象者の個別課題から地域課題へと発展し、第1層生活支援コーディネーターを中心に各種関係機関と連携して移動支援に繋げた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・次年度の重点的活動地域である宮野木台4丁目の地域課題を分析し、地域課題に対する地域ケア会議を開催する。
・R2.3/30（月）に予定していたが、コロナ禍で延期になっている地域ケア会議（テーマ：URさつきが丘団地の見守り支援）について、準備が整っているため、地域の諸団体と相談して会議開催を検討していく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">7　一般介護予防事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・6/24（木）にさつきが丘いきいきセンターにて、「認知症と介護保険」についての出張講座を行った。
・6月に花見川いきいきプラザ、さつきが丘いきいきセンターで開催された健康フェスティバルにて生活相談を行い、基本チェックリストをもとに介護予防についてのアドバイスを行った。また、介護予防関係の冊子やいきいき活動手帳を配布した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・各種関係機関が中心だが、犢橋公民館でのシニアリーダー体操教室の立ち上げ支援に協力した。
・10/28（木）の花見川いきいきプラザ生活相談会、12/9（木）のさつきが丘いきいきセンター健康フェスティバルにて、チェックリスト施行といきいき活動手帳の配布を行った。また、休止していた地域の諸団体に対し、活動再開を働きかけた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・介護予防に関する出張講座を計2回行うことができた。
・イベント参加者に対し、いきいき活動手帳を配布することで、介護予防普及啓発を行った。
・コロナ禍が落ち着いた秋頃にシニアリーダーやサロンリーダーに対して積極的な働きかけを行い、活動再開することができた。しかし、コロナ感染の再拡大により、新しい参加者の増加には至らなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・花見川いきいきプラザの改修工事終了後、犢橋公民館でのシニアリーダー体操教室が定着するよう支援を行う。
・さつきが丘いきいきセンターに立ち上げ予定であるシニアリーダー体操教室の協力と立ち上げ後の後方支援を行う。
・重点的活動地域である宮野木台４丁目の自治会に働きかけ、介護予防に繋がる活動の基盤作りを行う。
・地域の薬局と連携し、薬剤師や栄養士を講師依頼し、薬や栄養についての講座を行うための企画と運営を行う。</td></tr>
</table>

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンターにれの木台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">地理的には主要道路に路線バスが通っているが、バス停までに坂道が多く買い物や外出が困難となっている地域がある。圏域内にあるエレベーターのない中層団地（にれの木台団地や西小中台団地）には高齢者世帯や独居の方が多く居住されている。自治会の未加入者も多く住民間の交流も少なくなっている。高齢化率も上昇してきているため、介護予防や認知症予防の活動や、集いの場の周知活動が必要となっている。また近年認知症や障害、精神疾患、経済的な問題や8050問題など、複合的な生活課題を抱えている相談者も増加してきている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・あんしんケアセンターの周知活動
・認知症予防や介護予防についての普及啓発活動
・地域包括ケアシステムの構築
・センターだけでは解決が困難な課題に関しては関係機関と連携し、機能向上を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・民生委員会議に参加し、顔の見える関係性を築き情報の共有を図った。併せて、生活支援サイトの情報発信を行い、地域資源活用について周知した。
・生活支援コーディネーターと情報共有を図りながら、地域資源の把握と、コロナ禍での集いの場の開催状況を確認した。
・シニアリーダー連絡会に参加し、教室の開催状況や開催に向けた活動方針等情報の共有を図った。
・BCP作成研修に参加災害時の対応について知識を深めた。
・災害時に備えた備品の確認や定期点検を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・民生委員会議に参加し、顔の見える関係性を築き情報の共有をした。
・生活支援コーディネーターと情報を共有し、地域資源の把握とコロナ禍での集いの場の開催状況を確認した。総合相談や集いの場で住民に情報提供を行った。
・シニアリーダー連絡会に参加し、教室の開催状況や圏域内の新規立ち上げに向けて開催場所の確保と、広報活動、参加者の取りまとめを行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・民生委員との良好な関係性が出来、情報の共有が出来た。
・生活支援コーディネーターと連携し地域資源情報をまとめ、地域の方に情報の提供が出来た。
・シニアリーダーや、事務局などの関係機関とのネットワークの構築と、新規立ち上げの準備が出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・引き続き、関係機関と顔の見える関係性を築いていく。
・社会資源の情報を整理したマップやチラシを、自治会や民生委員会議で配布していく。
・新規のシニアリーダー体操開始に向けて、事務局やリーダー、関係機関と調整していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍で面会ができず不安を抱えている家族に代わって病院と連携し、精神・身体状況を把握に努め、専門職としてアセスメントした上で状況を家族に伝え、自宅退院に向け支援を行った。
・区内のあんしんケアセンターや在宅医療・介護連携支援センターの協力を得ながら、ZOOMでの多職種連携会議を開催した。
・区内で開催した自立促進ケア会議に参加し、個別事例に対し多職種と意見交換を行った。
・圏域内の薬局と電話や訪問を通じて、あんしんケアセンターの周知活動を行うことで、顔の見える関係性を構築し、対象者の発見に繋がった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・病院と退院に向けた連携を行った。
・区内のあんしんケアセンターが開催したZOOMでの多職種連携会議に参加し知識を深めた。
・区内の看護職会議にて担当地区の地区分析を行い、高齢障害支援課や健康課と情報の共有や意見交換を行った。
・区内の公民館で市精神保健福祉課や障害者基幹相談支援センター、にも包括広め隊と連携し「こころの健康」について住民向けの講演を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・サブセンターとして多職種連携会議に参加しサービス事業者が抱えている駐車場確保の対策について情報を知ることが出来、センター内でも知識が広がった。
・病院と連携し、退院調整をスムーズに行うことが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・区内のあんしんケアセンターと連携して多職種連携会議を2回/年開催する。
・引き続き看護職会議を活用し健康課や医療機関などの関係機関と意見交換を行いながら、圏域内の課題分析に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者見守り班に所属し、コロナ禍での他市での見守り活動の情報を収集した。
・認知症カフェ班に所属し、オンラインでのカフェ開催の様子や現状についての調査をした。
・キャラバンメイトスキルアップ研修に参加し、知識を深めた。
・民生委員会議で、どこシル伝言板の説明や認知症ケアパスのチラシを配布し、周知活動を行った。
・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、認知症の方への対応を学んだ。
・認知症個別事例に対し、安否確認や相談対応を行い医療機関への受診同行や、自宅での生活が困難となった方へ施設入所への支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・みかんの会（高齢者見守り班や認知症カフェ班）に所属し積極的に班活動に参加した。
・SOSネットワーク会議に参加しあんしんケアセンターの役割やどこシル伝言板、SOSネットワークの事例など警察との情報共有を行った。
・認知症キッズサポーター養成講座や認知症に関する講座を開催し認知症に対する知識を広めた。
・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、認知症の方への対応を学んだ。
・認知症個別事例に対し、安否確認や相談対応を行ない、受診や介護サービスへ繋げた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・みかんの会に参加し認知症への関わりを学ぶことが出来た。
・認知症キッズサポーター養成講座を開催できた。
・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、支援方針や対応方法を学び総合相談での個別事例に活かすことができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座を定期的に開催する。
・みかんの会（高齢者見守り班、認知症カフェ班）の活動に積極的に参加する。
・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し、支援方針や対応方法を学び認知症に対する知識を深める。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターや職員と情報共有し、個人の状況にあわせたフォーマル、インフォーマルサービスを紹介した。
・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理したうえで、個々の状況に合わせた目標の設定やサービス利用に繋げた。
・自立促進ケア会議に事例提供を行い、専門職からの助言を受け、介護予防やケアマネジメントについて検討を行うことができた。会議事例をセンター内で共有し知識を深めた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターや職員と情報共有し、個人の状況にあわせたフォーマル、インフォーマルサービスを紹介した。
・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理したうえで、個々の状況に合わせた目標の設定やサービス利用に繋げた。また、あんしんケアセンター内で担当者の情報の共有を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・適切なサービスにつながっているか包括３職種で情報の共有を行ない、担当者不在の場合でも対応できるような体制を心がけた。
・基本チェックリストを活用しセルフケアについてのアドバイスを行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・要支援認定者に対し、介護保険サービス利用だけでなく、多様な社会資源の紹介や介護予防に向けたセルフケアの重要性をアピールしていく。
・オンライン研修なども活用しながら、職員のケアマネジメントの質の向上に努めていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・定期的に包括３職種によるケース検討を行い、多様化している相談について、情報共有と課題の明確化に努めた。
・身近な相談窓口として、西小中台に出張相談所を開設し、あんしんケアセンターの周知活動を行った。
・必要に応じて関係機関と連携を図り、対応に努めた。
・総合相談等で必要とされる方にチェックリストを実施し、事業対象者の把握を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・定期的に包括３職種によるケース検討を行い、多様化している相談について、情報共有と課題の明確化に努めた。
・身近な相談窓口として、西小中台の出張相談所を継続し、あんしんケアセンターの周知活動を行った。
・必要に応じて関係機関と連携を図り、対応に努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・初回相談時には複数職員で対応し情報把握に努めることができた。
・来所相談が難しい対象者には、感染症対策に留意しながら訪問を実施し、生活状況の把握に努めた。
・ZOOM研修に積極的に参加し知識の習得に努めた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・西小中台出張相談所の開催を継続していく。
・引き続き、自治会や民生委員と連携を図り支援対象者の早期対応に努める。
・あんしんケアセンターの周知活動を団地の掲示板を利用するなど、継続して行う。
・あんしんケアセンターから遠い畑地区に出張相談所や出前講座の開催を目指して、関係機関とのネットワークの構築を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・特殊詐欺について、警察の生活安全課と連携し、地域住民に向けた講座を開催した。
・地域の商業施設で、警察と連携し、特殊詐欺対策についてのチラシを配布した。
・虐待が疑われるケースや、虐待につながりそうなケースに関して、高齢障害支援課と情報共有を行った。
・金銭や書類の管理が困難となっている方を、日常生活自立支援事業制度に繋げた。
・千葉市精神保健福祉課や区内の障害者基幹相談支援センターと連携し、圏域の民生委員を対象に、精神疾患に対するイメージについてのアンケート調査を実施した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・意思決定、判断能力の低下のある相談者に日常生活自立支援事業　後見人制度の紹介を行った。
・虐待が疑われるケースに関して担当ケアマネジャーや利用しているサービス事業者から情報収集を行い、高齢障害支援課と情報の共有を図った。聞き取り調査だけでなく自宅訪問を行い介護の状況を確認した。
・高齢者虐待研修に参加し対応方法について知識を深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・虐待が疑われるケースに、関係機関と連携しながら対応することができた。
・認知機能の低下があり、頻回に相談のあった対象者に対して、尊厳を傷つけないよう傾聴に努め対応した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域の民生委員や自治会と連携を図り、虐待が疑われるケースの早期発見、早期対応に努める。
・認知症サポーター養成講座を開催し認知症に対する正しい知識を広める。
・警察と連携し消費者被害や、特殊詐欺についての予防の普及啓発活動を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・圏域内の居宅介護支援事業所を訪問し、人員体制の確認や地域資源の紹介を行った。介護支援専門員の困りごとを把握するために、相談票を配布し、活用を促した。定期的に圏域内の主任CMの会を開催し関係性を強化した。
・地域のケアマネージャ支援に関して、日頃の個別支援や計画に対する助言を行った。
・区内のあんしんケアセンターと協同し、オンラインを活用した多職種連携会議を開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・定期的に圏域内の居宅介護支援事業所に連絡し、人員体制や困りごとの確認を行った。
・定期的に圏域内の主任ケアマネの会を開催し、事例検討会や介護保険情報の発信を行い、ケアマネジャーのスキルアップを図った。
・ケアマネージャーからの相談に対し個別支援や計画に対する助言を行った。
・区内のあんしんケアセンターと連携し、オンラインを活用した合同連絡会を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・定期的に圏域内の居宅介護支援事業所に連絡を行いケアマネジャーの不安や困りごとに対する対応を行った。
・ケアマネジャーからの質問に対し対応困難な事例に対しては、介護保険課やケアマネ協議会に確認するなど適切な対応が出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・定期的に包括主任ケアマネジャーの会、区内の主任ケアマネージャーの会を開催する。
・ケアマネジャーの不安や困りごとを把握できるように、連携しやすいような関係性を深める。
・知識を深めるため積極的に研修会に参加していく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・個別困難事例に関して、関係機関と地域ケア会議を開催し情報の共有を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・民生委員の会に参加し、顔の見える関係を図った。
・民生委員を対象に、地域のイメージ調査を行った。
・困難事例に対して関係機関が集まり、今後の課題や方向性について話し合いを行ったが、地域ケア会議としての開催には至らなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域ケア会議の実施には至らなかった。
・民生委員へ、アンケート調査を行い地区ごとの課題が明確になった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・自治会や民生委員と連携し、地域の課題を整理していく。
・個別の課題に関しては、住み慣れた地域で自立した生活を継続していくために必要な関係機関と、情報の共有や支援体制を検討していく。
・感染症対策に留意しオンラインなども活用しながら地域ケア会議を実施する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">7　一般介護予防事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・センター前でラジオ体操を継続して実施した（月～金）。
ラジオ体操参加者を対象に、握力測定や開眼片足立、足の開閉や身体計測を行い、セルフケアの必要性を伝えた。いきいき活動手帳の配布を行ったが、積極的な利用には至らなかった。
・にれの木台健康教室、西小中台出張相談所で脳年齢や骨密度、血管年齢などの測定会や、地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、専門職による自宅でできる運動の講座を開催し、生活習慣病の予防と運動の必要性を指導した。
・シニアリーダー連絡会に参加し、高齢者の脱水症対策についての講話を実施した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・センター前でラジオ体操を継続して実施した（月～金）。
ラジオ体操参加者を対象に、握力測定や開眼片足立、足の開閉や身体計測を行い、セルフケアの必要性を伝えた。
・にれの木台健康教室、西小中台出張相談所で座ってできる運動の講座を開催し、生活習慣病の予防と運動の必要性を伝えた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍でもできるラジオ体操を継続して実施出来た。
・感染症対策に留意しながら教室開催ができたが、蔓延防止期間は健康教室の開催ができなかった。
・セルフケアの必要性について啓蒙活動ができなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍でもできる介護予防の普及啓発活動の検討。
・いきいき活動手帳を活用してセルフケアが行える方法について検討、実施する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター花園</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅が多い。独居や高齢者世帯も多く、地域によっては住民同士の関係性が希薄である。高齢化率も上がっている為、認知症や高齢者サービス等の周知活動が必要である。また、地域の活動場所はあるが、その場所までの移動手段が少ない為、利用したくても利用できない地域もある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">住民組織やサロン、事業所懇談会等に積極的に参加し、地域住民の方と話す機会を継続的に持っていけるように活動していく。新型コロナウイルスの影響で対面が難しい状況もある為、対面以外での連絡方法（ICTの活用）も検討していく。
地域住民が安心して地域に住み続けられるように地域住民や関係機関との連携を大事にしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・コロナ禍で中止になっている地域活動の担当者からの相談に対応し、体操の資料等の情報提供や再開支援を行った。
・民生委員との連携から不安のある地域住民に対して訪問や体操の資料等の情報提供を行った。
・地域資源の調査の方法や統計の取り方等、所内で検討を行った。また、1層コーディネーターとの相談・連携から地域資源の情報収集を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・地域活動の主催者と連絡をとり、情報の共有、現状の把握、再開に向けての確認を行うことができた。コロナ感染者数の増加やワクチン接種がなかなか進まない中、再開調整を主催者と話し合う場を設けることができた。
・前年度に引き続き地域診断を行い、圏域内の活動の場を把握することができ、活動の場が少ない地域を把握することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・新型コロナの感染、まん延防止等重点措置に伴い、地域の活動も縮小していたり、活動休止していたりするところもあった。それらの情報を収集し、相談を受けた場合には、情報提供を行った。シニアリーダー体操は工夫をしながら実施していたので活動状況の確認を行い、必要時感染予防の指導を行った。
・地域資源の実態調査を行い、地区診断を行う事で、資料として活用できるようまとめることができた。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・地域活動の主催者と連絡をとり、情報の共有、現状の把握、再開に向けての確認を行うことができた。コロナ感染者数の増加やワクチン接種がなかなか進まない中、再開調整を主催者と話し合う場を設けることができた。
・前年度に引き続き地域診断を行い、圏域内の活動の場を把握することができ、活動の場が少ない地域を把握することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">地域診断で活動の場が少ない所を把握できたので、その地域の住民のニーズについて、民生委員や自治会の方々と協力し、情報交換、共有を行い、活動の場再開、拡大のための支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・地域の資源や地域の評価の高いサービス事業所などの情報、医療機関の選定等相談し、情報収集として活用した。
・コロナ禍での企画・運営に主センターとして協力した。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">在宅介護・医療連携支援センターとの連携は密にとれたが、多職種連携会議に関しては十分に関わることができなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターに、圏域内の医療機関や往診、専門医など情報収集と相談を行った。
・多職種連携会議は、コロナの影響で1回のみ実施。サブセンターの立場で、主センターへの協力を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">在宅介護・医療連携支援センターとの連携は密にとれたが、多職種連携会議に関しては十分に関わることができなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターとはさらに協力しながら情報共有を深めていく。
・多職種連携会議の企画・運営を積極的に行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・活動を継続している認知症カフェの支援は継続したが、コロナ禍により認知症サポーター養成講座を開催することができなった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">新型コロナの感染拡大により、認知症サポーター養成講座の開催はできなかったが、認知症地域支援推進員の活動として、感染対策を行い活動をしている認知症カフェに参加し、運営形式についての状況把握と情報共有を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>認知症サポーター養成講座については開催が困難であったが、認知症地域支援推進員の活動として、市内の認知症カフェの運営や立ち上げに携わった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座および認知症カフェ等を、コロナ禍でも安全に開催できるように、運営内容を検討する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・介護予防や地区診断の手法・地域ニーズの把握については看護職会議を中心に検討を行ってきたが、研修会への参加については積極的に行うことができなかった。
・活動している地域活動に対しては支援を行ってきた。コロナの状況が落ち着かず、再開できていない活動も多い。
・地域資源について把握できているものは回覧等で職場全体で周知し、活用を行うことができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・看護職会議を中心に地域診断の手法等について検討をし、資料の作成を行った。
・地域活動の支援を行い、コロナの状況に合わせて活動再開に向けた相談・支援を行っていく。
・地域資源を職員が活用できるように周知し、情報をまとめていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域活動の支援については、活動の準備を行っていたが、コロナ感染第6波の影響で活動自粛となったため、再開できていない。
・花園圏域の地域診断を行い、統計を項目ごとに調べ作成し、まとめることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・フォーマル、インフォーマルサービスの提案と利用、ニーズと社会資源の把握に努め活用していく。
・コロナ後の地域活動への再開に向けての必要な準備を整え、いつでも再開できるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3 総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・緊急事態宣言中も感染対策を行い、訪問を実施。課題の把握に務めた。
・困難事例等複数名での対応が望ましいケースについては、センター内で相談し、複数名で対応することができた。
・必要に応じて、適切な支援ができるよう、センター内で相談し、支援方法を検討、実施することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・緊急事態宣言中も感染対策を行い、訪問を実施。課題の把握に務めた。
・困難事例等複数名での対応が望ましいケースについては、センター内で相談し、複数名で対応することができた。
・必要に応じて、適切な支援ができるよう、センター内で相談し、支援方法を検討、実施することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・訪問での相談を基本とし、１つ１つの相談をしっかりと受けとめ、相談対応を行うことができた。
・朝礼等を通じて、スムーズに所内での情報共有を行い、連携して支援を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍で外出を控えている人も多くいるため、積極的にアウトリーチを行いながら、他機関とも連携して必要な支援が受けられるよう対応する。
・引き続き感染対策を徹底しながら、訪問での相談対応を継続し、正確なケース状況の把握と適切な対応が行えるようにする。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・虐待が疑われるケースについては、三職種で迅速に情報共有・対応の協議を行い、高齢障害支援課へ相談、指示を仰ぎながら支援を行うことができた。 ・成年後見制度が必要と思われる利用者に対して、相談、支援を行い、申し立てをすることができた。 ・虐待に関する普及啓発活動は、コロナ禍のため行うことができなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待の対応に関する研修に積極的に参加した。 ・虐待が疑われるケースは、早期に高齢障害支援課と情報を共有し、協議、対応を行った。 ・地域住民の活動等に参加する機会を通じて、高齢者虐待および消費者被害防止のための普及啓発を行った。 ・ケース状況に応じて積極的に成年後見制度等を提案し、後期も１件成年後見制度の利用につなぐことができた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	虐待対応に関する研修に参加したした職員から、その情報を他の職員にも共有し、包括３職種全員の対応力の向上に努めた。 虐待を疑われるケースについて、早期に情報共有し、連携して対応することができた。
	次年度に向けた展望	・引き続き虐待対応に関する研修に積極的に参加し、専門職としてのスキルアップを図る ・虐待が疑われるケースは、早期に高齢障害支援課と情報共有し、迅速かつ適切な対応を行う。 ・感染対策を行いながら、地域住民に向けて高齢者虐待、消費者被害の防止と早期発見に関する普及啓発活動を行う。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・包括主任CMの会は毎月開催・参加を行い、センター間での情報共有を行うことができた。 ・介護保険改正学習会を3センター合同で開催し、圏域ごとに分かれて意見交換を行った。 ・圏域内特定事業所の事例検討会の企画・打ち合わせへの参加を行った。 ・ICTを活用した会議は開催できなかったが、個別ケース等を通して圏域内のCMと連絡を取ることに努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・包括主任ケアマネの会はオンラインを活用し毎月開催・参加を行い、センター間での情報共有を行うことができた。 ・圏域内主任ケアマネの会は1回開催することができた。 ・居宅介護支援事業所と困難ケースの相談や、困りごとの把握に努め連携をし対応を行った。 ・ICTを活用した会議や学習会への参加することができたが、会議の企画や開催までは行えなかった。個別ケースに対して圏域内のケアマネと連絡を取ることに努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・ITCを活用した包括の主任ケアマネとの会議は定期的に参加はできたが、ICTを活用した会議の企画や開催を行うことはできなかった。 ・居宅介護支援事業所と連携をし、困難ケースに対して連携をし対応を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・地のケアマネージャーや多職種との連携を深め、問題点や課題を把握し、連携して対応していく。 ・ICTを活用した会議の企画と開催を行う。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置により、地域ケア会議を開催することができなかった。 個別のケースについて、民生委員や関係機関と連携し、支援を行うことができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・新型コロナの感染拡大に伴い、地域ケア会議の開催はできなかったが、次年度の開催向けたテーマについて、関係者と協議することはできた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・結果として年度内の開催は困難だったが、次年度の開催に向けた協議を行っている。
	次年度に向けた展望	次年度の重点的に活動する内容と、関連する地域ケア会議を、民生委員と行えるよう調整を進める。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症カフェ、サロン、自治会・地区社協などコロナ禍で活動自粛しており、個別的な相談等はあったが積極的にかかわる機会がなかった。南花園にあんしんケアセンターのパンフレットを全戸を目標に配布を始めた。
・花園公園での自主組織による浅野体操の会の立ち上げへの協力、初期運営のサポートを行った。
・コロナ禍での積極的な情報発信はできず、企画に関しても参加者がゼロの回もあった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍での活動の場の運営に関し、状況確認を行う。再開の可否に関して主催者と話し合いを行い、運営の支援を行った。
・感染拡大、住民の不安、活動運営側の不安、ワクチン接種状況、活動場所の環境状況により介護予防活動を行うことができなかった。その時期に必要な情報発信のみとなった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>介護予防活動に関して、年間計画はできていたが、タイミング的に感染拡大の時期に重なってしまうことが多く、感染リスクを考慮し中止した。年度後半ICTを利用する場が住民の中にも一部ではあるが浸透してきていたので、運営方法を検討し、活動を行うことができればよかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍での会議や勉強会など、さまざまの方法での提供の仕方ができるようになってきたので、ＩＣＴを利用する等の工夫をしながら介護予防活動を行えるようにする。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター幕張</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">幕張町から武石町にかけて急速に戸建て住宅が整備され、子育て世代の方々の転入が急増中。一方、古家跡地に単身者用集合住宅が多数建築され、若い単身者の転入出が目立つ。両親の呼寄せ介護の相談も増加しているが、転入者のセンター認知度は極めて低いと推測される。1970年代の海岸開発時、埋め立てにより拡張された地域に建築されたマンション群は、入居者の多くが後期高齢者になっている。自主活動組織の活動では、運営・参加者の高齢化に伴う役割交代が進んでいない。令和2年からのコロナ禍を機に、解散した老人会や活動再開の見込みが立たない団体もある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">1.行政機関や民児協や自治会をはじめ、社協地区部会や自主活動組織と連携し、高齢者が安心して暮らし続けられる環境整備を目指す。
2.地域住民間の顔なじみを増やし、変化への気づきや一声かけられる関係づくりの構築を推進する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・情報提供の場としてセンター屋外に掲示板を作成し、センター前の通行者に掲示物が見えるようにした。
・千葉市生活支援サイトを経由して、活動団体と連絡をとり、地域活動で共同できることを模索する機会を作った。買い物支援サービスとして、生活支援コーディネーターと、とくし丸等の情報共有をした。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・地域の歴史や文化財などの地域散策情報や生活資源情報を広報紙に掲載した。
・花や野菜の成長をきっかけに、あんしんケアセンターへ興味を示す方が複数人いた。
・ドラッグストアにて、介護予防体操の開催継続支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・偶数月に発行している広報紙にて、生活支援サイトの他、移動スーパーや千葉市幕張MaaS実証などの地域資源情報を提供した。
・あんしんケアセンター前にてプランター栽培を開始し、センター建物や掲示板が通行者の目に留まりやすいようにした。
・10月に開設した圏域境のドラッグストア開催の教室や催しについて、企画担当者とこまめに情報共有し、イベントチラシを配架した。
・活動場所がなくなったシニアリーダー体操教室に対し、新たな会場探しを支援し、継続開催につなげることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・地域の歴史や文化財などの地域散策情報や生活資源情報を広報紙に掲載した。
・花や野菜の成長をきっかけに、あんしんケアセンターへ興味を示す方が複数人いた。
・ドラッグストアにて、介護予防体操の開催継続支援を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・引き続き、圏域とその周辺の地域情報を生活支援コーディネーターと情報共有するとともに、包括3職種間での共有と広報紙等を活用して地域へ情報発信する。
・次年度夏以降開店予定のスーパーには、フリースペースが設置される予定。地域住民の集いの場、健康づくりの場として活用できる店舗担当者へ相談し、企画を提案していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・８月に、在宅医療・介護連携支援センターの協力を得ながら、区単位の多職種連携会議をオンラインにて開催した。WEB研修には積極的に参加し、医療と介護に関する知識習得に努めた。
・花見川区看護職会議にて、各圏域の地域分析やコロナ禍の影響などを情報共有した。会議に高齢障害支援課、健康課、青葉病院地域連携室を招き、病院と地域医療職の意見交換の機会とした。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・訪問診療と訪問看護事業所について、資料収集のみで一覧作成は出来ていない。
・多職種連携会議は、区単位のみ開催した。医療職と介護職の観察視点の差を再確認するとともに、意見交換により、各専門性や役割をより理解する機会となった。
・花見川区看護職会議にて、他圏域の現状や取組み課題等を情報収集できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・薬剤師会や在宅医療・介護連携支援センターとともに、事例検討会や地域ケア会議を開催した。
・花見川区主任ケアマネの会が中心となり、圏域ごとの学習会や事例検討会を開催した。
・花見川区看護職会議にて、圏域の地域分析と課題抽出を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・訪問診療と訪問看護事業所について、資料収集のみで一覧作成は出来ていない。
・多職種連携会議は、区単位のみ開催した。医療職と介護職の観察視点の差を再確認するとともに、意見交換により、各専門性や役割をより理解する機会となった。
・花見川区看護職会議にて、他圏域の現状や取組み課題等を情報収集できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・区内2あんしんケアセンター圏域での多職種連携会議を開催する。
・医療機関や相談窓口の情報整理と配付可能な一覧作成に取り組む。
・オンラインも活用しながら、居宅介護支援事業所だけではなく、介護サービス事業所も参加可能な事例検討会や学習会を開催する。</td></tr>
</table>

（3）認知症施策の推進				
前期	具体的な取り組み状況	・調剤薬局にて、認知症サポーター養成講座を１回開催した。緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の期間は、集合型の企画は控えた。認知症カフェの新たな会場探しは、保留中である。 ・認知症初期集中支援チームへ相談を依頼した。受診や治療継続の対応が中心ではあるが、ともに生活支援の視点から関りを持ち、支援方針を検討した。		
後期	具体的な取り組み状況	・後期に認知症サポーター養成講座は開催できなかったが、圏域内の団体や店舗へ認知症カフェについて説明と案内を行った。 ・認知症初期集中支援チームへケース相談した。対象者の入院や家族の支援同意が得られない状況での終結だった。 ・職種を限定せず虐待対応研修を受講し、権利擁護の視点と対応の法的根拠を理解した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・認知症カフェ開催場所や運営協力者を探したが、見つからなかった。 ・認知症の理解や相談窓口の周知の必要性について、理解を得られる団体や店舗が複数あり、ともに取り組むことへの同意を得られた。
	次年度に向けた展望	・引き続き、認知症サポーター養成講座を開催するとともに、活動団体や自治会等へ開催を呼びかける。 ・圏域内の複数店舗とともに、つながりや居場所づくりをテーマにしたイベントを企画している。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、開催時期を調整する。		
2　第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	・近隣事業所のコロナ陽性者・濃厚接触者発生情報は、随時センター内で共有した。 ・夏季から、利用相談が増加した。初回相談の調整にも時間を要す状況となり、センター内で緊急性を協議しながら業務や担当分担をした。居宅介護支援事業所には、繰り返しプラン作成業務の委託可否の問い合わせや依頼をした。 ・訪問型サービスの利用調整に時間を要すことが常態化しており、場合によっては自費サービスを先行調整した。		
後期	具体的な取り組み状況	・コロナ禍において、コロナ陽性者や濃厚接触者の発生が続いている。サービス事業所とともに利用者の状態を随時情報共有しながら、利用不安や気分不調の軽減を図るよう努めた。 ・重複した課題のある利用者の担当を依頼する場合には、ケアマネジャーが一人で抱え込むことのないよう丁寧な情報提供や支援方針の検討援助などを行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・課題の多いケースが増加している現状において、主担当以外の包括3職種もケース進捗を把握できるよう朝礼や随時の支援協議等を行い、情報共有を図った。 ・サービス利用調整の相談ができるよう近隣事業所の提供体制を把握し、随時、あんしんケアセンター内で情報共有を図った。
	次年度に向けた展望	・身元保証や緊急連絡先が確保できず、サービス利用が難航する利用者がいる。千葉市「おひとりさま支援ガイド」を指針に、関係機関とともに支援方法を協議する。 ・利用者が生活意欲を低下させずに暮らしていく事が出来るよう、介護保険サービス以外の千葉市事業や家事代行、通信サービス等の情報提供をする。		
3　総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・自己研鑽や知識習得を目的に、WEB研修に積極的に参加した。介護者の不在、ペットの多頭飼育、精神疾患、介入拒否など、複数の問題を抱える困難事例が多数あった。 ・広報誌の配布と自主活動組織への声かけを主に、当センターの周知活動を行った。担当者の顔がわかることにより、相談のきっかけを作りやすい雰囲気を作ることができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・コロナ禍で、まくはり北口郵便局で実施していたまちかど相談が実施できなくなったため、あんしんケアセンター前で毎月15日にまちかど相談を実施。 ・オンラインも活用し、包括3職種が積極的に研修を受講。研修後は他職員へ伝達し、受講者自身の復習機会としている。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・事例内容によって、困窮者支援事業者や花見川区基幹型障害支援センターと協働して支援に取り組んだ。 ・屋外でのプランター栽培や掲示板が通行者の目に留まったり、センター前でのまちかど相談をきっかけに立ち寄る方々もおり、あんしんケアセンターの周知につながっている。
	次年度に向けた展望	・毎月、あんしんケアセンター前でまちかど相談を実施する。偶数月には広報紙を発行し、センターの周知を図る。 ・朝礼や毎月の打ち合わせにおいて、包括3職種でケース情報と支援進捗を共有しながら対応方針を検討する。 ・包括3職種が、オンラインも活用しながら複数の研修を受講する機会を確保する。		

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・利用者の話の内容について、詐欺の危険性が高いと感じたため消費生活センターへ相談し、被害を未然に防ぐことができた。日常的に、消費生活センターの啓発パンフレットやポスターをセンター内で情報共有していたことが役立った。 ・保護対象者について、警察署からの問い合わせや情報提供書などで、生活状況や進捗状況、双方の関りを確認し、情報共有した。		
後期	具体的な取り組み状況	・職種を限定せず、複数職員が虐待対応研修を受講した。 ・成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワークの構築に向けた専門調査会に出席した。 ・成年後見制度や身元保証サービスの資料を整理し、各事例によって必要性や適性を検討しながら、情報提供した。 ・住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金について、圏域内の居宅介護支援事業所や病院へチラシ配布した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・地域の活動団体やケアマネジャー等へ消費生活センターからの発信を情報提供する機会を設けられなかった。 ・警察から保護情報や生活相談希望者の情報提供を受け、相談対応を行った。
	次年度に向けた展望	・虐待対応研修は職種を限定せずに受講し、各職員が虐待リスクや権利擁護の視点を持って対応ができるようにする。 ・消費生活センター発信の注意喚起や被害事例などは、被害防止や事件への気づき、防犯対策の実施につながるよう地域の活動団体やケアマネジャー等へ情報提供する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・区あんしんケアセンター主任ケアマネ会議にて各圏域の取り組みを把握するとともに、共通の課題や疑問などを協議した。圏域内主任ケアマネ会議を主催し、居宅介護支援事業所からの相談対応や制度理解を図った。 ・生活支援コーディネーターとともに活動団体の運営委員会へ出席し、団体の活動状況把握、質問に対する助言等を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域内の主任ケアマネジャーとの懇談会や居宅介護支援事業所を対象とした事例検討会を開催し、各事業所の現状把握や課題共有を図った。会の運営を機に、ネットワークを構築することもできた。 ・委託先事業所と、サービス利用実績やプラン作成関係の書類確認の機会を捉え、現状確認や意見収集を続けた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・所属を超え、主任ケアマネジャー間で役割分担しながらオンラインでの事例検討会を開催した。 ・委託先事業所を対象とした合同連絡会を開催し、グループワークを行った。
	次年度に向けた展望	・引き続き、事業所アンケートや随時の聞き取りを実施しながら、事業所の状況把握に努める。 ・区内開催の他、担当圏域内の居宅介護支援事業所・主任介護支援専門員とともに、圏域単位の交流会や事例検討会を実施する、併せて、オンライン開催時に多くのケアマネジャーが操作できるよう操作習得の機会を作る。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・個別事例の地域ケア会議を２回開催した。住環境の悪化や、地域住民との軋轢が生じつつある中で、セルフネグレクト状態にある対象者自身の現状認識や意向の変化がない経過において、介入や援助方法に難儀した。他機関や支援担当者と状況確認を密に繰り返し、介入方法や支援方針を随時協議した。		
後期	具体的な取り組み状況	・個別事例の検討会を3回開催した。 ・多頭飼育や住環境整備不良等の課題に対し、本人の意思・要望と公共・公衆衛生の妥当性などを関係機関とともに協議しながら、支援方針を検討した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・毎月開催の所内会議において、職員間でケースの進捗や課題共有と支援方針の検討を行っている。併せて、地域ケア会議開催の必要性についても協議した。 ・住環境整備の支援として、生活支援コーディネーターへ相談し情報収集した。
	次年度に向けた展望	・共通する課題や事象が多い事例は、地域ケア会議を開催し、地域課題の抽出を図る。 ・ケアマネジャーが、課題提出や出席しやすい会議運営ができるよう司会とファシリテーターの技術習得に取り組む。 ・生活支援コーディネーターとの課題共有と、地域資源の実態把握や開発について相談する。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍での感染予防対応として、シニアリーダー体操や自主活動組織の多くが活動休止した。休止中は、シニアリーダーや参加者に電話連絡を行い、心身状態を確認しながら、モチベーションを維持できるよう声掛けした。活動再開時は、会場訪問して感染予防対策の助言を行った。
・オンラインと小規模集合のハイブリットで、地域住民を対象とした介護予防教室を開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・感染予防対策を実施しながら、健康管理をテーマに、調剤薬局と介護予防教室を1回共同開催した。
・自主活動団体の活動継続支援として月1回程度訪問し、活動状況や活動運営に関する悩み等を確認し、助言や継続支援を行った。
・他者とのつながりとあんしんケアセンターの周知を目的に、マルシェ開催を企画した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・2月にまん延防止等重点措置が適用されたため中止したが、あんしんケアセンター近隣の店舗とともに、マルシェの協同開催を企画した。
・外出自粛の長期化により、体力低下してフレイルや要介護状態になった高齢者の相談が複数あり、健康維持のための助言や参加可能な活動団体の情報提供をした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・新型コロナ感染状況に配慮しつつ、近隣店舗とともに企画したマルシェを開催する。
・顔なじみの仲間を増やし、地域住民自身が相互の変化に気づいたり、互いに一声かけられる関係を醸成できるよう知り合いづくりのきっかけとなる場を提供する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター山王</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">戸建住宅、集合住宅においても地域コミュニティが機能している地域は多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。自治会のない集合住宅や新型コロナウイルスの影響から地域での活動が休止しているなど、要支援者の把握が難しい地域がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。ＩＣＴの活用などにより、地域活動が休止している地域においてもつながりが保持できるようにしていく。自治会のない地域に対しては、民生委員などと連携し、要支援者の把握に努めていく。
宮野木出張所においても自治会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などの関係機関と連携し、地域活動組織などの社会資源の把握に努めた。
・新型コロナウイルスの影響もあり、地域住民主体のサロンや支え合い活動の立ち上げなどの動きはなく、資源開発など積極的な関わりを持つことはできなかった。シニアリーダーや民生委員などとは会議を通じて連携を図ることができた。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">令和３年１２月に生活支援コーディネーターが不在となったこと、新型コロナウイルスの影響から、地域への関りを積極的に行うことができなかった。今までの活動から支えあい活動の検討について関りを持つことができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などの関係機関と連携し、地域活動組織などの社会資源の把握に努めた。
・ごみ捨て支援について検討している自治体に対し、情報提供を行った。
・生活支援コーディネーター第１層協議体へ参加した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">令和３年１２月に生活支援コーディネーターが不在となったこと、新型コロナウイルスの影響から、地域への関りを積極的に行うことができなかった。今までの活動から支えあい活動の検討について関りを持つことができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・生活支援コーディネーターの配置を目指し、社会福祉協議会などの関係機関との連携を継続することで、地域活動組織などの社会資源の把握を行う。
・シニアリーダーや自治会、民生委員、社会福祉協議会、生活支援コーディネーターなどと連携し、地域住民主体のサロンや支え合い活動の立ち上げや運営を支援する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携して多職種連携会議を開催し、医療機関や介護サービス事業所等との連携を図った。
・医療機関や介護保険事業所、行政、在宅医療・介護連携支援センターなどと、新型コロナウイルスへの対応をテーマとした地域ケア会議を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携して多職種連携会議を開催した。多職種連携会議では新型コロナウイルスへの対応をテーマとし、医療機関や介護保険事業所、保健所、介護保険事業課にも参加いただき、コロナ禍における医療と介護の連携を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">医療機関や介護保険事業所、行政、保健所、介護施設など新型コロナウイルスへの対応をテーマとした多職種連携会議を開催した。医療・介護を中心に対応に苦慮しているテーマであるため、多くの方に関心を持ってもらうことができた。オンラインを活用することで、人数を制限することなく参加してもらうことができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携して多職種連携会議や研修会などを開催し、医療機関や介護サービス事業所等との連携を図る。
・医療機関や介護保険事業所、行政、在宅医療・介護連携支援センターなどとネットワーク構築などを目的とした地域ケア会議を開催する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新型コロナウイルス感染症の影響により、認知症サポーター養成講座を開催することができなかった。中学校向けのキッズサポーター養成講座の打ち合わせなど、開催に向けた準備を行った。
・認知症初期集中支援チーム員会議へ参加。チームと協働して認知症で悩んでいるケースへの対応を図ることができた。
・認知症地域支援推進員である生活支援コーディネーターを配置し、更なる認知症施策の推進を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・中学校向けのキッズサポーター養成講座、認知症サポータースッテアップ講座を開催した。
・認知症初期集中支援チーム員会議へ参加。チームと協働して認知症で悩んでいるケースへの対応を図ることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>中学校向けのキッズサポーター養成講座、認知症サポータースッテアップ講座を開催することができた。認知症初期集中支援チームと協働して認知症で悩んでいるケースへの対応を図ることができた。認知症域支援推進員である生活支援コーディネーターが１２月より不在となった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域住民や企業、学校などに対して認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を広める。
・認知症初期集中支援チーム員会議への参加を継続し、協働することで認知症の早期発見・対応を図る。
・みかんの会への参加を継続し、認知症への理解を広められるようにしていく。
・認知症地域支援推進員である生活支援コーディネーターの配置できるようにしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターなどと連携してインフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供に努めた。
・適切な介護予防ケアマネジメントが行えるようチェック体制を整えて対応を行った。
・自立促進会議開催に向けた準備を行った。
・いきいき手帳の活用など自立支援を目的とした『稲毛まちづくり研修会』開催に向けた準備を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターなどと連携してインフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供に努めた。
・適切な介護予防ケアマネジメントが行えるようチェック体制を整えて対応を行った。
・自立促進会議開催に協力を行った。
・いきいき手帳の活用など自立支援を目的とした『稲毛まちづくり研修会』を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>生活支援コーディネーターによるインフォーマルサービスなどの情報把握を積極的に行うことができたが、１２月より不在となった。委託している方の介護予防ケアマネジメント管理を行うことができた。自立促進ケア会議や稲毛まちづくり研修会を開催し、自立支援についての考え方や手法について関係機関に広めることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターの配置を目指す。
・生活支援コーディネーターなどと連携してインフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供を行う。
・市と連携し、自立促進会議を開催する。
・適切な介護予防ケアマネジメントが行えるような体制を整える。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3 総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・様々な相談や課題に対し、必要に応じて３職種によるチームアプローチを行ったり、様々な機関と連携し、対応を行った。
・相談内容から地域課題が抽出できるような体制を構築できた。
・夜間休日の連絡・相談体制を整え、緊急時にも対応することができた。
・様々な地域機関と会議などを通し、ネットワークの構築を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・様々な相談や課題に対し、必要に応じて３職種によるチームアプローチを行ったり、様々な機関と連携し、対応を行った。
・相談内容から地域課題が抽出できるような体制を構築できた。
・夜間休日の連絡・相談体制を整え、年末年始の相談にも対応することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>チームアプローチや他機関と連携することで、相談内容に応じた適切な対応を行うことができた。地域や相談内容などを分類して記録することで、地域課題の抽出が行えるような体制を維持できた。夜間休日の連絡体制を維持し、時間外の相談にも対応することができた。ネットワーク構築のために参加可能な会議に積極的に参加を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・様々な相談や課題に対し、チームアプローチや他機関と連携することで、適切な対応を行う。
・相談内容から地域課題が抽出できるような体制を整える。
・夜間休日の相談体制を整え、緊急時にも対応できるようにする。
・様々な地域機関と会議などを通し、ネットワークの構築を図る。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢障害支援課と随時連携を図り、虐待や支援困難ケースに対し、同行訪問や会議の開催などの対応を行った。 ・地域ケア会議や事例検討会を行い、他機関との連携を深めた。 ・新型コロナウイルスの影響から地域活動がなく、消費者被害や成年後見制度の周知活動を行うことはできなかった。 ・稲毛区のあんしんケアセンター合同による権利擁護を目的とした研修会開催にむけた準備を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・高齢障害支援課と随時連携を図り、虐待や支援困難ケースに対し、同行訪問や会議の開催などの対応を行った。 ・事例検討会を行い、関係機関との連携を深めた。 ・虐待に関する研修へ参加し、スキルアップを図った。 ・稲毛区のあんしんケアセンター合同による権利擁護を目的とした研修会を開催した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	高齢障害支援課と連携し、虐待が疑われるケースへの同行訪問や個別ケース会議の開催などを行い、適切な対応を図ることができた。関係機関との事例検討会を開催し、連携を図ることができた。介護保険事業者と民生委員を対象とした権利擁護についての研修会を開催した。事例検討会も研修会もオンラインを活用し、人数を制限することなく参加してもらうことができた。
	次年度に向けた展望	・高齢障害支援課と随時連携することで、虐待や支援困難ケースに対し、迅速に対応できるようにする。 ・他機関と地域ケア会議や事例検討会を行い、連携を深める。 ・地域活動や研修会の中で消費者被害や成年後見制度の周知・啓発を行う。 ・権利擁護を目的とした研修会を稲毛区のあんしんケアセンター合同で開催する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のあんしんケアセンター合同で、ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会の開催とケアマネ通信の発行を行い、地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図った。 ・圏域の介護支援専門員に対しアンケートによるニーズ把握を行った。 ・支援困難事例に対して、同行訪問や会議の開催などにより、介護支援専門員への指導・助言を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のあんしんケアセンター合同で、ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会の開催とケアマネ通信の発行を行い、地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図った。 ・圏域の介護支援専門員に対し、意見・情報交換の場を設けた。 ・支援困難事例に対して、同行訪問や会議の開催などにより、介護支援専門員への指導・助言を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会の開催やケアマネ通信の発行など、地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを行うことができた。圏域内の介護支援専門員を対象とした意見・情報交換の場を設け、ニーズ把握や連携などを図ることができた。支援困難事例に対して、同行訪問や会議の開催などによる支援を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・稲毛区のあんしんケアセンター合同で、ケアマネ連絡会、主任ケアマネ会議、事例検討会などの開催やケアマネ通信を発行する。地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員に対するニーズ把握を行い、会議などによる連携や支援を図る。 ・支援困難事例に対して、同行訪問や会議などを通じ、介護支援専門員への指導・助言を行う。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・医療機関や介護保険事業所、行政、在宅医療・介護連携支援センターなどと地域ケア会議を稲毛区のあんしんケアセンター合同で開催した。 ・地域ケア会議に適した個別事例はなかったため、個別事例の地域ケア会議は開催できなかった。 ・地域包括ケア推進課と協働し、千葉市自立促進ケア会議開催に向けた準備を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・医療機関や介護保険事業所、行政、在宅医療・介護連携支援センターなどと地域ケア会議を稲毛区のあんしんケアセンター合同で開催した。 ・個別事例についての地域ケア会議開催にむけて準備を行ったが、状態の変化により中止となった。 ・地域包括ケア推進課と協働し、千葉市自立促進ケア会議開催を行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	稲毛区のあんしんケアセンター合同での地域ケア会議を定期的に開催し、様々な機関に参加していただき、連携を深めることができた。個別事例の地域ケア会議は開催できなかったが、地域ケア会議を活用した対応について検討することができた。地域包括ケア推進課と協働し、千葉市自立促進ケア会議を開催することができた。
	次年度に向けた展望	・医療機関や介護保険事業所、行政、在宅医療・介護連携支援センターなどとネットワーク構築などを目的とした地域ケア会議を稲毛区のあんしんケアセンター合同で開催する。 ・必要に応じて個別事例の地域ケア会議を開催し、対象者の地域における支援体制に関する検討を行う。 ・千葉市自立促進ケア会議を地域包括ケア推進課などと協働して開催する。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域のサロンにて「コロナ禍におけるフレイル予防」、地域交流の場にて「エンディングノート」をテーマとした講座を行った。
・介護予防イベントや測定会は新型コロナウイルスの影響から中止となってしまったが、センター主催の体操教室はＩＣＴを活用することで継続し、介護予防の啓発を行うことができた。
・介護予防を目的として活動する自主グループに対し、運営について確認を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域のサロンにて「いきいき活動手帳の使い方」について講座を行った。
・センター主催の体操教室は、リスク軽減のため休止もあったがＩＣＴを活用することで継続することができた。
・介護予防を目的として活動する自主グループに対し、運営について確認を行った。
・シニアリーダー養成講座や連絡会へ参加し、連携を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・参加者の状態や環境からオンラインのみでの開催は難しく、参加者や講師の安全確保の観点から休止したことはあったが、長期中断することなくセンター主催の体操教室を継続し、介護予防の啓発を行うことができた。地域のサロンや自主グループ、シニアリーダーと連携を図り、運営についての把握や支援を行うことができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域のサロンや地域交流の場などにおいて介護予防についての出前講座を行う。
・ＩＣＴを活用することで体操教室の開催を継続し、介護予防の啓発を行う。
・介護予防を目的として活動する自主グループに対し、運営支援を行う。
・シニアリーダー養成講座への協力を行い、連携を図る。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター園生</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">団地の高齢化率が高いのは変わらずだが、それ以外の地域でも昭和40年代に建築されたマンションが多く立ち並ぶところでは、住民の高齢化が進み、相談件数が増えつつある。
本人や家族が精神的な障害を抱えているケースが増えている（前年比より28件増）</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">コロナウイルスの状況にもよるが、対面式の相談方式だけでなく、オンラインやメールの活用等を用いる。
地域住民自身が地域の高齢化に対して、真剣に向き合っているところが多いため、地域ケア会議の活用等を促していく。
地域の高齢者やその家族に対し、ICTの活用ができるような講座を開催していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">コロナのために体操教室が中止されている期間の支援策として、ボランティアと協力し、い～ね草野で行っている体操DVDを作成し、希望者に配布した。また、同じ内容をyoutubeでも提供している。
オンラインでの相談に対応できるようにZoom環境を整えた。
オンライン勉強会（リハパートナーなど）に積極的に参加している。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍ということもあり、思うような支援ができたとは言えない。しかし、自治会へのオンライン講座や感染対策をしたうえでの体操教室の開催など、今できることは精一杯取り組むことができたのではないかと思っている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">コロナ禍のため前期は体操教室等も中止してきたが、後期は感染対策（参加人数をしぼり、時間をずらす等の対応）をしっかり行い、体操教室を開催した。オンラインでの相談に対応できるようにZoom環境を整えた。
生活支援コーディネーターと連携し、自治会等に対し、オンライン活用できるようインターネット講座などを開催。自治会などの機能が滞ることがないよう支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍ということもあり、思うような支援ができたとは言えない。しかし、自治会へのオンライン講座や感染対策をしたうえでの体操教室の開催など、今できることは精一杯取り組むことができたのではないかと思っている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">withコロナを意識し、様々な場面でのオンラインの活用をさらに目指していく。
体操教室のような、対面式で行うものなどは、感染症対策をしっかり行い、少人数、短時間でも効果のあるような形を目指していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">今年度は５月より２か月に１回を目安に「コロナ禍の医療・介護連携」を中心とした会議を在宅医療・介護支援センターや保健所等と連携し稲毛区全体で取り組み、稲毛区として施設や在宅等でコロナ感染が起きたとしても「みんなで支え合う」ことのできる地域づくりを目指した。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">年間を通じて、コロナ禍で稲毛区としてできることを検討できたのは非常に良かったと感じている。医療側、介護側、それぞれ互いの状況を理解することで、協力していこうとする意識が芽生え、自分たちができることは一体どういったことなのかということを考えるきっかけとなった１年ではなかったのかと思っている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">１２月に多職種連携会議を実施。コロナ禍の対応について前期に参加していただいた、保健所のみならず介護保険事業課にも参加いただき、さらに稲毛区全体として、対応について話し合いを持つことができた。
コロナで医療側が切迫している中、介護側が協力できることなどの意見交換なども行うことが、年度当初の目標とは若干異なるが、違った形での医療・介護の連携は図れた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">年間を通じて、コロナ禍で稲毛区としてできることを検討できたのは非常に良かったと感じている。医療側、介護側、それぞれ互いの状況を理解することで、協力していこうとする意識が芽生え、自分たちができることは一体どういったことなのかということを考えるきっかけとなった１年ではなかったのかと思っている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">コロナへの対応について検討していくことから、今後はコロナ禍で見えてきた課題（引きこもり、廃用症候群、虐待等）について、稲毛区全体として何ができるのかを検討していけるようにしていく。</td></tr>
</table>

（3）認知症施策の推進				
前期	具体的な取り組み状況	・認知症サポーター養成講座を実施した（６月にあやめ台いきいきセンターで実施）。ジュニアサポーターはオンラインでの開催になった。徘徊模擬訓練については自治会と打ち合わせを行い、コロナ禍なので「まだ控えたい」となっている。 ・認知症介護者の方の相談や心のケアに繋がるようにケアラーズカフェを実施した。 ・リハパートナーを利用し、認知症予防の効果的な運動について地域住民に対し講義を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	あやめ台いきいきセンターと共催で地域住民に認知症サポーター養成講座を実施(10/15)。介護予防教室ではリハパートナーの協力の下で認知症予防に関する「かんたん体操＆コグニサイズ」を実施した。また認知症カフェの運営サポート（本人ミーティングやチームオレンジ立ち上げなどをサポート）なども行った。認知症の疑いのあるケースなどは、認知症初期集中支援チームと連携し、問題が複雑になる前に対応を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	年度当初計画していた徘徊模擬訓練はコロナ禍のために実施することができなかった。 認知症サポーター養成講座も年３回になってしまったので、目標より回数は少なかったが、リハパートナーとの連携や認知症カフェのサポートをすることで、認知症サポーター養成講座を開催する以上に、地域における認知症への対応向上にはつながったのではないかと考えている。
	次年度に向けた展望	コロナの状況にもよるが、徘徊模擬訓練については自治会等に開催を呼びかけていく。 認知症サポーター養成講座の開催は都度計画していくが、それだけでなく認知症カフェの立ち上げなどにも力を入れていく。 認知症初期集中支援チームと連携し、問題が複雑化する前に対応していくようにする。		
2　第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	体操教室に行きたいが、腰痛が有り激しい運動は出来ない。どこか対応できるところはないかとの質問が有り、どのようなことならできるかヒアリングし、あやめ台いきいきセンターの方やボランティアと相談し、体操教室に行ける機会を作った。 体操教室や認知症カフェなどの開催日を把握し、相談者に一覧を作成し、紹介している。		
後期	具体的な取り組み状況	生活支援コーディネーターと連携し、体操教室前に出席者へ感染症などのレクチャーを実施した。また認知症カフェに参加し、活動内容の把握に努めた。高齢者に限らず、多世代が交流できる居場所作り（認知症カフェ・体操教室など）の立ち上げやインフォーマルサービスにおける生活支援サービス（外出支援、通院支援など）等、地域で活用できるサービスの把握に努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	現状で多世代交流ができているとは言えないが、それでも地域の中で「楽しみ」「生きがい」「居場所」になるような場所を立ち上げることができたのは非常に意味があったと感じている。 生活支援コーディネーターと連携したこともあり、インフォーマルサービスを活用した支援ができたのではないかと感じている。
	次年度に向けた展望	今年度立ち上げた「居場所」をさらに発展できるよう、民間企業やNPO法人、障害分野、児童分野の事業所とも連携していく。介護保険などの公的サービスだけでなく、インフォーマルサービス等を活用し地域の中で、解決できるような関係機関との結びつきをさらに強化していく。		
3　総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	対象外や圏域外であったとしても、まずは「話を聞く」ことを徹底。必要に応じて助言または他機関へつなぐ対応をした。 毎朝３職種で相談に対しアセスメントを行い、多角的な対応を検討した。 コロナ禍での訪問は各職員が不織布マスクと手指消毒剤を持参して行った。訪問が難しい場合にはメールやZOOM等を活用した。		
後期	具体的な取り組み状況	対象外や圏域外であったとしても、まずは「話を聞く」ことを徹底。必要に応じて助言または他機関へつなぐ対応をした。 海外に家族が住んでいるケースもあり、そういった場合などはオンライン（ZOOM等）を活用し、対応にあたった。 生活支援コーディネーターとも協力し、インフォーマルサービスを活用し、対応したケースも多かった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	どのような相談も「まずは聞く」という姿勢を職員全員が持つことはできていた。そのため民生委員や地域住民の方からも対象外、圏域外の相談は多かったが、それだけ相談しやすい環境ができていたと感じている。コロナ禍で大変なこともあったが、そのおかげでオンライン方式の活用が進み、海外在住の家族等とのやり取りがスムーズにできるようになったのは大きな発展と思っている。
	次年度に向けた展望	今年度同様、どのような相談も「まずは聞く」ということを念頭に対応していく。 生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスの活用をさらに進めていく。 家族などが遠方の場合などはオンライン方式を活用し、顔の見える関係を築きやすくしていく。		

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	虐待による死亡事案は起きていない。 成年後見制度を必要とする方が非常に増えてきており、弁護士をはじめとし、司法書士や社会保険労務士など多くの専門職と連携し対応していくことが多かった。ただ、申し立てから決定が出るまでの間の金銭管理や専門職でさえ成年後見人を理解できていないなど、非常に対応に苦慮することも多かった。		
後期	具体的な取り組み状況	年間を通じて虐待による死亡事案は起こすことなく対応ができた。 成年後見制度に関する相談が年間を通じて多く、様々な専門職と連携し対応していくことが多かった。 後見人が決まるまでの間の金銭管理や後見の必要性があっても、本人や家族の理解を得ることが難しいケースなども多く、このような場合にどう成年後見制度の利用につなげていくが喫緊の課題と感じた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	虐待の死亡事例が１年を通じてなかったのは非常に良かったと感じている。成年後見制度の利用も様々な専門職の協力の元に、結びつけることができたケースが多かったとも感じている。ただ、身寄りのない方や家族の協力が得られない方の場合、どうしても後見人が選定されるまでに時間がかかってしまい、その間の対応が行き詰ることも多く、今後の課題と感じた。
	次年度に向けた展望	引き続き、虐待による死亡ゼロを目指すとともに、早期発見、相談、対応ができる体制を維持していく。 成年後見制度の課題点に関して、過去の事例や他機関との情報交換を行い、適切な対応を速やかに図れるようにしていく。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	他あんしんケアセンター、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員と協働で、区内のケアマネジャーを対象とした、ケアマネ研修会（６月）、事例検討会（７月）を各１回ずつ開催した。 ３か月毎に圏域内居宅介護支援事業所や介護サービス事業所との情報交換、連絡会を生活支援コーディネータと協働で開催し、圏域での資源把握や活用、各居宅支援事業所が抱えている課題などの共有を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	他あんしんケアセンター、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員と協働で、区内のケアマネジャーを対象とした、ケアマネ研修会（１１月）、主任ケアマネ連絡会（１１月、２月）、事例検討会（３月）を開催した。 ３か月毎に圏域内居宅介護支援事業所や介護サービス事業所との情報交換、連絡会を生活支援コーディネーターと協働で開催し、圏域での資源把握や活用、各居宅支援事業所が抱えている課題などの共有を図った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	年間を通じて、オンライン中心ではあったが、ケアマネ研修会、事例検討会を開催、地域のケアマネのスキルアップを図ることができたと感じている。居宅支援事業所だけでなく、デイサービスや福祉用具事業者との情報交換等も行うことができ、圏域内の介護事業所との連携強化が図れたことは非常に意義があった。
	次年度に向けた展望	今年度同様、他あんしんケアセンターと協働でケアマネ連絡会、事例検討会等を開催していく。 センター単独では３か月～４か月に１回のペースで圏域内の居宅介護支援事業所や介護事業所と情報交換会を行い、圏域内の「地域力向上」を目指していく。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	２か月に１回程度を目安に稲毛区全体での地域ケア会議を開催し、稲毛区としての地域課題抽出を行った。そこで出てきた「コロナ禍での対応方法」という地域課題を多職種連携会議につなげている。 単独センターとしての地域ケア会議については何度か開催しようと試みたが、コロナ禍で自治会等の参加も難しく、見送りになってしまった。		
後期	具体的な取り組み状況	前期同様、２か月に１回程度を目安に稲毛区全体での地域ケア会議を開催し、稲毛区としての地域課題抽出を行い、その課題点などを多職種連携会議につなげていった。単独センターとしての地域ケア会議については後期も何度か開催しようと試みたが、コロナ禍で自治会等の参加も難しく、見送りになってしまった（個別ケースの地域ケア会議は開催している）。１１月に稲毛区自立促進ケア会議は実施することができた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	年間を通じて、２か月に１回程度稲毛区全体での地域ケア会議を実施できたことは良かった。単独での会議実施も試み、オンラインについても生活支援コーディネーターと連携し、自治会にはアプローチしてきたが、実施に至るまでにはならなかった。
	次年度に向けた展望	稲毛区全体としての地域ケア会議については年３回～４回の実施を計画し、そこでの課題点を多職種連携会議につなげていく形を考えている。単独センターでの地域ケア会議については個別ケース会議は必要時に都度開催する。地域課題抽出の会議に関しては、コロナの状況や自治会の状況に応じて開催を検討していく。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">公民館、近隣のドラッグストアの交流スペースを利用し、月１回程度地域住民を対象とした「楽しい・生きがいのある生活」を目的とする介護予防教室を開催した。
住民主体で立ち上がっているラジオ体操に参加し、いきいき活動手帳の配布等を行い、セルフケアの意識を高めた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">年間を通じて公民館、近隣のドラッグストアの交流スペースを利用し、月２回程度地域住民を対象とした「楽しい・生きがいのある生活」を目的とする介護予防教室や居場所づくりのイベントを開催した。
住民主体で立ち上がっているラジオ体操に参加し、いきいき活動手帳の配布等を行い、セルフケアの意識を高めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>参加人数は５人程度と少ないものではあるが、楽しみにしている方が多く、開催した意味はあったと感じている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">今後は高齢者に特化した形ではなく、多世代交流や共生社会の一つとなるような居場所づくりやイベントなどが開催できればと思っている。
シニアリーダーと協力し、いきいき活動手帳をさらに活用できるようにしていきたいと考えている。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター天台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">・認知症高齢者や精神障害を抱える高齢者が地域で暮らしていけるよう法整備が進んできた反面、地域における住民トラブルが増加し、問題が複雑化してきている。
・コロナウイルス感染症蔓延に伴い、通いの場が中止となり、在宅高齢者が自宅に引きこもりがちになっている。
・8050問題や経済的困窮など、一つの世帯が様々な問題を複合的に抱えている事が多く、他機関と連携して対応するケースが増えている。また、適切な窓口が見当たらないケースも起きている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・高齢者の担当機関だけでなく、障害や児童も含めた様々な関係機関と協力し、地域の課題解決に向けて働きかけを行って行く。精神疾患を患う方や若年層の引きこもり等に対応できるアウトリーチ機関の必要性について声を上げていく。
・若い世代に対して積極的にアプローチを行い、将来の担い手に当たるべき社会資源の確保に努める。
・地域活動の担い手となる住民に対してＩＣＴの活用等について学ぶ機会を作り、どのような状況下でも地域活動が停滞する事の無いような環境整備を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・各地域における地域ケア会議はコロナウイルスの影響の為、実施する事が出来なかった。Ｚｏｏｍ開催等も検討したが、自治会や民生委員等の地域側がＩＣＴの環境が整っておらず実施できなかった。
・個別ケース会議を4回、稲毛区のあんしんケアセンターと協働しての地域ケア会議を2回、多職種連携会議を1回実施、健康測定会を1回、認知症当事者ミーティングを1回実施した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・後期は稲毛区全体として多職種連携会議を1回、地域ケア会議を２回実施。主にコロナ禍における医療と介護の連携をテーマに関係者間で話し合いを行った。
・いきいき活動手帳について民生委員を対象に勉強会を実施、セルフマネジメントの重要性について周知を行った。
・感染症対策を行いながら体操教室や認知症カフェを継続した。健康測定会も１回実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・圏域での地域ケア会議は開催できなかったが稲毛区全体で開催することが出来た。個別ケース会議も随時行い、関係機関と協力しながら解決に結び付けることが出来た。
・今年度の新たな取り組みとして認知症本人ミーティング、スマホ教室を開催することが出来た。
・コロナ禍でも感染症対策を行いながら既存の活動を継続することが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・稲毛区全体としての多職種連携会議、地域ケア会議を次年度も開催し、関係機関と連携を図る。
・健康測定会や体操教室を通じ、高齢者の閉じこもり防止やフレイル予防、セルフマネジメントの普及啓発を行う。
・スマホ教室を始めとするＩＣＴ活用について、地域住民向けに勉強会を開催する。
・若い世代との交流を通じ、地域共生社会に向け認知症の理解を促したり、担い手不足解消の足掛かりとする。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・稲毛区のあんしんケアセンターと協働して、医療と介護の従事者を集めた地域ケア会議を2回、多職種連携会議を1回開催、主にコロナウイルス感染症の対応について話し合いを行う事が出来た。
・認知症コーディネーター及び推進員の医療介護連携班として班会議等の活動を定期的に行った。
・青葉病院主催の在宅医療コーディネーター研修に参加、医療コーディネーターとしての知識を深めた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・多職種連携会議を年2回、地域ケア会議を年3回実施、医療と介護の連携をテーマに話し合いを行った。
・入院時連携シートやオレンジ連携シートの積極的活用を行った。
・認知症推進員の医療・介護連携班として、認知症高齢者の意思決定支援についてケアマネージャーや医療機関に向けてアンケートを取る為の下準備を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・多職種連携会議や地域ケア会議を通じて、コロナ禍における医療と介護の連携について話し合いを行い、関係機関との連携を強化することが出来た。
・圏域のケアマネ連絡会にて看護小規模多機能の勉強会を行うことが出来た。
・初期集中支援チームとの連携を図りケースの問題解決へ繋げることが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・多職種連携会議や稲毛地域ケア会議を通じて、感染症や災害時においても事業を継続することが出来るような体制作りについて、平時における医療と介護の連携をテーマに話し合いを実施していく。
・認知症高齢者の意思決定支援についてのアンケートをケアマネや医療機関に実施する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・朝ミーティングでは昨日の総合相談全件について3職種で報告と検討を毎日実施し、ケースによっては検討会議を開催した。3職種内の情報共有と、多角的なアセスメントによる相談対応のスキルアップを図った。
・地域の民生委員、事業者、ケアマネジメント対象者、見守り対象者との定期的な情報交換（電話連絡、電話によるモニタリング、オンライン会議等）を実施した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症カフェ参加者と、当事者ミーティングを開催。認知症サポーター養成講座は中学１年生を対象に、介護サービス事業所のキャラバンメイトとともに開催した。
・個別相談は、サービス拒否のケースや未受診ケース等を中心に初期集中支援チームに依頼し、協働している。
・認知症地域支援推進員・認知症コーディネーター活動では、医療・介護連携班の活動に参加、協力を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・今年度新たに開催した当事者ミーティングによって、地域住民らは認知症となる前からの関わりを継続できる力があると知ることができた。地域住民向けの認知症サポーター養成講座や声掛け訓練は、コロナ禍で自治会活動が低迷していた為開催できなかった。初期集中支援チームへの依頼ケースについては、役割分担をして対応に当たることで、課題解決につなげることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・当事者ミーティングや、当事者の声を聞くことができる講演会などによって、地域住民も関係機関も、『認知症だから』と区別せずに、その人らしさを受けとめた上で適切な対応ができるような地域づくりを目指す。講演会などは開催方法を調整することで、幅広い参加を図っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍の影響で地域のサロンや体操教室が休止中であるが、現在継続している教室・サロン等を第1号利用者に対して周知し、利用するように働きかけている。
・第1号対象者に対しても、必要時いきいき活動手帳を利用し、利用者自身のセルフマネジメントに対する働きがけを行っている。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍でも継続している教室・サロン等を第1号利用者に対して周知し、利用するように働きかけた。
・公民館と協働し介護保険制度についての講演会を行った。
・第1号対象者に対しても、必要時いきいき活動手帳を利用し、利用者自身のセルフマネジメントに対する働きがけを行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍の影響でインフォーマルサービス自体が少なくなってしまったこともあり、周知や利用するように働きかけは行っていたものの、介護保険サービスに偏ってしまってしまったように思う。また介護保険サービスを利用し始めるとインフォーマルサービスの利用がなくなってしまうことも多かった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・介護保険制度についての講演等により、サービス利用した場合の知識について周知を図る。
・要支援者、事業対象者がインフォーマルサービスを選択できるよう、継続的に情報提供を行っていく。
・地域ケア会議等を通じて地域課題の把握に努め、既存サービスでは解決が難しい場合は、生活支援コーディネーター等と協力しながら新たなサービスの創設に向けた働きかけを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・朝ミーティングでは昨日の総合相談全件について3職種で報告と検討を毎日実施し、ケースによっては検討会議を開催した。3職種内の情報共有と、多角的なアセスメントによる相談対応のスキルアップを図った。
・地域の民生委員、事業者、ケアマネジメント対象者、見守り対象者との定期的な情報交換（電話連絡、電話によるモニタリング、オンライン会議等）を実施した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・朝ミーティングおよびケース検討会議を継続的に開催し、3職種内の情報共有と、多角的なアセスメントによる相談対応のスキルアップを図った。
・地域の民生委員、事業者、ケアマネジメント対象者、見守り対象者との定期的な情報交換（おたよりの発行、電話連絡、電話によるモニタリング、オンライン会議等）により、困りごとを抱えている方の早期発見につなげた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍の影響で、閉じこもりによるフレイル状態の高齢者が増え、相談件数が増加する一方、感染を恐れて訪問を忌避する傾向がはっきりする中で、感染対策をほどこしながら、相談者に寄り添った受容、傾聴の姿勢を守りながら、相談支援を継続し、関係機関と連絡を取りながら解決に向けた活動を続けてきた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍はまだ続くものと想定し、地域コミュニケーションの働きがさらに弱くなる中、これまでに培った地域とのつながりを維持、有効活用して、ニーズ把握につなげていく。
・コロナ禍の影響もあり複雑化している総合相談に対し、チームアプローチに取り組むことで、より的確な状況判断を行ない、適切なサービス及び関係機関につないでいく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・センターお便り春号、夏号を発行した。
・認知症高齢者のＳＯＳ対応声掛け訓練や認知症サポーター養成講座は新型コロナウィルス感染拡大のため、延期及び中止となった。
・後見制度、日常生活自立支援事業の利用に向け、オンライン研修受講によりセンター内スキルアップを図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・センターお便りの発行、地域ケア研修会をコロナ感染防止の為オンラインで開催し、権利擁護（高齢者虐待の早期発見）の周知、理解を深めた。
・成年後見制度、日常生活自立支援事業の利用に向け、研修受講によるセンター内スキルアップを図る。
・高齢者虐待に関する、関係機関との事例検討会を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍のもと、人々が家庭内に閉じこもり傾向にある中、高齢者虐待の通報が増えたが、事業者、行政と適切に情報共有を図り対応できた。
・コロナ感染予防を考慮して、地域ケア研修会をオンライン開催したり、センターお便りを定期発行したりして権利擁護の周知、理解を深めた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍はまだ続くものと想定し、地域コミュニケーションの働きがさらに弱くなる中、これまでに培った地域とのつながりを維持、有効活用して高齢者虐待の早期発見につなげる。
・コロナ禍の為、集合研修開催が困難な中で、オンライン研修環境を整えて、地域ケア研修会等のオンライン開催を積極的に進め、権利擁護の周知、理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・稲毛区全体としてのケアマネ向けの研修会を1回、事例検討会を1回、Ｚｏｏｍ等を活用して実施した。
・稲毛区のケアマネに向けて「ケアマネ通信」を発行、地域の情報提供を行った。
・圏域の主任ケアマネと共に、災害弱者向けの防災マップ作りを企画し、地域の居宅支援事業所ケアマネが圏域の危険箇所をマップに落とし込んだ。主任ケアマネと共に地域の防災訓練等に参加した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・後期は稲毛区ケアマネ研修会と事例検討会、自立促進ケア会議をそれぞれ1回実施した。
・天台圏域において圏域ケアマネ連絡会と、圏域主任ケアマネ連絡会をそれぞれ2回ずつ実施した。
・圏域のケアマネが主体となり、圏域における災害弱者の為の防災マップを作成した。
・主任ケアマネ共に稲毛区の障害施設や新規オープンの特養に取材に行きケアマネ向けの広報誌を発行した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・感染症蔓延においてもＺｏｏｍ等を活用し、当初の計画通りに研修会や事例検討会、自立促進ケア会議等を実施する事が出来た。
・圏域のケアマネージャーが協力して災害弱者用の防災マップを作ることが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・稲毛区の主任ケアマネと共に研修会や事例検討会、自立促進ケア会議開催に向けて企画、準備を行う。
・圏域内の民生委員とケアマネの交流会を企画、実施する。
・圏域内の主任ケアマネと共に救命救急の研修会を企画、実施する。
・地域ケア会議を活用し、災害弱者支援について圏域のケアマネと共に地域に向けて情報提供を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・個別ケース会議は前期に４回開催し、関係者間での状況整理ができ今後の支援方法の共有が図ることができた。地区別のケア会議は、圏域内の各自治会がコロナ対策で恒例行事を中止している状況を鑑みて、開催を控えた。専門職中心の地域ケア会議は他センターとの合同で２回のオンライン開催となった。
・自立促進ケア会議は１０月開催に向けて準備をした。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">町丁別の地域ケア会議は、前年度から予定していたものも含めて、コロナ禍や各自治会の都合などによって開催には至らなかったが、稲毛区全体では専門職中心の会議が２回、個別ケース会議は４回、自立促進ケア会議は１回開催することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>稲毛区全体や個別ケース会議は定期的に行うことができたものの、町丁別の地域ケア会議は一度も開催できなかったため。新型コロナ感染のピークアウト時期が見いだせず、地域活動に積極的な自治会においても役員が高齢者であるため、感染への不安感が強く、会議やイベント開催については賛同が得られなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・関係機関と協力して、自治会等地域の方がICTを活用できるような取組を重ねながら、町丁別でもオンラインでの会議開催ができるような運営方法を検討していく。
・稲毛区全体での会議や自立促進ケア会議は関係機関と調整しながら定期開催をする。また、個別ケース会議については、相談内容に応じて適宜開催としていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・緊急事態宣言の延長が続いた関係で、周知の機会が減ってしまったが、地域の防災訓練に参加したり、自治会長や民生委員、シニアリーダーと密に連絡をとり、後期に向けて介護予防の講話等計画を策定できた。
・都賀公民館で、健康測定会を実施。いきいき活動手帳利用したセルフケアマネジメント促進のため、会議準備を行った
・い～ねの会は感染対策を講じて休止することなく継続。グリーンカフェにおいては、オンライン等も活用し継続できた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・稲毛区保健師職会にて、いきいき活動手帳をツールとしたセルフマネジメントの地域ケア会議を行った。
・サロンや体操教室等で介護予防の講話やいきいき活動手帳の交付を行った。民生委員向けにいきいき活動手帳の勉強会を行った。
・高齢者の外出支援の為公民館2カ所で健康測定会を実施。地域リハを活用し、い～ねの会・グリーンカフェも継続できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>セルフマネジメントの研修会をきっかけに、いきいき活動手帳への関心が強まり、勉強会を開催したり、サロンや体操教室でいきいき活動手帳の交付をし、セルフマネジメントやフレイル予防への周知を広く行うことが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・自治会やシニアリーダー体操など地域の集まり等に参加し、随時介護予防やいきいき活動手帳についての周知をする。
・健康測定会などの単発イベントを企画し、介護予防に取り組めるよう、ミニ健康講話を実施する。
・フレイル予防や閉じこもり予防のため、い～ねの会とグリーンカフェを継続する。継続にあたっては感染症対策に留意し、ICT活用にも取り組んでいく。また、参加者にはいきいき活動手帳の活用支援をし、セルフマネジメントできるよう促す。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター小仲台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">町会・自治会の組織がある中でも、自治意識の差が生じている。自治意識が高い地域(小仲台、穴川)は高齢者同士の助け合いを目的としたサークル結成など、自助だけではなく互助への和が広がっている。一方、組織の自治意識が比較的低い地域(轟町、弥生町)は、自助、互助への意識が低く、公助、共助を利用し、生活再建を目指す傾向にある。そのため、地域の問題を住民主体で解決することが難しい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">コロナ禍で住民主体で集合したサロン、体操教室、またあんしんケアセンター主催の講座や出張講座の開催は難しいことが想定される。しかし、ICTなどを活用しながら感染予防を講じるとともに、新たな開催形態を模索し、今後も介護予防を含め、個人の課題から地域で取り組む具体的課題へ変換できるように働きかけていく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令により、高齢者サロンはじめ地域住民の集いは一度一部再開となったが、継続とはならなかった。目標に掲げていた「これから計画」について周知できる場所がなかった。
・5月と8月に「あんしんケアセンター小仲台だより」を発行した。内容は、出張相談会の案内や、認知症サポータ養成講座の開催報告、周知について記載した。民生委員の定例会に持参したり、町内会や自治会、薬局に配布し掲示してもらったりすることで周知活動を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・新型コロナウイルス新規感染者数の推移を考慮したうえで、体操教室を中心に一時期再開の流れがあったが、高齢者サロンなどの集いの場は感染管理の問題から中止が続いている。開催された相談会、講座などでは生活支援や介護予防に関する相談、周知を行った。
・前期より引き続き「あんしんケアセンター小仲台だより」を発行し、認知症サポーター養成講座の案内や出張相談会のお知らせ等について掲載した。民生委員の定例会や町会、自治会、薬局に配布し、掲示を依頼し、周知を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">新型コロナウィルスの感染の収束が見えず、対面での活動は一部困難だった。それでも活動を止めずに、書面などで出来る啓発活動を続けることが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・今後も引き続きコロナ禍で地域住民がどのように生活するかを考えていけるように「これから計画」を深化させる。
・民生委員の定例会への出席、サークルの後方支援を通じて顔の見える関係づくりに努め、住民主体の地域活動を支援する。
・地域特性や暮らしに必要な情報、介護予防に関する情報などを「あんしんケアセンター小仲台だより」を発行することで、周知していく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・今年度は5月、7月に多職種連携会議を開催した。コロナ禍にまつわるテーマで継続し、5月はクラスターを起こしたグループホームの施設ケアの報告から地域で出来る支援について、7月はクラスター発生時に自施設の感染マニュアルが対応可能かを検討した。
・稲毛研究会の流れを引き継ぐ地域ケア会議を9月に開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・後期も引き続き、12月に多職種連携会議、3月に地域ケア会議を開催した。
・12月は千葉市保健福祉局高齢障害部介護保険事業課、千葉市保健所感染症対策課をゲストスピーカーとしてお呼びして、今回のコロナ禍での対応を経験した上で、これからの感染症に負けない支援体制づくりについて検討した。
・3月はコロナ禍で人とのつながりをどのように維持していくかなど、コロナ禍に見えてきた地域の課題を検討した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・コロナ禍で見えてきた課題を地域の多職種と共有し、検討する機会を作ることが出来た。
Zoom形式での会議運営も開催者側としても慣れてきたこともあり、予定通り滞りなく実施することが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・多職種連携会議の開催(年2回)
・医療介護連携を目的とした地域ケア会議の開催(年2回)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域から依頼を受けて認知症サポーター養成講座を1回開催した。
・民生委員からの総合相談から民生委員を中心に2つの地区で認知症サポーター養成講座を企画、開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チームと毎月会議を行い、連携しながら認知症の方の個別支援を行っている。
・認知症サポーター養成講座は企業に１回、中学1年生に対し2回、小学4年生に対し1回実施した。ジュニア・キッズ認知症サポーター養成講座では、認知症ステップアップ講座を受講したボランティアや地域のキャラバンメイトを交え実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>認知症サポーター養成講座は感染対策を行いながら計画通り開催できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・引き続き地域の認知症サポーターやステップアップ講座修了者にも協力を求め、チームオレンジにつながるような体制作りをしていきたい。自治会や民生委員のみならず学校、銀行、商業施設などで継続的に認知症サポーター養成講座の開催する意味を伝え、地域全体で認知症普及啓発出来る体制を作っていきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・集団に対し、基本チェックリストを広く実施し、事業対象者を把握することはコロナ禍で行えていないのが現状である。そのため介護支援専門員、民生委員、シニアリーダー、生活支援コーディネーターを対象に自立支援向上を目的とした研修（稲毛まちづくり研修会）を企画した。
・小仲台便りを発行し、マンション内や公民館、薬局などに掲示してもらっている。内容は毎回様々であるが、高齢者自らが介護予防や健康の維持・増進に向けて取り組めるような情報提供を行った。
・いきいきサロンの再開目処が立たないため、轟、弥生地区で毎月1回出張相談会を開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・毎月1回轟町・弥生町の出張相談会で参加者へ基本チェックリストを行い、第1号介護予防対象者の把握に努めた。同時にいきいき活動手帳を交付し、参加するときは持参していただいている。記載内容をチェックし、継続支援できる体制作りを行っている。
・稲毛まちづくり研修会を10月に実施した。いきいき活動手帳の問い合わせが増え、民生委員やシニアリーダー、介護支援専門員が活動する場へ出向きセルフマネジメントについて説明し、幅広い対象者へ交付できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍において感染対策に留意しながら活動できたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・「いきいき活動手帳」がセルフマネジメントに役立つよう使用するためには、専門職の定期的なモニタリングが必要であると考えているため、次年度は交付した各種団体のリーダーと連携を図りながら参加者がそこに通い続けられるよう自立支援を行っていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者の総合相談窓口であることの周知として、小仲台便りを活用し、区役所や公民館などの掲示や住民への配布を行った。
・４月より各月１回弥生町出張相談会・轟県営住宅出張会を開催し、センターの活動内容の周知を行うとともに、相談を受けた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者の総合相談窓口であることの周知として、小仲台便りを活用し、区役所や公民館などの掲示や住民への配布を後期は2回実施予定。
・感染拡大防止のため２月は中止したものの、４月より各月１回弥生町出張相談会・轟県営住宅出張会を開催し、センターの活動内容の周知を行うとともに、相談を受けた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・感染対策を講じたうえで、小仲台便りの掲示や配布を行うとともに、出張相談会の開催や民生委員の定例会への出席により「高齢者の総合相談窓口」としての周知を行い、顔の見える関係づくりを行った。
・所内会議では全職員でケースについて共有をし、対応方針の決定を行い、全体化を図っている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・今年度同様、感染対策を十分に講じたうえで、「高齢者の相談窓口」としての周知と顔の見える関係づくりを図っていく。
・ケースについては全職員で情報の共有を図り、対応方針を決定することで、早期発見・早期支援に努めていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・行政や関係機関と顔の見える関係を構築するため、稲毛区５センターで協同し、事例検討会を１回開催した。
・相談対応で必要なケースについては高齢障害支援課へ早期に連絡し、情報共有を図っている。
・稲毛区５センターの社会福祉士で介護サービス事業所向けに、11月に「高齢者虐待」をテーマに地域ケア研修会の開催に向けて準備している。
・消費者被害等について、小仲台便りを活用し、周知を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・行政や関係機関と顔の見える関係を構築するため、稲毛区５センターで協同し、事例検討会を１回開催した。
・相談対応で必要なケースについては高齢障害支援課へ早期に連絡し、情報共有を図っている。
・稲毛区５センターの社会福祉士で11月に「高齢者虐待」をテーマに地域ケア研修会をZOOM開催した。介護サービス事業所や民生委員の参加により、高齢者虐待の早期発見の視点で、各々の立場から意見交換ができた。
・第２稲毛ハイツの出前講座で「スマホトラブル」について消費者被害について講座を開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・早期発見ができるよう、相談窓口としての周知を行っている。
・事例検討会を通じて、行政や関連機関との顔の見える関係づくりを行ってる。
・稲毛区５センターで協働し、地域ケア研修会を１回開催した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・感染対策を講じたうえで、地域ケア研修会を実施し、介護サービス事業所向けに権利擁護の意識が高められるように研修会を開催していく。
・事例検討会を継続して開催し、行政や関係機関と顔の見える関係となることで、連携を図る。
・センター広報誌等を活用し、権利擁護について周知していく。</td></tr>
</table>

5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・計画予定していた研修会開催したり、自立促進ケア会議を開催する準備の為の打ち合わせをすることで、多職種による連携を図り、介護支援専門員の資質向上を図った。 ・ケアマネ交流会は感染症の拡大により、中止した。		
後期	具体的な取り組み状況	具体的な事例を通して高齢者が地域で暮らしていけるようにインフォーマルサービスなどの地域的資源の情報収集と、新たな課題への取り組みを研修会や自立促進会議などで検討していった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	圏域の介護支援専門員に対する研修や、稲毛区全体の研修など1回ずつ行っている。 自立促進ケア会議等開催して、関係機関と連携を図り、介護支援専門員の実践力向上を努めた。
	次年度に向けた展望	コロナ禍でＺＯＯＭ研修になるが、参加できる人対象に行う研修を次回からも継続していく。ZOOM研修参加できる環境にない人の参加を圏域のあんしんケアセンターにて参加してもらうことで、区内の介護支援専門員が参加出来るようにしていく。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・医療介護連携を目的とした会議を1回実施した。 ・個別事例の会議を2回実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	・医療介護連携を目的とした地域ケア会議を2回開催した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・前期同様Zoom形式で開催し、計画通り実施できた。内容もコロナ禍での課題について参加者と共有し、これからの検討課題についても見出すことが出来た。
	次年度に向けた展望	・来年度は地域ケア会議で見出した検討課題を次の多職種連携会議で検討するという流れを意識し、多職種連携会議に合わせて開催回数を年2回とする。 ・個別の事例検討を目的とした地域ケア会議も必要時開催する。		
7　一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・今年度、重点的活動地区にあげた轟町・弥生町地区において、毎月出張相談会を行った。相談に来る方以外には、集いの場を求めて参加される住民も多く、健康測定会や体操など介護予防活動も行ってきた。 ・自主サークルの後方支援として、生活支援コーディネーターが定期訪問を行った。 ・第二稲毛ハイツの出前講座は緊急事態宣言中、自治会館が使用できないため、６月と7月のみの開催となった。 ・いきいきサロンの再開が未定であり、民生委員と関わる機会が減少しているため定期的に民生委員の定例会を訪問した。そこで介護予防について情報提供をしたり詐欺被害などの注意喚起をしたりした。313地区では定例会を使って認知症サポーター養成講を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・轟町・弥生町地区に毎月「出張相談会」として訪問し、後期は集いの場を求めて参加される住民が固定してきたため、健康測定会や体操など介護予防活動を中心に行った。来年度にむけ、シニアリーダーを交えた体操や脳トレを実施し自主活動化できるよう調整中。 ・自主サークルの後方支援として、生活支援コーディネーターが定期訪問を行った。 ・第二稲毛ハイツの出前講座（毎月1回開催）は感染状況から11月と12月の開催となった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	感染状況に応じ、一般介護予防支援活動を行っているため。
	次年度に向けた展望	・轟町・弥生町地区の出張相談会は、住民主体の体操教室（シニアリーダー教室）につなげる予定。 ・自主サークルは今後も後方支援を行い、定期訪問する。 ・第二稲毛ハイツの出張講座は感染状況をみながら開催の有無は決まるが、毎月実施の予定で計画している。 ・いきいきサロンが再開されれば、定期訪問する予定である。		

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター稲毛</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">圏域における高齢化率は２０．７％で若い世代も多く住む地域である。公共交通機関の利便性が高いため、近年新しく大型マンションが建設され若い世代の転入が大きく影響している。また利便性を求め、高齢者のマンションへの転入も多くく、世代格差や、地域のつながりが築きにくい傾向がある。新天地での環境で交流が深められず孤立化したり、同居世代でも子世代が就労により日中独居となり、他者との交流がないまま孤立した時間を過ごし、不活動になる。旧来の居住者に関しては近隣者と繋がりがあっても、互いの身体面の低下や配偶者の他界により孤立化しているため、地域活動の促進を急務に進める必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">地域資源を有効活用し全世代が暮らしやすい地域を創り出す。
関係機関と連携し、地域住民のニーズ把握から地域課題を発掘する。専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。また地域課題を発掘するために地域ケア会議を実施しネットワークを構築する。高齢者に必要な情報を講座や情報誌等で発信し、幅広く啓発ができるよう進めていく。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・黒砂台３丁目　住民主体の歩こう会の発足の支援を行い、週一回の通いの場としてグループ化した。
・黒砂公民館のラジオ体操会開催や緑黒砂地区部会と連携しzozoの広場にてラジオ体操会を開催した。
・毎月あんしん新聞の発行を行い、地域住民へ介護予防普及啓発や制度の情報提供等を発信した。
・介護予防教室「体操」黒砂・稲毛公民館で毎月１回開催した。介護予防に関するメールを月一回配信した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・自治会、民生委員、専門学校と連携し３か所の会場で骨密度測定会を開催した。
・稲毛いきいきプラザにて、いきいき体操を普及し、誰でも参加できる住民主体の自主体操を毎週定時開催した。
・黒砂台３丁目：住民主体の「歩こう会」にてLINEによる交流、いきいき活動手帳活用によりグループ育成を行った。
・毎月あんしん新聞の発行を行い、地域住民へ介護予防普及啓発や制度の情報提供等を発信した。
・介護予防教室「体操」黒砂・稲毛公民館で毎月１回開催した。介護予防に関するメールを月一回配信した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">介護予防の一環として栄養と運動を意識してもらうために、骨密度測定会を行い、多くの地域住民が参加し、健康増進に取り組むことができた。
いきいきプラザの介護予防活動に住民主体で行えるいきいき体操を普及し、誰もが参加できる住民主体の活動を毎週開催することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・地域ケア会議で住民の声を聴き、生活支援コーディネーターとともに住民のニーズに基づいた活動を協働で取りくむ
・あんしん新聞の発行（月１回）
・権利擁護、消費者被害等の講座開催
・介護予防教室、地域支援事業の広報活動</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">月１回オンラインを活用し、zoomで認知症初期集中支援チームへ参加した。チーム員との情報共有を積極的に行い、ケースに応じて同行訪問を行った。対象者だけに限らず、その家族に対し、認知症の方への対応方法のアドバイスや家族の悩みに対する傾聴なども行った。認知症状があり、支援困難な場合、医療職の協力を得て見守り、受診、サービス移行を実施した。コロナ感染に対しサービス事業所や医療機関と多職種連携会議を持ち感染拡大に努めた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・月１回オンラインを活用し、認知症専門医や支援チームの看護師、稲毛区内の多職種から助言を受け困難ケースの支援・問題解決をすることが出来た。稲毛区多職種連携会議及び地域ケア会議を開催し、多職種間との顔の見える関係づくりを継続し、また新型コロナウイルスに各機関が平時からどのように留意していくべきか意見交換を行いながら深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">オンラインにて、多職種連携会議や稲毛区地域ケア会議を開催し、医療と介護の連携や区内での連携を図ることができた。
認知症状に対する支援困難ケースは支援チームと共に介入することで解決の糸口が得られ、医療面から本人へ短期間で関わることにより拒否なくスムーズに解決に繋げられた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">オンラインを活用し、区内の関係機関と連携が図れる機会を定期的に実施していく。また開催にあたっては地域の課題に踏み込めるようなテーマを絞り意見交換を実施していく。認知症の相談が増加傾向にあるため、認知症初期集中支援チームと連携を図り支援を実施していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・6月10日、9月16日稲毛いきいきプラザにて、認知症サポーター養成講座を実施した。
・みかんの会認知症カフェ班では認知症カフェ交流会をオンラインで実施した。認知症疾患者とその家族の交流及び意見交換を行うことで、今後の認知症カフェの再開や立ち上げ、普及併発の方法の検討に繋げた。
・認知症初期集中支援チームの支援から在宅診療へとつなげてもらった。
・みかんの会高齢者見守り班にて、コロナ禍での他市の徘徊模擬訓練の実施状況をヒアリング調査した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・稲毛いきいきプラザでの認知症サポーター養成講座（2回）
・稲毛中学校にて、認知症ジュニアサポーター養成講座実施（11月5日）
・みかんの会認知症カフェ班にて、認知症カフェの実態把握、認知症カフェ交流会によりカフェの地域の取り組み促進した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍において、中学校で認知症サポーター養成講座を実施し、215名の生徒に参加してもらうことができた。認知症カフェ班にてコロナ下での認知症カフェ開催状況を調査を実施。また認知症交流会を行い、認知症カフェの地域活動の一助となった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">認知症サポーター養成講座、中学校での認知症ジュニア養成講座の実施
認知症見守り訓練の実施
みかんの会に参加し、千葉市認知症施策に取り組む</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">稲毛と黒砂公民館にて介護予防教室開催した。いきいき活動手帳を交付しセルフケアマネジメントや住民の主体的な活動を推進した。介護予防教室やメール登録者、老人会、自治会、民生委員に対しリーフレットを配布しフレイル予防、介護予防普及啓発を行った。黒砂会（敬老会）へ介護予防体操の資料提供したり、シニアリーダーと連絡を取り地域活動の再開に向け連携した。いきいきプラザでいきいき体操を実施し住民主体の体操として活動支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">稲毛、黒砂公民館にて介護予防教室、いきいき活動の活動を支援し、いきいき活動手帳を効果的に使う手法や交付の方法について、いなげまちづくり研修会にて発表した。民生委員、介護支援専門員、シニアリーダーと連携し介護予防活動において活用を促進した。コロナ禍の活動自粛の中、地区部会と公園でのラジオ体操を実施し、地域活動や住民一人一人のつながりについて関係者間と協働した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>介護予防教室や、住民主体の活動を継続し、介護予防普及啓発とともに手帳の活用により、セルフマネジメントを高めることができた。手帳の活用の意義と使用事例に基づき効果を考察し保健師による研修会で発表したことで、千葉市のあんしんケアセンターに対しいきいき活動手帳の活用を広げることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・稲毛、黒砂公民館にて介護予防教室の開催。
・社会福祉協議会、民生委員、生活支援コーディネーター、自治会、シニアリーダーとともに住民主体の活動を推進する。
・地域ケア会議を通じ地域のニーズに応じ健康測定会を開催し介護予防普及啓発を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">毎朝のミーティングや月１回開催している三職種会議にて、三職種で意見交換を行い、支援の進行状況の確認や必要なサービスに繋げる為の助言等、対象者支援を行った。支援している困難事例については高齢障害支援課・民生委員・認知症初期支援チーム等の関係機関と連携し、支援を行うことができた。イオンの相談会については新型コロナウイルスの感染が拡大したこととワクチン接種が進んでいなかったことで開催は取りやめになった。
5月28日稲毛区社会福祉士連絡会主催にて、事例検討会をオンラインを活用し実施。対応に苦慮した困難ケースについて話し合いを持つことができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">個別の相談ケースについては毎朝のミーティングや月１回の三職種会議にて支援方法を協議し、緊急のケースに対しても柔軟に対応できる体制を整えている。個別の支援困難事例について、民生委員やサービス事業所、行政を交えた個別地域ケア会議を実施し、対象者の支援につなげた。コロナ過で地域行事の中止が続いたが、圏域内3カ所で健康測定会を実施し、40～90代の幅広い年齢層の来場者に対し、あんしんの周知を図った。近隣のデイサービス所の図を作成した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍で地域行事が中止されたり、定期的に実施していた地域ケア会議が延期または中止になるなどの厳しい状況が続いた。そのため、積極的に地域に対する周知活動は行えなかったが、個別の事例について関係機関を交えた積極的な支援を行うなど、できる範囲内での活動は行えた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・健康測定会を実施し、あんしんの周知と地域と関係強化を図る
・地域ケア会議を通じて地域課題を抽出し、生活支援コーディネーターと連携しながら必要な社会資源の発掘や創造へ向けた取り組みを行う
・地域資源の見える化の一環として、相談者にわかりやすい資料作りを行う（マップやリストなどの作成）</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・5月28日稲毛区社会福祉士連絡会主催で事例検討会を実施した。成年後見支援センターや生活自立支援センター、生活コーディネーター等と事例の対応について意見交換をした。 ・社会福祉士連絡会では新型コロナの感染予防から月１回オンラインで会議を開催した。11月の地域ケア研修会「高齢者虐待」をテーマに、初となるオンライン研修を実施するため講義とグループワークの構成を話し合いを行った。		
後期	具体的な取り組み状況	稲毛区社会福祉士連絡会主催の虐待防止をテーマとした地域ケア研修会を実施した。今年度初めて民生委員も参加対象とし、参加方法も会場・オンラインを活用したことで、100名以上の参加があった。消費者被害防止については、センター掲示板に情報を掲示し、継続的に注意喚起を行った。関係機関との事例検討会を年2回実施し、支援困難事例に関する意見交換や連携の重要性について確認を行った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	民生委員とケアマネ・サービス事業所が同じテーマで意見を交換し合う場を設けられたことで、地域共生社会の実現へ向けて横のつながりが広まった。参加者からも民生委員と直接話ができたことは大変有意義であったとの意見が聞かれた。
	次年度に向けた展望	・地域ケア研修会を開催し、地域住民や事業所へ成年後見制度についての普及啓発を行う ・事例検討会を実施し、関係機関との連携強化と困難事例への対応力向上を図る ・認知症初期集中支援チームと連携し、認知症高齢者の早期対応・支援へとつなげる ・権利擁護に関する講座の開催、掲示物などで、権利擁護に関する情報提供や理解促進を図る		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	稲毛区あんしんの主任ケアマネと協議（毎月）し、居宅介護支援事業所のサポートができるよう研修会（6月23日）や事例検討会（7月12日）を開催した。情報発信として、ケアマネ通信を作成（5月・8月）し各居宅介護支援事業所へ配布した。すべてにおいて居宅介護支援事業所の主任ケアマネの協力を得ながら開催をすることができた。圏域の主任ケアマネの集まりでは年度の研修会計画を立て、ケアプランについての意見交換を実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	稲毛区あんしんの主任ケアマネと協議（毎月）し、稲毛区ケアマネ研修会（11月15日）や稲毛区事例検討会（３月16日）、自立促進ケア会議（10月22日）を開催した。情報発信として、ケアマネ通信を作成（11月・2月）し各居宅介護支援事業所へ配布を行い居宅の主任ケアマネの協力のもと開催・実施することができた。圏域では生活支援コーディネーターの役割を周知するためのケアマネ勉強会（12月10日）、次年度について研修会計画を主任ケアマネと検討した（2月18日）		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	居宅介護支援事業所のケアマネジャーが抱えているニーズを引き出し研修会等に反映させることができた。
	次年度に向けた展望	・稲毛区主任ケアマネ連絡会（毎月）　・稲毛区ケアマネ研修会（年２回）　・稲毛区ケアマネ通信の発行（年４回）・稲毛区自立促進ケア会議（年３回）・稲毛区事例検討会（年２回） ・「小仲台・稲毛圏域の主任ケアマネの集まり」を開催しや介護支援専門員への勉強会、マップづくり 全てにおいて、主任介護支援専門員と共同にて実施していく。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・4月7日稲毛台町地域ケア会議を開催した。 ・4月9日、7月9日黒砂北部自治会地域ケア会議を開催した。 ・7月14日稲毛東1～4丁目地域ケア会議開催した。 ・9月3日稲毛東5・6丁目地域ケア会議開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区地域ケア会議（２回）、多職種連携会議（１回）実施しコロナ禍において連携を深めた。 ・10月8日黒砂北部自治会、10月21日黒砂台３丁目、11月24日稲毛東1～4丁目で地域ケア会議を開催した。 ・２月個別ケース地域ケア会議を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	コロナ禍により、計画していた地域ケア会議を実施することができない地域や、計画していた回数の地域ケア会議を実施できなかった。実施した地域においては、地域の集いの場を新たに立ち上げるための意見交換や、コロナ禍で困難ケースの対応について関係機関との連携を深められるよう実施した。
	次年度に向けた展望	・稲毛区地域ケア会議（年６回） ・稲毛台町（年 3回）・稲丘町（年2 回）・黒砂台３丁目（年 2回）・黒砂、緑（年3 回） 更に自治会単位での地域ケア会議や開催できていない地域での会議を増やし、密な会議が開催できるようにする。 ・個別事例の地域ケア会議（随時）		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">介護予防教室、いきいきプラザでのいきいき体操による住民主体の活動の継続。いきいき活動手帳の交付により、セルフケアマネジメントを高める活動を推進した。
ラジオ体操の継続実施　毎朝稲毛東5丁目公園・稲毛台町公園・いきいきプラザ。毎週金曜日黒砂公民館。
黒砂台3丁目では民生委員とともに週一回歩こう会の開催の立ち上げ。LINEによる連絡体制を整えた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・稲毛公民館、稲毛東自治会館、中央介護専門学校の3か所で骨密度測定会を実施し、介護予防普及啓発を行った。
・稲毛いきいきプラザと連携し、いきいき体操を自主活動として定期開催、誰でも参加できる場づくりができた。
・骨密度測定会、いきいき体操参加者にいきいき活動手帳の交付を行い、セルフケアマネジメントを高める活動を推進した。
・ラジオ体操の継続実施　稲毛東5丁目公園・稲毛台町公園・いきいきプラザ３か所で毎朝の開催
・黒砂台3丁目週一回歩こう会の継続。LINEによる交流活動整備。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>積極的に介護予防に取り組むきっかけができるよう、骨密度測定会を行い介護予防普及啓発を行った。稲毛いきいきプラザと協同し、いきいき体操を住民主体の自主活動として、運動希望者が気軽に参加できる介護予防活動の推進を行った。毎朝実施しているラジオ体操会、週一回の歩こう会は住民運営による通いの場として活動が定着した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">住民が歩いて通える範囲で自身の状況を知り積極的に介護予防に取り組めるよう健康測定会の開催、いきいき活動手帳の活用を促進する。自治会、民生委員、事業所、生活支援コーディネーターと協同し新しい社会資源を発掘創出できる取り組みを行う。</td></tr>
</table>

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンターみつわ台
担当圏域 地区課題	・コロナ禍の影響により、高齢者、民生委員の方の地域活動も慎重になり、これまでの繋がりが希薄になりかねない。 ・自治会の数が多く、地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障を来たしている。 ・支え合い活動が充実している地域とそうでない地域の差異がある。 ・地域福祉を推進して行く次世代の担い手が不足している。 ・医療、福祉、教育等の各分野間の連携が十分では無い。
活動方針 （総合）	・生活支援コーディネーターと連携を図りながら、ＮＰＯ、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。 ・コロナ禍ではあるが感染症予防を徹底し、地域ケア会議等で、地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の創出、実行性のある目標立てをする。

1　地域包括ケアシステムの構築				
（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進				
前期	具体的な取り組み状況	・若葉区生活支援コーディネーター定例会にて情報交換を行い、第1層コーディネーターからの情報や当該センターの情報を集約することにより、コロナ禍においても実践可能な取り組みがどの様なことが可能なのか協議した。 ・東寺山県営住宅の出張相談会が再開され、相談対応を行った。 ・同会議所にて認知症サポーター養成講座を開催し、人数制限は設けたが13名の参加があった。		
後期	具体的な取り組み状況	・若葉区生活支援コーディネーター定例会にて情報交換を行い、第1層コーディネーターからの情報や当該センターの情報を集約することにより、コロナ禍においても実践可能な取り組みがどの様なことが可能なのか協議した。 ・東寺山県営住宅の出張相談会を継続開催。相談対応を行った。 ・生活支援や集まりの場について、アワーズ美助っ人クラブ等と連携し、利用できる社会資源について検討し提供した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・コロナ禍における感染症予防に努めながら少人数ではあるが、地域作りの構築に繋がる取り組みを開始することができた。今後、会議や研修の参加者が起点となり、地域つくりの構築に繋げていくことが課題である。
	次年度に向けた展望	・前期と同様の取り組みを継続し、自立促進ケア会議や若葉区定例地域ケア会議における事例検討会等にて上がった情報を三職種にて共有、見直しを行い、生活支援・介護予防サービスの基盤整備構築につなげていく。 ・課題である担い手不足については、生活支援コーディネーターや民生委員、地域支え合い活動のリーダーから情報収集を行い、実現可能な取り組みを模索していく。		
（2）在宅医療・介護連携の推進				
前期	具体的な取り組み状況	・新型コロナ感染拡大期の会議（若葉区介護支援専門員連絡会・定例地域ケア会議）開催の際に、在宅医療介護連携支援センターと連携し、ZOOM会議の環境等を整えたことで新たな会議の形を設けることに繋がった。		
後期	具体的な取り組み状況	・多職種連携会議の開催について若葉区5センター協働で開催準備を検討している。 ・在宅医療介護連携支援センターと多職種連携会議の開催手法について、協議した。　・病診連携、地域連携室との関わり含め電話でのやり取りが主であった。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・新たな会議手法を確立し、実践することができたが、表出した課題（リモート環境が整わない人の参加、ZOOM利用が不慣れ、オンライン上での個人情報管理等）について、今後留意して対応する必要がある。
	次年度に向けた展望	・新型コロナ感染状況を見極め、予防対策に努めつつ、医療介護の連携推進に向け、連携手法や課題共有を行い、実践に繋げるプロセスをどの様に構築するか検討していく。 ・連携会議等に限らず、日頃の情報共有を密にし、それぞれの領域の資質の向上に繋げていく。		

（3）認知症施策の推進				
前期	具体的な取り組み状況	・地域住民向けの認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の基礎知識や対応方法について地域住民へ周知した。		
後期	具体的な取り組み状況	・コロナウイルス感染予防を行いながら認知症サポーター養成講座を行い、地域住民に認知症の基礎知識や認知症の方への対応、どこシル伝言板の周知も行った。 ・みかんの会の医療介護連携班において、千葉市内の主任介護支援専門員向けの3時間研修を開催。認知症に係るケアマネジメントの課題を見直す機会となった。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・認知症サポーター養成講座を開催し、40代から80代まで幅広い世代に認知症の基礎知識を周知をする事が出来た。また、若い世代でも認知症について興味関心がある事が分かり、今後の活動の参考にする事が出来た。
	次年度に向けた展望	・感染予防を行いながら地域に住まわれている方へ認知症サポーター養成講座を開催し認知症についての基礎知識や対応方法などを周知していく。また、千葉市のサービス(どこシル伝言板等)も併せて周知していく。 ・地域のサロンに参加し、千葉市が行っているサービス等を周知していく。		
2　第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	・委託先ケアマネジャーへの助言や情報共有を行い、サービス利用者の介護予防や自立促進につながるよう、後方支援を行った。 ・健康課と生活支援コーディネーターとの意見交換により、いきいき活動手帳の趣旨を共有した。シニアリーダー連絡会や体操教室の参加者に対し、いきいき活動手帳を配布し、セルフケアマネジメントの促進を行った。 ・専門職による健康講話（低栄養事業含む）を開催し、セルフケアマネジメントを行う上での情報提供を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・直営利用者に対し、コロナ禍における生活状況アンケートを実施した。 ・地域の教室に出向き、基本チェックリスト実施し、セルフマネジメントの手法を伝え、いきいき活動手帳を配布した。 ・健康課、生活支援コーディネーター等と意見交換会し、各機関での役割と方針を踏まえ、継続的に住民へ介護予防の情報を提供出来るように取り組んだ。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・直営利用者に対し、コロナ禍における生活状況アンケートを実施。実際に介護保険サービスを利用している方においても下肢を中心とした機能低下が顕著であった。実際にサービスを利用していない要支援者を含めた地域住民においてもより、その様な傾向であることを考察した。
	次年度に向けた展望	・増加している要支援者への支援について、適正なサービス利用に繋げ、不必要なサービは減らすことができるよう、地域住民への啓発活動やケアマネジャーへの支援も継続していく。 ・圏域内のサロンや教室等で、セルフケアマネジメントの必要性を伝え、いきいき活動手帳の活用ができる方へ配布していく。		
3　総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・感染予防対策を行い、毎月東寺山出張相談を開催した。民生委員も参加し、出張相談の場で情報共有を行い、必要な支援を行うことができた。 ・受け付けた相談に対して毎日センター内で情報共有・ケース会議を実施し、介護、医療、保険、福祉等、必要な専門職と連携を図りながら継続支援の対応を行った。 ・３ヶ月に一度圏域の介護支援専門員連絡会を開催し連携の強化を図る事ができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・毎月感染症対策を実施しながら東寺山出張相談会を開催した。自治会長や民生員にも参加してもらいその場で情報共有を行いながら支援をする事が出来た。 ・総合相談にて受け付けた相談については、毎朝３職種にて情報共有し支援方法や対応職種について検討し継続支援を行い、必要な支援機関に繋いだ。ケース会議を行う事により各専門職の専門性を深める機会にもなった。 ・多くの方に気軽に相談に来ていただけるよう、公民館や近くのスーパーにあんしんケアセンターのパンフレットを置いてもらいあんしんケアセンターの周知活動を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・東寺山の出張相談会を毎月開催したが、ご家族よりポスターを見て事前に相談の予約をされて来所されている方もいた為、出張相談会の周知活動及びあんしんケアセンターの周知をする事が出来てきている。また、総合相談にて受付た相談については３職種にて毎朝情報共有を行い対応について検討し継続支援をする事が出来た。
	次年度に向けた展望	・相談内容が多様化及び複合化してきている為、総合相談にて受け付けた相談についてはセンター内の3職種と密に情報共有し支援方法について検討し相談受付後速やかに必要基幹に繋げられるように対応していく。 ・地域の方が気軽に相談できる窓口としてあんしんケアセンターの周知活動を継続して行っていく。		

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・虐待対応について、通報や相談を受けた際に速やかにセンター内で情報共有、ケース会議の実施、高齢障害支援課への報告を行い、関係機関と連携して安否確認や支援方法の共有等、対応することができた。 ・地域住民へ消費者被害の注意喚起や権利擁護等の周知を行った。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、各職域のソーシャルワーカーとの連携強化、相談援助技術の向上を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・感染症対策を行い、地域にて開催されているサロンに参加し、消費者被害の注意喚起の周知を行った。 ・３ヶ月に一度若葉区ソーシャルワーカー連絡会をZOOMにて開催し、各職域のソーシャルワーカーとの連携強化、相談援助技術の向上を図れた。 ・虐待対応について通報や相談を受けた際に速やかにセンター内にて情報共有、ケース会議を実施し高齢障害支援課へ報告し各行政機関や病院、居宅介護支援事業所等と連携を図り支援方法の返答や安否確認を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、各職域のソーシャルワーカーの連携の強化、相談援助技術の向上及び知識の向上を図り、総合相談対応時に活用する事が出来た。 ・消費者被害の講演会については、開催準備を行っていたがコロナウイルス感染が拡大してしまったため、今年度も行う事が出来なかった。
	次年度に向けた展望	・若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、各職域のソーシャルワーカーとの連携強化、相談技術の向上を図り総合相談等に活用していく。また、連携を図る事によりスムーズに相談対応ができる関係づくりを行っていく。 ・コロナウイルス感染症対策を行い、講演会の開催や地域にて開催されているサロンに参加し消費者被害の注意喚起や成年後見制度の周知を行っていく。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・新型コロナ感染拡大期の会議（若葉区介護支援専門員連絡会・定例地域ケア会議）開催の際に、在宅医療介護連携支援センターと連携し、ZOOM会議の環境等を整えたことで新たな会議の形を設けることに繋がった。特に扇の要となるケアマネジャーとの連携を図り辛い状況の中、リモート下において、意見交換ができたことは収穫となっている。		
後期	具体的な取り組み状況	・ケアマネジャーが来所した際にケースの進捗状況について伺うようにしている。 ・ケアマネジャーと同行訪問し、継続支援に入るケースも増えている。 ・集合研修の積極的な開催が難しい中において、区内の他のあんしんケアセンター及び事業所への小まめな連絡をすることにより、連携が途絶えない様に努めている。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	偶数月に1回、リモートにて圏域の介護支援専門員連絡会を開催。コロナ禍におけるケアマネジメントやBCP(事業継続計画)の策定等をテーマに取り上げた。各研修で見えてきた課題を評価し、令和4年度の研修内容を決めていく必要性がある為、自己評価をＢとした。
	次年度に向けた展望	・3密回避等、感染症予防対策を講じ、少人数での会議及び研修を準備、開催をする。ケアマネジャーが抱えている課題から地域課題についても抽出し、日々の業務に繋げて行く。 ・委託先のケアマネジャーが相談しやすい環境づくりを意識していく。委託プランやその他の些細な相談においても必ず回答をお渡し出来る様、努めていくことで信頼関係を構築していく。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・多種多様な課題を抱えたケースを取り上る個別地域ケア会議については実施することができた。各職種の役割分担を図りながらも、長期的かつ継続的な関りを求められることがあり、難しさを感じる場面もあった。		
後期	具体的な取り組み状況	・多種多様な課題を抱えたケースを取り上げた個別地域ケア会議については実施。各職種の役割分担を図りながらも比較的長期及び、継続的な関りを求められることがあり、難しさを感じる場面もあった。 ・圏域における地域ケア会議については参加者の感染症予防の為、中止の判断を下した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・東寺山県営住宅において地域ケア会議を開催した。民生委員や地域の支え合いの会との連絡を図りながら訪問相談活動を継続している。 ・個別地域ケア会議を開催しているが、個別ケースの議論から見えてくる地域課題からどの様に地域づくりをしていくか課題が残った。
	次年度に向けた展望	・感染症予防に努めながら参集形式における地域ケア会議の場を有効活用していく。福祉車両駐車場の無断駐車につしては改善に向け、地域のケアマネジャーと連携しながら改善に向けて働きかけていく。 ・3職種にてケースごとの支援状況を共有し、個別地域ケア会議に繋ぐべき事例を抽出。ケア会議を有効活用し、課題の解決に繋げていく。		

<table>
<tr><td colspan="5">7　一般介護予防事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・サロンや体操教室、自治会に対し、フレイル予防や熱中症予防を啓発した。
・コロナ禍で中止となった都賀コミュニティ祭りを出張相談会に変更し、地域住民の生活相談に応じた。
・アワーズ美助っ人クラブより、健康講話の依頼があり、ZOOMにて開催した。
・住民やボランティアの方が体力等の自己評価ができるよう、地域リハビリテーション活動支援事業の依頼をした。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域リハビリテーション事業を活用し、理学療法士、言語聴覚士より、ボランティアへ健康体操の助言や参加者に自己評価できるチェックリストを配布し、介護予防に対する意欲向上が図れた。
・都賀いきいきセンター出張相談会にて握力測定をおこない、介護予防の必要性を説明しながら冊子を配布した。
・インターネットを活用し、体操教室を担うボランティアの動画配信を周知し、自ら健康体操が行えるように啓発した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>多職種と連携し、フレイル予防についての啓発を実施できた。コロナ禍で、地区部会サロンの中止等も重なり、生活習慣病の講話を開催することが出来なかった。
地域ケア会議にて、地域活動を把握し、住民と一緒に社会資源の立ち上げに目を向けることが出来た。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域の専門職と連携し、生活習慣病やフレイル予防について啓発する講話を開催し、定期開催に繋げる。
・地域のサロン等に出向き、セルフケアマネジメントの手法を啓発する。
・高齢者だけでなく、その家族や様々な関係者への働きかけや連携により、地域の広範囲で介護予防の啓発をしていく。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="3">千葉市あんしんケアセンター都賀</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="3">・高齢者世帯、独居世帯が増加し、世帯構成員が精神疾患等の理由で就業していない等、複合的な問題のある事例が増加している。
・担当圏域の高齢化率は、駅周辺などは２０％台の地区もある一方、４０～５０％と高い地区もあり、支援者側も高齢化してきている。また、地域によって住民の地域福祉に対する意識に差がある。
・新型コロナウイルスの影響で地域活動が中断している為、自宅で過ごす時間が増えた事でADLの低下を招いている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="3">・各地域の特性や実情を踏まえてニーズを把握し関係機関と連携を図り地域包括ケアシステムが構築できるよう努める。
・住み慣れた地域で生活し続けられるよう、適切な支援を行う。
・高齢者に関する相談対応機関であることの周知に努めるとともに、担当圏域に暮らす高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるように相談支援・権利擁護・包括的継続的ケアマネジメント業務を円滑に行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="5">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を作成し地域住民に対して介護予防の普及啓発を図った。(隔月)
・若葉区支え合いのまち推進協議会はコロナの為、書面開催となった。
・介護予防に関する意見交換会に参加した。（6月）・生活支援コーディネーターの定例会に参加した。（毎月）
・シニアリーダー養成講座で地域の体操教室の状況や高齢者の抱えている問題等についての講義を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・若松公民館と協力してフレイル予防教室を開催し、介護予防の普及啓発を図った（3月）
・介護予防に関する意見交換会に参加した（12月）
・社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を発行し、地域住民に対して介護予防等の啓発活動と、あんしんケアセンターの周知を行った（隔月）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・若松公民館と共催で介護予防教室を開催する事が出来た。
・社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を発行できた。
・コロナ禍のため、地域資源の発掘に至らなかった。
・既存の自主活動グループに対し、活動継続支援を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・新たな体操教室を開始し、また既存の体操教室が継続できるよう必要な支援をする事で、コロナ禍で自宅に籠りがちになっている高齢者自らが継続的に介護予防に取り組む意識を持てるようにする。
・社会福祉協議会都賀地区部会と共催の広報誌を継続し、介護予防とあんしんケアセンターの周知を図る。
・生活支援コーディネーターと協力し、地域資源の把握と発掘に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・若葉区全体の多職種連携会議を開催した。（7月）
・コロナ禍のため病院や薬局への個別訪問は行えなかったが、地域の開業医と情報共有し地域住民の支援を行った。
・退院時に病院や介護支援専門員と連携して訪問診療や訪問看護を導入し、切れ目のないよう支援した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・若葉区全体と、あんしんみつわ台・都賀圏域で各１回多職種連携会議を開催し、医療と介護の連携を図った。
・圏域の病院や薬局を訪問し、顔の見える関係づくりに努めた。
・地域の開業医と情報共有し、地域住民に対する支援を行った。
・病院のソーシャルワーカーと連携し、退院後の在宅生活に支障がないよう支援した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・多職種連携会議をオンラインで開催し、医療と介護の連携を図った。
・コロナ禍で退院時のカンファレンスが開催できなかったが、ソーシャルワーカーと連携し適切な支援を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・多職種連携会議を開催する（区全体・あんしんみつわ台と共催、各1回）
・コロナ禍であるが、病院からの退院時の連携がスムーズにできるよう、会議等を通じて顔の見える関係作りを行う。
・地域の高齢者の生活を支える為、開業医や薬局と連携を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座を開催した。（若松高校・５月、都賀いきいきセンター・9月）
・認知症初期集中支援チームの会議に参加した。（毎月）
・認知症ステップアップ講座の開催に向け、認知症地域支援推進員の班会議に参加した。
・警察からの支援対象者情報提供書に対して介護支援専門員と連携し、適切なサービス利用ができるよう促した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座を開催した（若松中学校・10月）
・認知症サポーターステップアップ講座を開催し、認知症の地域住民に対するかかわり方や、チームオレンジの活動内容の普及啓発を図った。・認知症初期集中支援チームと連携し、地域住民に対する支援を行った。
・千葉東警察署からの情報提供書に基づき、関係機関と協力して対象者に対して適切な支援が行えるよう努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症サポーター養成講座を開催し、若年層へ認知症の正しい知識を普及啓発できた。
・みかんの会の活動に参加し、認知症サポーターステップアップ講座を開催した。
・千葉東警察の情報提供書をきっかけに、認知症の住民を介護保険サービスに結び付けた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を通じて、地域住民が認知症に対する正しい知識を持ち、認知症になっても地域で安心して生活できるよう、普及啓発活動を行う。
・認知症サポーターステップアップの修了者に対してアプローチし、ボランティア活動に関する意識調査を行う。
・支援困難ケースについては必要に応じて関係機関と連携して対応する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・自立促進会議に参加した（9月）
・介護予防と自立支援に資するよう適切なアセスメントを行い、セルフケアの啓発に努めた。
・公正・中立の立場で特定の事業所やサービスに偏ることがないよう対応した。
・新型コロナのため地域の体操を止め筋力が低下し転倒を繰り返すようになった住民を介護保険のサービスに繋いだ。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・在宅生活が継続できるよう目標を設定し、必要に応じて介護保険サービスだけではなく地域資源の情報提供を行った。
・委託先の居宅介護支援事業所に対し、介護予防ケアマネジメントの手引きに基づき、書類内容の確認を行った。
・生活支援コーディネーターの定例会に参加し、地域の活動団体の情報共有を図った（毎月）
・センター内で事例検討会を開催し、スキルアップに努めた（毎月）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・センター内の事例検討会を毎月開催し、職員のスキルアップを図った。
・適切に目標設定し、適切なサービス利用に努めた。
・コロナ禍で地域の活動が停滞し、インフォーマルサービスに繋げられないケースがあった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーター等と連携して地域活動の情報共有を行い、高齢者が社会参加できる場所の発掘につなげる。
・今後も地域の高齢者の現状や課題を把握し、状況に応じた適切な個別支援を行う。
・高齢者が要介護状態にならないよう、介護予防を推進する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・毎夕センター内でその日の総合相談のカンファレンスを行って情報共有し、複数対応等、支援方法について確認した。
・支援困難ケースについて複数対応や関係機関と協力し、チームとして対応した。
・都賀いきいきセンターで出張相談会を開催した。（9月）
・地域活動に参加する際はパンフレットを持参し、あんしんケアセンターの広報活動を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・毎夕センター内で総合相談のカンファレンスを行い、情報共有と支援方法の確認を行った。
・都賀いきいきセンターで出張相談会を行った（1月）
・困難ケースでは、若葉区高齢障害支援課等の他機関と連携して問題解決に努めた。
・開業医や薬局を訪問してあんしんケアセンターの広報活動を行い、相談しやすい関係作りに努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・高齢者支援だけではなく、同居家族への支援が必要なケースが増加しており、困難ケースは行政や関係機関と個別地域ケア会議を開催する等、連携して対応した。
・毎夕センター内でカンファレンスを行い、職員間で情報共有と支援方法の確認をする事で、スキルアップを図った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・毎夕のカンファレンスを継続し、情報共有と対応方法の検討を継続する。
・研修や会議にできる限り参加し、職員のスキルアップを図る。
・相談が複雑化していることを踏まえ、事例検討を行ってセンター職員のスキルアップを図っていく。
・地域の教室や講座等であんしんケアセンターの広報を行う。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・千葉東警察との意見交換会をZOOMで開催してハラスメントに関する講座を行い、警察との連携を深めた。（8月） ・地域住民の通いの場に参加し、消費生活センターのチラシを配布する等、注意喚起を図った。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会に参加した。(4月・7月） ・認知症が疑われ金銭管理ができない相談者を成年後見センターに繋いだ。		
後期	具体的な取り組み状況	・若葉区ソーシャルワーカー連絡会に参加し、研修や情報共有を行った。 ・虐待防止対応研修に参加した（2月） ・あんしんケアセンターみつわ台と共催予定だった地域住民への講座は、コロナ禍で実施できなかった。 ・体操教室や講座実施時に消費生活センターのチラシを配布し、地域住民に消費者被害の注意喚起を行った。 ・虐待のケースでは行政や関係機関と連携を図り、役割に沿って対応した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・若葉区ソーシャルワーカー連絡会に参加できた。 ・虐待のケースでは3職種で情報共有し、高齢障害支援課と連携して対応できた。 ・成年後見が必要な地域住民に対してNPO法人に繋ぎ、権利擁護を図った。 ・教室や講座等で消費者被害の注意喚起を行った。
	次年度に向けた展望	・地域住民が消費者被害等を自分の事としてとらえられるよう、消費生活センターのチラシの配布や地域住民に対する権利擁護の講座を開催していく。 ・虐待ケースでは、関係機関と個別地域ケア会議を開催する等、役割を確認しながら連携して対応する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・若葉区あんしんケアセンターの主任介護支援専門員会議に参加した。（４・5・６・８月） ・若葉区５センター共催で介護支援専門員連絡会を開催した。（９月） ・支援困難ケースについては、介護支援専門員に対して同行訪問や関係者間の会議の調整等の後方支援を行った。 ・センター内で事例検討会を開催し、職員のスキルアップを図った。（毎月）		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域の居宅介護支援事業所とネットワーク会議を開催し、事例検討を行ってスキルアップを図った（10月・1月） ・若葉区5センター共催で介護支援専門員連絡会を開催した（2月） ・支援困難ケースでは、介護支援専門員からの相談を受けて個別地域ケア会議を開催して関係機関に繋ぐなど、後方支援を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・圏域の介護支援専門員ネットワーク会議を初めてオンラインで開催した。 ・若葉区介護支援専門員連絡会を予定通り年2回開催できた。 ・介護支援専門員から相談を受け、個別地域ケア会議を開催した。
	次年度に向けた展望	・介護支援専門員がひとりで問題を抱え込まないよう、事例検討会議等を通してネットワークを構築することで相談しやすい関係づくりを行い、早期に連携できる体制づくりを行う。 ・複合的な問題を抱えた事例が増加してきているため、協力を得られる関係機関の把握と関係づくりに努め、適切な支援が行える体制を構築する。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・若葉区障害者基幹相談センター主催の千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会に参加した。（4月） ・若葉区定例地域ケア会議に参加した。（毎月） ・支援困難ケースについて個別地域ケア会議の開催を検討したが、コロナ禍で開催できなかった。介護支援専門員と同行訪問した結果を関係機関に報告し、情報共有を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・若葉区全体の地域ケア会議と圏域の地域ケア会議はコロナ禍の為、開催できなかった。 ・支援困難ケースについて、個別の地域ケア会議を開催した（10月・2月） ・若葉区定例地域ケア会議に参加した（毎月） ・若葉区障害者基幹相談支援センターの地域自立支援協議会若葉区地域部会に参加した（2月）		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・個別地域ケア会議は必要に応じて開催した。 ・若葉区全体と圏域の地域ケア会議はコロナ禍で開催できなかった。 ・若葉区定例地域ケア会議に参加し、他センターと情報共有した。
	次年度に向けた展望	・コロナ禍の中でも会議を開催できるよう、開催方法を模索する。 ・必要に応じて個別地域ケア会議を開催する。 ・若葉区定例地域ケア会議に参加し、他センターと情報共有して適切な支援に結び付ける。 ・支援が必要な高齢者を早期に発見し見守りをしていくために、地域住民や民生委員と連携していく。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・昨年立ち上がった自主グループに参加して内容の充実や広報等を行い、参加者が増えるよう支援した。
・都賀いきいきセンターでの出張相談会や、地域の体操教室参加者に握力測定や介護予防のパンフレットを配布する等、介護予防に関する意識の向上に努めた。
・活動しているシニアリーダー体操やいきいき体操の教室に定期的に参加し季節ごとの注意喚起等の情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・立ち上げ2年目の自主グループに参加し、介護保険の講座や健康課に繋ぐなど、内容の充実を図って活動が継続できるよう支援した。
・出張相談会で握力測定や介護予防パンフレットの配布を行い、地域住民の介護予防に関する意識の向上に努めた。
・都賀いきいきセンターでの体操教室に参加し、季節の注意喚起等の情報提供を行った（毎週）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍の中でも再開した、住民主体の地域活動に参加し、介護予防や健康に関する注意喚起が行えた。
・都賀いきいきセンターでの体操教室に講師として参加し、感染対策を講じるなど、活動が継続できるように支援した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍が継続して外出機会が減っており、閉じこもりによるフレイルや認知症の悪化が懸念されているため、新型コロナウイルスの感染予防に留意しながら介護予防教室を開催し、人との交流やフレイル予防が図れるよう支援する。
・フレイル予防の講座を新規に開催し、地域住民が自主的に予防の意識が持てるよう支援する。
・活動が中断している体操教室に対し、再開できるよう支援する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター桜木</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">①地域により、福祉に関する理解や意識に差があり、連携や相談等で細やかな対応が必要である。
②個別ケース相談では、金銭問題、精神疾患、身寄りのない高齢者、複雑な家族関係、虐待等複合的な内容が多くなっている。問題解決まで長期的に関わるケースも増えており、関係機関や地域との連携強化を図る必要がある。
③福祉活動の担い手不足がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">①地域の状況に応じた働きかけを行い、あんしんケアセンター桜木としての活動を展開する。
②職員の援助技術の向上を図り、個々の総合相談を通じて地域住民や関係機関との連携を迅速に図る。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①生活支援コーディネーターと共に、活動内容の周知と情報の収集、連携体制を整えることに努めた。
②生活支援サイト情報収集、編集等おこない、地域に発信している。 地域住民からの問い合わせに対し、情報提供を行っている。
③コロナ感染拡大により、前期には協議体会議は開催できなかった。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">生活支援コーディネーターの情報収集で関わった事業所からの情報提供により、独居高齢者の安否確認に速やかに関係機関と迅速に対尾できた。地域住民からの相談に、生活支援サイトの情報をタイムリーに提供できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①生活支援コーディネーターと共に、活動内容の周知と情報の収集に務めていたところ、安否確認についての情報提供があり関係機関と連携して迅速に対応できた。
②生活支援サイト情報収集、編集等おこない、地域に発信している。 地域住民からの問い合わせに対し、情報提供を行った。
③コロナ感染拡大により、協議体会議は2層の参加でオンライン開催となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">生活支援コーディネーターの情報収集で関わった事業所からの情報提供により、独居高齢者の安否確認に速やかに関係機関と迅速に対尾できた。地域住民からの相談に、生活支援サイトの情報をタイムリーに提供できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">①生活支援コーディネーターと共に情報収集の支援をする。
②行政と連携して、常に新しい情報を地域へ発信する。
③生活支援コーディネーター協議体会議に参加する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①５センター合同の多職種連携会議は、７月３０日オンラインで開催した。千葉中央メディカルセンターの「入退院支援センターの取り組み」について講演してしてもらい９５名の参加があった。
②圏域ごとの多職種連携会議は、後期に向けて開催を検討中である。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">3センター合同の多職種連携会議を宅医療・連携支援センターの協力を得て、オンラインで開催することができた。会議開催に向けて、状況に応じた開催を実施できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①圏域毎の多職種連携会議は、３センター（桜木・千城台・大宮台）で開催した。（2月18日）
②圏域内の医療機関に多職種連携会議への参加を依頼した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">①圏域毎の多職種連携会議は、３センター（桜木・千城台・大宮台）で開催する。
②5センター合同での多職種連携会議を開催する。
③圏域内の医療機関に多職種連携会議への参加を依頼する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①認知症サポーター養成講座は、９月２４日千葉中央メディカルセンターにおいて開催できた。中学校での開催については、桜木圏域は学校の都合で開催できなかった。
②認知症初期集中支援チームへは、新規１件依頼、継続４件チーム員会議には毎月オンラインで参加。
③認知症カフェ開催に向けて、研修会等参加したが、実現には至らず。開催できる場所について候補があり、検討中である。
④東警察署からの認知症高齢者等情報共有を活用し、対象者にアプローチし、家族、担当ケアマネジャーと連携を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①認知症サポーター養成講座は、千葉中央メディカルセンター（１０月１５日、１１月２６日）千葉市役所（１２月７日）において開催できた。中学校での開催については、桜木圏域は学校の都合で開催できなかった。
②認知症初期集中支援チームへは、新規なし。継続は途中で終了したが、毎月オンラインで参加。
③認知症カフェを開催し（１２月～第１・３水曜）、２名から開始することができた。
④東警察署からの認知症高齢者等情報共有を活用し、対象者にアプローチし、家族、担当ケアマネジャーと情報共有を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>認知症サポーター養成講座については、依頼により開催し、認知症の理解に努めた。認知症初期集中支援チームの開催は毎月参加し、相談依頼した方が介護サービス利用となり、家族関係の改善も図ることができた。認知症カフェについては開催することができた。東警察署の情報提供についてはアプローチし、家族、ケアマネジャーと情報共有を図ることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">①認知症サポータ養成講座については、積極的に開催する。
②認知症初期集中支援チームとの連携を継続し、会議にも参加する。
③生活支援コーディネーターと連携して認知症カフェを開催に向けて検討する。
④東警察署の情報提供を活用し、認知症対象者にアプローチし、情報提供や連携を継続する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①委託先居宅介護支援事業所へ、個々の事例についての相談に対して対応した。
②千葉市自立促進ケア会議に参加（9月）事例提供を行った。
③生活支援コーディネーターと、地域資源の調査、役割の周知に努めたが、コロナ禍のなか、訪問等に制限があり、電話での対応となることもあった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①委託先居宅介護支援事業所へ、個々の事例についての相談に対して対応した。
②生活支援コーディネーターと、地域資源の調査、役割の周知に努めた。桜木地区部会グランドゴルフ（１１月１３日）４０２地区の定例会（２月５日）に参加し、活動内容、地域課題を周知した。１１月には、訪問した事業所から安否確認の情報提供があり、関係機関と連携しながら対応することができた。
③住民主体型サービスの支援をおこなった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>相談内容に速やかに対応し、関係機関と連携しながら行動した。コロナ禍のなか、資源調査のための訪問や、生活支援コーディネータの役割の広報活動に努めた。訪問した事業所からの安否確認の相談があり、速やかに対応した。住民主体型サービスの支援は継続して行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">①委託先居宅介護支援事業所へ個々の事例や会議等を通じて介護予防ケアマネジメントについて千葉市介護予防ケアマネジメント手引きに基づき支援する。
②千葉市自立促進ケア会議に参加し事例提供を行う。
③生活支援コーディネーターと共に地域資源調査を行い、広報活動を行う。
④住民主体型サービスの支援を継続する。</td></tr>
</table>

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努めた。 ②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化した。 ③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要時に応じて個別事例検討地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努めた。 ②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化した。 ③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要時に応じて個別事例検討地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努めた。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	オンラインまたは集合で研修会参加や事例検討会等行い、援助技術の向上、情報共有に努めた。困難ケースについては、複数体制で関係機関と連携を図り、情報共有と問題解決に向け取り組むことができた。
	次年度に向けた展望	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努める。 ②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化する。 ③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要時に応じて個別事例検討地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努める。 ④認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を図る。中学生向け講座についても検討する。 ⑤終活相談には、本人、家族のニーズに対応しながら、民間企業と協働し支援する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心にソーシャルワーカー連絡会を開催し連携と専門知識の向上を図った。 ②5センター合同で東警察署との情報交換会を開催した。（８月30日）		
後期	具体的な取り組み状況	①若葉区内ソーシャルワーカー連絡会については、オンラインで研修会を実施した。（１１月２４日） ②送られてくる情報については連絡を取り、介護サービス利用者であればケアマネジャーと連携を図り、それ以外の方は、連絡をして、必要時訪問した。 ③虐待については、行政と相談しながら対応した。 ④消費者被害を防止するため、圏域内の居宅介護支援事業所に送り、利用者へ注意喚起を促した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	研修会はオンラインまたは、集合研修どちらでも開催できるよう、様子を見ながらの開催となった。警察から送られてくる情報については、関係機関と情報共有を図り対応した。虐待については、疑いのレベルが多く、行政と相談しながら慎重に対応した。
	次年度に向けた展望	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心に、ソーシャルワーカー連絡会を開催し連携と専門知識の向上を目指す。 ②5センター合同で東警察署との情報交換会を開催する。 ③千葉市高齢者虐待防止マニュアルに沿って、関係機関と対応する。 ④消費者被害を防止するため、情報の把握、地域住民、介護支援専門員に向け情報提供を行う。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員会議を開催した。（５月１４日、８月２７日オンライン開催） ②5センター合同で若葉区介護支援専門員連絡会（研修会）を開催した。（９月１７日オンライン開催） ③圏域内介護支援専門員連絡会を開催した。（７月１３日）また、４月には法改正があり、情報共有を図るため、桜木通信で情報提供した。		
後期	具体的な取り組み状況	①若葉区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員会議を開催した。（12月6日、2月15日オンライン開催） ②5センター合同で若葉区介護支援専門員連絡会（研修会）を開催した。（2月28日オンライン開催） ③圏域内介護支援専門員連絡会を紙上にて周知した。（3月8日）圏域内の居宅介護支援事業所の事例検討会に参加した。（12月、１月、３月）		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	介護支援専門員からの相談には、ケアマンジャーからの相談、利用者からのクレーム等に丁寧に対応した。研修会や会議開催もオンラインでの開催となったが、円滑に開催できた。
	次年度に向けた展望	①5センター合同での若葉区地域ケア会議を開催し、ネットワークの強化を図る。 ②5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催し、地域課題の検討、情報共有を図り、地域ケア会議としての役割を果たすようにする。その他自立促進ケア会議、年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議とする。 ③在宅医療・介護連携支援センターの支援を受けながら多職種連携会議を開催する。 ④各地区の地域ケア会議開催時は積極的に参加する。⑤生活支援コーディネーターとの連携を強化し、社会資源、資源開発等の情報を積極的に活用する。		

<table>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①5センター合同での若葉区地域ケア会議は延期とし、１０月１日関係機関に周知した。
②5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催し、地域課題の検討、情報共有を図り、地域ケア会議としての役割を果たすように務めた。その他自立促進ケア会議を開催し、4センターの事例に対し、対応方法の情報共有とアドバイスを得ることができた。
③加曽利地区地域ケア会議はコロナ禍のなか、開催できなかった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①5センター合同若葉区地域ケア会議は中止とし、来年度状況を見ながら検討することを話し合った。
②5センター合同での定例地域ケア会議は、注意を払いながら会議を集合、またはオンラインでの開催となった。若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議を開催。（3月１５日）
③加曽利町地区地域ケア会議は、開催されなかったが、加曽利地区部会の社協だよりに、文章の依頼があり情報提供した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>若葉区地域ケア会議については、オンライン、集合を組み合わせた、ハイブリット方式も検討されたが、コロナ感染症拡大となり、今年度の開催は中止とした。その他の会議については、状況をみながら集合またはオンラインで開催できた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">①5センター合同での地域ケア会議を開催する。
②5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催し、地域課題の検討、情報共有を図り、地域ケア会議としての役割を果たすようにする。その他自立促進ケア会議、年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議とする。
③加曽利地区地域ケア会議を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">7　一般介護予防事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行った。
②シニアリーダー体操教室の支援や地域住民へのいきいき活動手帳を配布し、広報活動を実施した。
③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で支援した。いきいき活動手帳を配布した。
④都賀いきいきセンター祭りで広報活動に努めた。
⑤若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加した。（６月２４日）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行った。
②シニアリーダー体操教室に出向いて開催の支援を行なった。
③地域の体操教室は人数調整を行い、あんしんケアセンター都賀と合同で支援した。
④都賀いきいきセンターで、出張相談会を実施した。（１月２９日、３０日）⑤若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加した。（12月１日）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>状況を見ながら、積極的に参加し活動することができた。コロナ禍のなか、体操教室については人数、間隔を空けたり、換気するなど感染予防に努めて支援を継続した。いきいき活動手帳、フレイル等について積極的に普及活動した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行う。
②シニアリーダー体操教室の支援や地域住民への広報活動を実施する。
③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で支援する。
④区民祭り、都賀コミュニティー祭り、都賀いきいきセンター祭り等で広報活動に努める。
⑤生活支援コーディネーターの情報から必要な情報が適宜提供できる体制を整える。
⑥若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加し、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」について連携する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター千城台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">・圏域内17,756世帯のうち独居高齢者の割合が1,358人（約7,6%）、高齢者夫婦のみの世帯も多く、地域との関係性が希薄な場合は生活課題が表面化しにくい状況にあり、介入時には課題が複合化している相談が増加傾向にあります。また、千城台、小倉台周辺にエレベーターの無い市営、県営住宅が多く、外出や交流機会の減少が孤立化、心身機能の低下につながっている傾向にあるほか、区外の更科地区は交通の便が悪く、通院や買物等、外出時の移動手段確保に苦慮する事が多くなっています。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・センターの移転が商業施設内へ決まり、センターの役割や地域状況を幅広い住民の皆様へ周知する事で、支援が必要な高齢者を早期に発見し、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう適切な支援を行います。また、地域包括ケアシステムの推進に向けて、地域ケア会議の開催や連絡会への参加を行うほか、障害や児童等の団体とも連携することで複合的な課題を抱える世帯への幅広い支援の充実や高齢者が身近な場所で健康づくりにを行えるように体操教室の開催、介護予防を推進する団体との連携を深めます。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・新規シニアリーダー体操教室開設に向けて、主催者と共に開催拠点の立ち上げ支援を行った。
・コーディネーターと協働にて住民主体の通いの場1ヶ所の立ち上げ支援、住民の参加勧奨を行った。
・センター主催の体操教室は、4~6月に屋外公園にて開催、7月以降は緊急事態宣言により休止した。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍でのフレイル予防目的で、屋外での体操教室を行い一定人数の参加が得られたが、コロナの感染拡大等により、年間を通じて安定的な活動ができなかった。また、同様にシニアリーダー体操教室やサロン等の訪問もコロナ禍での活動停止もあり、十分な連携が図れなかったため。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・「セルフケアの推進」に向けて1月と2月に体力測定会を開催、個々の体力データ測定、評価、目標設定を行った。
・「閉じこもり防止」目的でセンター直営の体操教室を再開したが、コロナ禍で十分な活動とならなかった。
・「自主グループの育成」は、シニアリダーの教室1ヶ所の立ち上げを支援、また、畑作業を通じて多世代交流を目的とした「マチナカ菜園」と連携、立ち上げや協力者募集等の支援を行った。</td></tr>
<tr><td>年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍でのフレイル予防目的で、屋外での体操教室を行い一定人数の参加が得られたが、コロナの感染拡大等により、年間を通じて安定的な活動ができなかった。また、同様にシニアリーダー体操教室やサロン等の訪問もコロナ禍での活動停止もあり、十分な連携が図れなかったため。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・コロナ禍を意識した活動に取り組む関係機関と連携し、休止となっている活動が再開された場合の支援を行う。
・集いの場への参加が少ないと言われる男性高齢者へ連携中の「マチナカ菜園」の情報を提供し、男性の参加に繋げる。
・総合相談や地域特性を分析し、必要と思われる新たな社会資源の創出に繋げる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターの協力で圏域介護支援専門員連絡会、若葉区ソーシャルワーク連絡会をオンライン各1回開催、コロナ渦における新たな手法で関係づくりを行った。
・訪問看護ステーション2ヶ所と連携し、地域住民向けの講座を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍において集合型の研修が難しく何れもオンライン開催となったことやコロナ感染が拡大したことで想定したよりも参加者が少なく連携の推進拡大に繋がらなかったため。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・「若葉区多職種連携会議」を共催、「入退院支援センターの取り組み」をテーマに外来から入院、退院から自宅への流れについて多職種間で情報共有を行った。
・「桜木・千城台・大宮台地区多職種連携会議」では、「在宅における歯科の役割」をテーマに講義、グループワークを開催、圏域多職種の連携体制の構築を確認した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍において集合型の研修が難しく何れもオンライン開催となったことやコロナ感染が拡大したことで想定したよりも参加者が少なく連携の推進拡大に繋がらなかったため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・「若葉区多職種連携会議」、「桜木千城台・城台・大宮台地区多職種連携会議」各1回開催、医療介護の連携体制の構築に努める。
・今年度開催した訪問看護ステーションと連携した講座開催を継続し、住民への健康づくりや予防的視点の強化を図る。
・総合相談を通じて医療機関との連携を推進することで、ネットワークの強化を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍のため対面による積極的な普及啓発活動は困難だったが、認知症関連の情報提供を行った。
・10月上旬圏域内中学校にてキッズ認知症サポーター養成講座の計画が悪天候により延期となった。
・地域の社会資源と民生委員や自治会と連携し情報共有や見守りを行い、シームレスなケアに努めた。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>中学生向けには教員の協力を得て「記憶のつぼ」を実演した。高校生向けには当事者ご夫婦に講義をしていただいた。座学だけではなく認知症の方の対応方法を具体的に伝える工夫ができた。また、認知症サポーターと認知症当事者、地域の活動場所をつなぐきかっけ作りができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・R3.10に圏域内中学校にてキッズ認知症サポーター養成講座、R4.1に圏域内高校剣道部にて認知症サポーターステップアップ講座を開催。感染症対策を講じた上で対面で行った。当事者の方を講師として招き、学生と直接交流することができた。また、サポーターが実際に活躍できる場を紹介することができた。
・コロナ禍で地域住民や関連機関に向けて積極的な普及啓発は困難であったが、情報共有やネットワーク強化に努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座については、対面とオンラインのそれぞれの利点があるため情勢に合わせた方法を検討し、積極的に開催していく。また、認知症サポーターが実際に活躍できる場を増やし活動へとつなげていく。
・コロナ禍で活動の制限が続く中でもパンフレットなどを活用し認知症の正しい知識や対応方法を広めていく。
・地域や個人の課題発見、迅速な対応ができるよう関連機関との連携を強化する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍においても活動を継続している地域の通いの場やインフォーマルサービスについての情報収集に努め、介護予防マネジメントにも活用できるよう情報提供・共有を行った。
・交流の機会として、電話やオンライン交流の推進を行った。
・必要な利用者への「いきいき活動手帳の活用」を情報提供・共有した。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・地域活動の担当者と密に連絡・連携を行うことができたが、コロナ禍による休止が多く活用を紹介できる場が殆どなかった。
・「いきいき活動手帳」をセルフマネジメント能力向上が見込まれると予測される利用者への活用を推進したが、活用には至らなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ感染状況の変化に伴う「地域の通いの場」等の開催状況を、地域担当者との連絡を密に取り合い、随時状況確認・情報共有することで、開催時には活用の検討を推進した。
・コロナ禍長期化による生活において、個々の感染予防対策徹底への声かけを行いつつ、心身機能の変化・低下に注目し、セルフマネジメント能力向上を念頭に、必要な予防介護サービス調整の支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍長期化による生活様式継続の必要性が高い状況においても、個々のセルフマネジメント能力の向上に努め、適切な予防介護サービス利用や支援を受けつつも自立した生活が継続できるよう支援する。
・地域の通いの場や介護予防担当者との連絡を密にとり、活動状況の情報収集に務め、直営・委託担当者共に必要に応じた適切な活用を勧める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・基幹相談支援センターと連携し双方の連絡会にも参加し相互交流・情報交換を行った。
・社会資源について直接足を運び情報収集し、新しい社会資源の発掘と生かし方を検討した。
・高齢者や同一世帯員等の課題について包括的に対応し、障害・医療の専門職域や地域住民等インフォーマルな繋がりを生かせるよう連携し相談対応を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ下での制限がありつつも定例の相談員連絡会以外に新たに障害者基幹相談支援センターの連絡会への参加が行え、情報交換が行えた。連絡会参加者間での交流が柔軟に広がれることで、連絡会の中だけの交流ではなく双方向でのネットワークの構築に繋がるのではないかと感じた。地域の社会資源の情報収集や活動支援が行えた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・若葉区内の相談員連絡会をオンラインにて開催し、更生保護について勉強会を行った。
・地域の社会資源の把握・情報提供、活用とマチナカ菜園が地域内で活動促進の支援を行った。
・障害者基幹相談支援センター主催の連絡会に参加し、障害・介護双方の立場での意見交換を行った。
・総合相談に於いて制度を横断して多機関と連携し、地域住民からの情報提供も加味しつつ対応した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・若葉区内の相談員連絡会の開催方法を見直しオンラインの活用とコロナ禍での顔の見える連携づくりを行っていく。
・多制度を横断し柔軟に個別ケースに対応できるよう、障害・医療等の個別勉強会の開催も視野にいれる。
・社会資源の活動促進ができるよう進捗を把握しつつ、必要な資源の情報提供等適宜行っていく。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・日常生活自立支援事業について地域住民向けに講座を行った。 ・地域住民向けの案内も含めエンディングノートの周知と個別の案内を行った。 ・高齢・障害・精神医療等の担当者と虐待等の対応や情報共有・検討会の開催を行い適宜連携した。		
後期	具体的な取り組み状況	・権利侵害が疑われる事例において、個別的な相談対応と連携会議について当センター主催のものや区健康課・区高齢障害支援課主催のものにも参加し、区担当課や関係機関(介護サービス事業者・ひきこもり支援センター・障害関係機関等)と相談・会議にて都度情報共有を行うことで現在の課題の確認や役割分担、必要な支援に繋げるための支援体制を構築することができた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・日常生活自立支援事業のご案内等について地域住民向けに講座を行ったが、コロナ下での制限もありつつ、積極的な権利擁護・虐待予防に対する啓発活動には至らなかった。 ・高齢者虐待や虐待を疑う個別事例においては関係機関と必要時に都度情報共有を行いながら対応することができた。
	次年度に向けた展望	・高齢者運転やメンタルケア等、コロナ下での権利擁護と絡め個々に考える機会がもてるよう啓発活動に努める。 ・地域住民や関連機関にむけて成年後見制度や消費者被害防止の研修やリーフレットを活用する。また、圏域内法律関係職種の把握と今後連携がとれるよう勉強会での交流も視野にいれる。 ・高齢者虐待の予防・早期発見、対応できるよう関係機関との連携を強化する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・9月に、若葉区介護支援専門員連絡会にて、新ケアプランの書き方、BCP計画の研修を開催した。 ・圏域介護支援専門員連絡会を4月、8月に開催し、介護報酬改正の情報交換、精神疾患のある方へのケアの意見交換を行い、地域課題を認識した。		
後期	具体的な取り組み状況	圏域内介護支援専門員を対象に、介護支援専門員連絡会を4回開催した。今年度は、精神疾患を抱えた人の支援をテーマに、精神疾患を抱えた人の地域での生活トラブルについて事例検討や、精神病院との入退院時の連携、若葉区若葉保健福祉センター健康課より法律に基づく社会資源の紹介について、意見交換、情報共有を行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・千城台圏域介護支援専門員連絡会を4回開催できた。 ・ケアマネジメントにおいて困難な精神疾患について、知識や理解が深まる一助となった。 ・コロナ渦ZOOMでの開催だが、ZOOM操作において不手際があった。
	次年度に向けた展望	圏域の介護支援専門員にヒアリングやアンケートを実施し、連絡会の在り方の検討、介護支援専門員を取り巻く環境の整備や、介護支援専門員のニーズに合った内容で、千城台圏域介護支援専門員連絡会を定期的に開催し、介護支援専門員の資質向上に努める。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・上記内容を圏域の介護支援専門員等について情報提供を行い関係機関との関係性の構築を行った。 ・担当圏域の介護支援専門員からの世帯的な支援における多制度の活用や多職種による協働が必要なケースにおいては、地域ケア会議を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・虐待ケースとして保護・分離に至る前の、支援体制の構築のために、情報提供と共有・目標と役割分担などの明確化などが地域ケア会議を通じて行った。 ・地域生活の良好な状態を維持するためには、世帯や個人だけではなく地域における問題として関係者が具体的に認識しながら、交流を深化させていく必要があることも確認できた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・地域の組織との関係作りはコロナ禍の継続中では実施することが困難であった。 ・課題抽出からの具体的な社会資源の創設への支援の具体化までには至っていない。 ・地域課題の具体的な地域的な対策方法を模索している段階である。
	次年度に向けた展望	・個別的な地域ケア会議の終結も含む開催事例について、関係機関に情報提供を積極的に行い、必要に応じて地域の様々な機関の意見交換や役割の確認ができるような体制の構築を目指す。 ・地域の様々な社会資源が地域との関りについて情報収集することと、地域の課題を他職種と連携しながら必要に応じて地域的な地域ケア会議を都度開催をする。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域住民に対し、公園で介護予防体操教室を開催をした。
・老人クラブやサロンに訪問し、介護予防およびセルフケアマネジメントの普及啓発を行った。
・地域住民の介護予防活動を訪問し、コロナ禍においても円滑に再開・継続されるよう、感染予防対策・介護予防の知識の普及を行い、新たな地域活動組織の立ち上げと継続支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">地域住民に対して、公園で介護予防体操教室の開催をした。計10回。
公民館や自主グループにおいて、認知症予防の講話会を開催した。また、健康課と連携し健口教室の開催を支援した。
地域住民や自主グループに対して、体力測定会や介護予防体操教室を開催し、体力の評価とアドバイスをした。
各通いの場の参加者に対し、いきいき活動手帳を配布し、セルフケアマネジメントの普及啓発を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍による緊急事態宣言・まん延防止措置の中、広く啓蒙活動をすることが難しかった。
閉じこもりや心身機能低下傾向にある高齢者の発掘や対応について、効果的な対策がとれなかった。再開できた通いの場に対しては、介護予防啓発活動・体力の評価・セルフケアマネジメントの普及活動が行え、コロナのクラスターも発生していない。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">コロナ禍が長期化する中、高齢者が自ら介護予防行動をとれるよう介護予防啓蒙活動を展開する。地域住民、自主グループ、地域資源と連携することにより、介護予防体操教室や講話会・参加型のイベントを開催する。
そういった活動を通して、地域住民が介護予防の知識・技術を身に着け、高齢者がいきいきと社会参加できる心身機能の維持と活動・活躍できる場の提供や発掘・支援を目指す。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター大宮台</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">高齢化率46%を超える圏域であり、農業が盛んで集落が点在している地域特性がある。
・独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方が増えており、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。
・圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。買い物や通院、集いの場に出かける際に利用できる移動手段の確保が困難である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。
・コロナ禍においてもICT等を活用することで、他機関と連携し、会議等を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・大宮台自治会館を訪問し、新任会長への挨拶と情報交換を行った(5月)。「悠リビング」を訪問し、取り組んでいる地域活動の把握と、集いの場となりうる会場の確認を行った(5月)。大宮いきいきセンターを訪問し、活動状況や利用者について情報交換を行った(9月)。白井地区地域ケア会議の開催に向けて、福祉ネットワーク委員会に出席した(8月・9月)。
・中野町での集いの場については地区部会に相談中であり、集いの場「よろず亭」での出張相談は延期となっている。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・白井地区地域ケア会議の開催に向けて、福祉ネットワーク役員会議(10月)と福祉ネットワーク委員会(10月)に出席して打ち合わせを行った。白井地区地域ケア会議を開催した(11/8)。
・関係者(団体)とは、会議や定例会、相談ケースの対応等で連携を図った。第2層生活支援コーディネーターとは同行訪問や情報共有をしている。集いの場「よろず亭」での出張相談、中野町での集いの場は対応検討中である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">関係機関には第2層生活支援コーディネーターとともに訪問して連携を図った。白井地区地域ケア会議は、白井地区部会と相談を重ねながら開催することができた。集いの場「よろず亭」での出張相談は、新型コロナウイルス感染予防のため、今年度も開催を見合わせた。中野町での集いの場については、自治会に働きかけているが、次年度に持ち越しとなった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・地域住民による自主活動が開催できるよう、地区部会や民生委員等と連携しながら、情報収集と活動支援を行う。
・中野町住民に向けての集いの場については、保健師と第2層生活支援コーディネーターが自治会役員会に出席して説明を行った際、先ずはあんしんケアセンターについて役員向けに説明をしてほしいと要望があったので、働きかけを継続する。
・多部田町にある自主活動の場「よろず亭」の活動支援については、広報活動や出張相談等を検討する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・会議や研修会のオンライン開催にあたり、在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぎ開催した。
・若葉区多職種連携会議(7/30)と第16回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(6/24)、第1回若葉区介護支援専門員連絡会(9/17)をオンライン形式で開催した。
・自立促進ケア会議に出席し、事例提供を行った(9/21)。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・会議や研修会のオンライン開催にあたり、在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぎ開催した。
・桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(2/18)と第17回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(11/24)、第2回若葉区介護支援専門員連絡会(2/28)をオンライン形式で開催した。3圏域での多職種連携会議については、事務局として対応した。若葉区地域ケア会議は開催中止となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぎ、会議や連絡会をオンライン形式で開催することができた。桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議は事務局として対応し、今年度初めて圏域に分かれての多職種連携会議を開催した。若葉区地域ケア会議は、3月にハイブリット形式での開催を企画していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療や介護に関する情報収集や相談支援を行う。
・会議や連絡会等については、ICT等を活用するなど、状況に応じた方法で開催する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チーム員会議に出席した(オンライン：6回)。今年度はまだ相談ケースはない。
・白井中学校生徒を対象に認知症サポータ養成講座を開催した(6/18)。事前に高齢支援班と共に白井中学校を訪問し、開催に向けた打ち合わせを行った(6/10)。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チーム員会議に出席した(オンライン：6回)。今年度の相談ケースは1件だった。
・認知症サポータ養成講座を高根団地自治会館(11/20)と若葉・緑環境事業所(11/30)にて開催した。若葉・緑環境事業所での開催にあたり、訪問して打ち合わせを行った(11/25)。新宮田自治会館(2/12)は延期とした。
・高齢障害支援課主催の「令和4年度キッズ認知症サポーター養成講座打ち合わせ」に出席した(3/7)。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>認知症サポーター養成講座については、新型コロナウイルス感染予防のため延期となったところ(新宮田自治会館)もあったが、地域住民や中学生、行政職員に向けて講座を開催することができた。認知症初期集中支援チームに依頼したケースは1件だったが、認知症初期集中支援チーム員会議には毎回出席した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座等を積極的に開催する。白井地区については、1月8日に地区部会役員と次年度の取組みについて話し合いを行った。認知症サポーター養成講座に限らず、認知症や介護予防に関することなど住民の要望に沿った講座を行う。中学生に向けての講座については、オンライン形式での開催方法を検討する。
・認知症の支援困難事例に対し、認知症初期集中支援チームと連携して適切な支援につなげる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。
・大宮いきいきセンターを訪問し、活動状況や利用者について情報交換を行った(9月)。
・若葉保健福祉センター主催の「若葉区介護予防事業に関する意見交換会」に出席した(6/24)。
・シニアリーダー講座に出席した(7/21)。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。
・地域の自主サークルや予防教室、健康課や大宮いきいきセンターで行っている事業を紹介した。
・若葉保健福祉センター主催の「若葉区介護予防事業に関する意見交換会」に出席した(12/1)。
・シニアリーダー講座に出席した(12/23)。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>その方に合ったサービスや活動を提案し、公正・中立性に努めた。第2層生活支援コーディネーターとともに、教室や事業の開催状況を把握しながら、継続支援を行った。若葉保健福祉センター主催の「若葉区介護予防事業に関する意見交換会」に参加し、高齢支援班や健康課の保健師職等との連携に努めた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ禍で外出や活動を自粛している方が多く、廃用症候群や閉じこもりの予防が必要な状況が続いている。関係機関と連携し、地域の活動状況を把握・共有しながら、適切な事業や活動につなげる。また、集いの場等の活動を継続できるよう支援する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3 総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・3職種が連携して対応している。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも協働している。
・若葉区多職種連携会議(7/30)と第1回若葉区介護支援専門員連絡会(9/17)、第16回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(6/24)をオンライン形式で開催した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・3職種が連携して対応している。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも連携している。認知症の方については、認知症初期集中支援チームに依頼した。
・桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(2/18)と第2回若葉区介護支援専門員連絡会(2/28)、第17回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(11/24)をオンライン形式で開催した。若葉区地域ケア会議は開催中止となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>D</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>新規相談については、昨年度よりも増加する見込みである。支援困難事例が多く、センター職員・関係機関と連携して対応した。会議や連絡会については、オンラインを活用することでほぼ開催することができた。若葉区地域ケア会議は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・包括3職種の専門性を活かしたチームアプローチを実践する。また、関係機関とも連携を図る。
・会議や連絡会等については、ICT等を活用するなど、状況に応じた方法で開催する。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・新規虐待ケースは2件で、関係機関と連携して対応した。個別ケース会議を開催した(2回)。成年後見制度に関して、成年後見支援センターへ相談した他、リーガルサポートやＮＰＯ法人へつなぐことができた。 ・第16回若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催した(6/24)。区内センター社会福祉士会議を開催した(3回)。 ・千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会を開催した(8/30)。		
後期	具体的な取り組み状況	・新規虐待ケースはなかったが、継続ケースについて関係機関と相談しながら対応している。個別ケース会議を開催した(1回)。困難ケースについては、高齢支援班や健康課と話し合ったり、同行訪問したり、連携して対応した。 ・第17回若葉区ソーシャルワーカー連絡会をオンライン形式で開催した(11/24)。区内センター社会福祉士会議を開催する予定である(3/29)。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	虐待(疑い)や困難ケースについては3職種や関係機関と連携して対応した。新規の虐待相談は例年に比べてとても少なかった。若葉区ソーシャルワーカー連絡会は区内センター社会福祉士が連携し、オンライン形式で開催できた。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会もオンライン形式で開催した。
	次年度に向けた展望	・関係機関と連携して対応する。権利擁護について様々な場面で普及啓発を行う。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、3月に区内センター社会福祉士会議を開催し、次年度に向けて話し合いを行う予定である。状況に応じた方法で開催する。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会については、千葉東警察署生活安全課と相談して開催方法を検討する。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域内介護支援専門員を対象とした茶話会(7/21)と第1回若葉区介護支援専門員連絡会(9/17)をオンライン形式で開催した。区内センター管理者会議(4/2)と区内センター主任介護支援専門員会議(3回)を開催した。 ・若葉区支え合いのまち推進協議会は書面会議となった。地域密着型サービス運営推進会議に対応した(出席：2回、書面：8回)。若葉区相談支援事業所意見交換会に出席した(7/15)。		
後期	具体的な取り組み状況	・第2回若葉区介護支援専門員連絡会をオンライン形式で開催した(2/28)。区内センター管理者会議(2/4)と主任介護支援専門員会議(2回)を開催した。圏域内介護支援専門員対象の茶話会を開催する予定(3/25)。 ・地域密着型サービス運営推進会議に対応した(出席2回、書面10回)。若葉区相談支援事業所意見交換会(10/21)と千葉市地域自立支援協議会若葉区地域部会(10/26)に出席した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	昨年度開催できなかった茶話会をオンライン形式で開催し、介護支援専門員のニーズ把握に努めた。若葉区介護支援専門員連絡会は区内センター主任介護支援専門員が連携し、計画通り年2回開催できた。地域密着型サービス運営推進会議は今年度も書面による意見聴取が多く、適宜対応した。若葉区障害者基幹相談支援センターと連携している。
	次年度に向けた展望	・連絡会や茶話会等の開催及び個々のケース対応のサポートにより、介護支援専門員のスキルアップを図り、お互いに相談し合える関係づくりを支援する。 ・若葉区支え合いのまち推進協議会、地域密着型サービス運営推進会議は適宜対応する。 ・若葉区障害者基幹相談支援センターと連携し、障害分野の相談も適切に対応できるように努める。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・個別事例の地域ケア会議を開催した(3回)。白井地区地域ケア会議の開催に向けて、福祉ネットワーク委員会に出席した(8月・9月)。 ・定例地域ケア会議を開催した(集合：4回、オンライン：1回)。若葉区多職種連携会議をオンライン形式で開催した(7/30)。自立促進ケア会議に出席し、事例提供を行った(9/21)。		
後期	具体的な取り組み状況	・個別事例の地域ケア会議開催した(1件)。白井地区地域ケア会議を開催した(11/8)。 ・定例地域ケア会議を開催した(集合：3回、オンライン2回)。桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議をオンライン形式で開催した(2/18)。若葉区地域ケア会議は開催中止となった。高齢者保健福祉相談ネットワーク連絡会に出席する予定である(3/15)。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	個別事例の地域ケア会議は必要に応じて開催した。白井地区地域ケア会議は、白井地区部会と相談を重ねながら開催することができた。定例地域ケア会議は、状況に応じた開催を実施した。今年度初めて桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議を開催できた。若葉区地域ケア会議は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。
	次年度に向けた展望	・白井地区地域ケア会議については、今年度のように福祉ネットワーク委員会に出席して地域の課題を話し合い、会議の開催内容や方法をともに検討するようにしたい。 ・地域ケア会議や多職種連携会議等については、状況に応じた方法で開催する。若葉区地域ケア会議は、新型コロナウイルス感染予防のため2年連続で中止となったが、次年度は事務局として開催方法を検討する。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・「お達者カフェ」は開催を見合わせている。「元気アップＯＢ会」は10回開催し、「にこにこクラブ」は未開催となっている。「青空のびのび講座」を5回開催した。自主サークルは合計で3回しか開催がなかった。若葉区シニアリーダー連絡会に出席した(4回)。若葉区老人クラブ連合会の定例会にて、介護予防といきいき活動手帳について説明した(9/15)。
・白井中学校生徒を対象に認知症サポータ養成講座を開催した(6/18)。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・「お達者カフェ」(3回)、「元気アップＯＢ会」(1班：7回、2班：7回)、「にこにこクラブ」(3回)を開催した。自主サークルの後方支援を行った(14回)。若葉区シニアリーダー連絡会(4回)と交流会(1回)に出席した。
・第二和楽会(10/23)と406地区民生委員定例会(3/8)にて説明会を行った。若葉区民まつり(11/1)は中止。
・認知症サポータ養成講座を高根団地自治会館(11/20)と若葉・緑環境事業所(11/30)にて開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>高齢者の集いの場や予防教室等は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催した。予防教室の開催が難しかった時期は、公園にて「青空のびのび講座」を開催して体操を行うことができた。自主サークルについても定期的にシニアリーダーと連絡を取り、開催できるように努めた。説明会や講座については、感染予防を徹底して開催した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・高齢者の集いの場や予防教室等については、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、シニアリーダーや参加者等と相談して開催する。
・認知症や介護予防について、様々な地域や活動の場で開催できるように取り組む。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター鎌取</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">１　鎌取圏域の高齢化率は16.67%（令和2年12月末現在）で、市内の他圏域と比較して最も低いものの、高齢　者人口は１万人を超えており、ここ数年の高齢者人口の増加率は市内で最も高い数値となっている。５年後～10年後には高齢化率が急速に高まっていく。介護予防や生活支援に関する受け皿不足が懸念される。
２　自治会加入率が低迷している地域や呼び寄せ高齢者が多い地域では、地域の繋がりの希薄さが伺われる。地域活動への参加や支援体制に地域差が生じており、担い手の高齢化が進んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">１　地域ケア会議の開催を通じ、各地区毎の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。
２　地域住民が健康な段階から、介護予防や終活といったことに目を向け、自発的に取り組めるよう支援を行う。
３　コロナ禍や自然災害の際にも必要な支援をスムーズに提供するため、関係機関との連携やICTの活用などに努める。</td></tr>
<tr><td colspan="6">１　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・緑区第一層生活支援コーディネーター主催による定例会に参加しながら、各圏域における地域課題の把握や、社会資源に関する情報共有を図った。
・地域課題については民生委員定例会において、昨年度の活動実績と併せて情報発信を行った。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">センター主催ではなかったが、地域課題や地域包括ケアシステム構築における自助・互助の必要性について説明を行うことができたことで、少なからず地域活動を活性化するための動機付けになったのではないかと考えられるため。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・緑区第一層生活支援コーディネーター主催による定例会に参加しながら、各圏域における地域課題の把握や社会資源に関する情報共有を図った。
・おゆみの地域運営委員会主催の講演会にて、おゆみ野地区の地域課題を踏まえながら、地域包括ケアシステムの構築における、自助・互助の必要性について説明を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">センター主催ではなかったが、地域課題や地域包括ケアシステム構築における自助・互助の必要性について説明を行うことができたことで、少なからず地域活動を活性化するための動機付けになったのではないかと考えられるため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・生活支援コーディネーターと連携を図りながら、住民主体の通いの場など社会資源に向けたアプローチについて検討し、地域活動の活性化のための具体的な支援方法を構築していく。
・地域で開催されているサロン活動や見守り活動団体の会議に参加し、活動活性化のための助言・相談・支援等を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、オンラインで緑区内の介護支援専門員を対象にミニ講演会を開催した。事前に介護支援専門員が日ごろ感じている疑問などをアンケート調査し、センターの機能紹介と共に寄せられた疑問に対しての回答を得て、医療や介護に関する情報収集及び、相談支援や多職種連携の充実に努めた。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">オンラインを活用し、介護支援専門員が日常的に直面する相談援助について講演会を開催することができたため。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、オンラインで緑区内の介護支援専門員を対象にカスタマーハラスメント講演会を開催した。事前に介護支援専門員に本人家族からの過剰要求に対するアンケートを調査し、考え方や対応方法の回答を得て、相談援助の確認に努めた。
・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療資源の情報収集を行うほかに、緑区内の多職種連携会議に参加し、関係機関との検討の機会を設けた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・在宅医療・介護連携については、引き続き在宅医療・介護支援センターとの連携を基に、医療や介護に関する相談支援や多職種連携の充実、及び医療や介護に関する情報収集に努める。
・多職種連携会議の開催に加え、医療機関や訪問看護師、介護支援専門員など関係機関との事例検討会や勉強会については積極的にオンラインを活用することで、更なる連携を深めていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症に関する個別の相談事例については、認知症ケアパスを用いながら、症状の理解や今後の対応について、相談者に説明を行った。
・各医療機関及び相談窓口を案内し、必要な機関や制度利用に繋がるよう支援を行うほか、状況に応じて、介護支援専門員や認知症初期集中支援チームと連携を図りながら、早期介入を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">開催予定であった郵便局職員向けの認知症サポーター養成講座は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となっている。認知症に関する相談は増加の一途をたどっており、認知症の方とその家族に対しては、総合的・継続的な支援体制の構築が必要であることから、3職種の連携はもとより、医療機関をはじめ、認知症初期集中支援チームとの連携を図りながら対応した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>認知症に関する相談については、認知症ケアパスを活用し、3職種連携のもと対応に当たるとともに、職員の認知症コーディネータの養成を推進した。早期の介入から適切な支援が必要なケースにおいては、医療機関や認知症初期集中支援チームとの連携から支援を進めることができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指すべく、認知症の方やその家族の身近な相談先として、また、医療機関や専門的な相談窓口への橋渡し役として3職種が連携しながら対応にあたっていく。
・オンラインを活用し、認知症に関する勉強会や認知症サポーター養成講座の開催を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・対象者から丁寧な聞き取りを行うことで、対象者自身が自己の現状を振返り、気付きを得られるように様々な視点からのアプローチを行った。必要に応じて家族などの関係者からも情報収集を行い得られた情報からアセスメントをし、適切な情報提供を行うと共に介護保険サービスだけなでくインフォーマルサービスについても促すことができた。
・コロナ禍という状況で制限はあるが、各自の生活課題の改善のための対応、情報発信を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・利用者への丁寧な聞き取りを心掛けながら、「コロナフレイル」の周知を行った。
・利用者自らの気付きを促すことが出来るよう、生活習慣について適切な質問を交えながら、丁寧な聞き取りとなるよう留意し支援を行った。
・シニアリーダー体操教室やサロン等のインフォーマルサービスに関する情報提供の為、実際の活動状況の正確な把握に努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>確実な情報提供を可能にするため、サロン活動などの情報収集を第１層生活支援コーディネーター、他圏域の第2層生活支援コーディネーターと連携を取りながら行った。コロナ禍のため、それぞれの活動が非常に変則的で、綿密な確認行動が必須であったが、課題解決に向けて意欲的に取り組むことができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・介護予防・日常生活支援総合事業利用者に対して、自立を促す支援を行う。
・引き続き、他圏域を含めた生活支援コーディネーターとの連携を意識する。
・情報収集、アセスメントは、「コロナフレイル」「アフターコロナ」に留意して行い、情報に統一性を持たせるためにチェックリストを利用する。時事と絡め、可能な限り最新且つ正確な情報収集に留意し、情報を提供する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・相談者の気持ちに寄添い丁寧な聞き取りを行い、高齢者の生活実態・潜在化している課題把握に努め、適切なサービス利用に繋ぐために制度や地域資源の把握、多職種・他機関との連携に努めた。
・緊急性の有無を意識し、早期の課題解決が図れるよう、３職種で協議する場を頻回に設け、事例検討を実施する事で、個別性に合わせた対応を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・相談者の気持ちに寄添いながら丁寧な聞き取りを行い、課題の把握と適切なサービス利用へ繋ぐことができた。また、制度や地域資源の把握を行い、日頃から他機関との連携を図ることで、より円滑に支援できる体制づくりに努めた。
・3職種で情報の共有を図り、緊急性を判断しながら適宜必要な機関と連携をして、相談対応を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>相談者の気持ちに寄り添いながら丁寧な聞き取りを行い、適切な情報提供を行うため制度や動向を把握し、３職種間での協議及び関係機関と連携をとることで、迅速かつ適切な支援に結びつけることができた。終活では、事前に施設入所について知りたいという相談が多く、施設の概要の説明だけでなく、紹介会社等の企業と連携しながら支援することができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・相談者の気持ちに寄り添い、丁寧な対応を心がける。
・センター内及び関係機関と情報共有・連携を図る。また、一部資料化をすることで相談対応の平準化を図る。
・出張相談窓口を設けたり、民間企業と連携し公開講座を開く等して、相談窓口の周知やニーズに基づいた情報提供の場を作る機会をもつ。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者虐待では、2ヶ月に一度の虐待連絡会の開催から対応方法に関する検討や検証を行い、他のセンターの取り組みを学び、職員のスキルアップに繋げることができた。
・成年後見制度や消費者被害に関して、相談者の課題に応じた適切な情報を提供するとともに、速やかに必要な専門機関に繋ぐことで、早期の課題解決に向けた対応ができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・高齢者虐待では、2カ月に一度虐待連絡会の開催時に対応方法に関する検討や検証を行い、他のセンターの取り組みを学び、職員のスキルアップに繋げることができた。
・成年後見支援センターに協力を得ながら、成年後見制度と日常生活自立支援事業について緑区3センターで参加者を募り内部研修を開催、理解を深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>成年後見制度と日常生活自立支援事業についての内部研修はオンラインで行った。コロナ禍における新たな試みとして取り組んだが、他のセンターや他機関と合同で開催できたことで次に繋げられると考えられるため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・権利擁護に関する相談については、引き続き関係機関との連携を基に対応を行う。
・成年後見制度利用促進計画についての理解を深めるとともに、制度を必要とする方が適切に利用できるよう、市長申立てについても高齢障害支援課と連携を図りながら対応していく。
・消費者被害を未然に防止するため、地域住民のみならず、介護支援専門員等にも情報発信を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新型コロナウイルスの影響により参集型の研修が難しいことから、オンラインで鎌取・誉田事例検討会を２回開催した。社会背景にある「認知症」「ハラスメント」をテーマに各事業所の取り組みを意見交換し、居宅介護支援事業所同士のネットワーク構築に繋げた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・新型コロナウイルスの影響で参集型の研修が難しいことから、オンラインを活用し、鎌取・誉田による事例検討会を４回開催した。「消費者トラブル」「背信行為」「短期目標の考え」「困難ケース」をテーマに各事業所の取り組みを意見交換し、事業所同士のネットワーク構築に繋げた。ケアマネジメントに関するアンケート調査を実施し、介護支援専門が抱える課題を確認した。・多様な関係機関との連携を図り、支援を必要とする高齢者を適切な支援に繋げた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍においても、介護支援専門員のネットワーク推進のためオンラインを積極的に活用した。また、介護支援専門員にアンケート調査を実施し、介護支援専門員の抱える課題やニーズを把握する事ができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・医療・介護及びインフォーマルサービスを含む多様な関係機関の情報収集、情報発信に努め、関係機関との連携を強化することにより、支援体制の充実を図り、高齢者を適切な支援に繋げていく。
・介護支援専門員の抱える課題やニーズをより把握し、多様なケースを支援する為の対応力の向上を図るために、介護支援専門員を対象に関係機関によるオンライン講座を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・前年度に開催をした地域ケア会議において進捗の見られなかった個別事例について、新たに医療機関やサービス事業所、地域支援者などの関係機関とのネットワークを再構築し、対象者が自らの地域において自立をした生活を営めるよう、多職種によるアプローチを試み、サービスの利用に繋げることができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">個別課題や地域課題解決のための会議の開催には至らなかったが、複合的な課題を抱える対応困難なケースや自らSOSを発信することの難しいケースにおいて、関係機関との情報共有やネットワークの構築、他機関の主催するケース会議に適宜参加。支援方針の共有や役割分担の明確化を図り、課題解決に向けた支援を行った。また、自立促進ケア会議への参加から高齢者を地域全体で支えていく視点を確認するとともに地域課題の把握を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>サービス利用に至っていないケア会議事例のフォローアップを行う事で、新たな機関とのネットワークの構築に繋がり、サービス利用に結びつけることができた。また、自立促進ケア会議への参加から8050問題など地域課題の把握を行った。更には、関係機関との連携やネットワークの構築から複合的な課題を抱える世帯へアプローチし、支援に結び付ける事ができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">複雑かつ多様化し、対応が困難な生活課題を解決するため、多機関・多職種からの幅広い意見の集約を行う個別事例の地域ケア会議を開催する。会議結果や意見集約から抽出をしたデータ等は地域住民をはじめ関係機関のネットワークにおいて地域の課題として情報発信・情報共有を行うことで、社会資源開発や政策提言へと繋げていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・活動再開している地域の集いの場へ参加し、地域の課題やニーズ把握に努めた。コロナ禍での生活不安の助言や熱中症予防、口腔ケア、がん検診などの健康に関する情報提供を行った。
・セルフマネジメント力向上のため、いきいき活動手帳の交付を行い課題解決に向けた自発的な取り組みの意識づけに努めた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・活動を再開している地域の集いの場へ参加し、地域課題やニーズの把握に努めながら、適宜健康についてのミニ講座を開催した。また、いきいき活動手帳の交付を行い、自発的な取り組みができるように支援した。
・一層生活支援コーディネーターから情報を得たり、共同で新設のサロンへ参加したりと、連携して取り組むことができた。また、広報紙作成にあたり、民間企業や社会福祉協議会等と連携して、健康に関する情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>骨密度測定会の実施を試みるも、感染拡大の状況を鑑み中止としたが、サロンへの参加は継続し、健康体操の実施や感染症・脳卒中等についてのミニ講座を行った。また、多職種連携に関しては、生活支援コーディネーターや緑区健康課と地域支援や健康啓発・介護予防に関する情報共有を図り、支援方針を話し合うなど連携に努めることができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・集いの場への参加、健康作りや介護予防に関する普及啓発活動を続けると共に、セルフマネジメント力向上に向けて、生活支援コーディネーターや健康課等関係機関との連携を図り、住民主体の活動に繋がるよう支援していく。
・集いの場へ参加できない住民にも広く普及啓発できるように、地域情報誌やセンター独自の広報紙等を活用し情報発信をしていく。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター誉田</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">１　圏域南側を東西に走る幹線道路と並行するJR以外に交通手段がない。高田町・平川町はさらに交通手段がなく、近隣から自力で出ることが困難な状態にある。誉田３丁目は駅前であるのに坂が多く、スーパーが廃業してしまい、それまで利用せずにすんでいた介護保険サービスを利用せざるを得なくなっている。
２　様々な事情（新しい関りには消極的な住民が多い、新入住民が多い、自治会が大きすぎてまとまらないなど）から、住民主体の活動があまり育たない。
３　圏域の居宅介護支援事業所の内、ICTを活用できる環境がない事業所がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">１　第２層生活支援コーディネーターやCSWと連携し、様々な手法を活用して地域診断を的確に行い、必要な地域に必要な活動を提供できる住民主体の助け合いグループやサークルの立ち上げ支援に力を入れる。
２　対面以外の方法を工夫し、あんしんケアセンターの活動を周知する。この時若い世代にも周知活動を広げる。
３　職員のICTを活用できるスキルを高める。またその環境にない事業所に対しては、これまで通りの対面や書面でのつながりを持ち続け、連携に差がでないよう配慮する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・第２層生活支援コーディネーターと連携し、地域のサロンの情報などを得ることができた。
・広報紙は予定通り作成し配布、特に訪問看護ステーションにスポットをあてて紹介した。
・毎月シニアリーダー連絡会に出席し、住民リーダーに感染症予防下での取り組みについて後方支援した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・マップA（インフォーマルサービス情報）ならびにマップB（高齢化率・認定率）の新規作成と更新を行い地域の関係機関に周知できた。
・基盤となる活動では、多くの点で第２層生活支援コーディネーターとともに支援した。その中ではいきいき体操のグループが立ち上がり４月から毎週開催の予定となった。認知症カフェの立ち上げについても検討が続いている。
・コロナ禍でも活動しているサロンを広報紙で紹介できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍で活動自粛のグループもあるが、感染予防対策をとりながら自主運動の紹介や介護予防の啓発活動ができた。運動教室や認知症カフェをやりたいとの声を拾い上げ、第２層生活支援コーディネーターと共に立ち上げ支援を行い、実現可能な段階まできている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">第２層生活支援コーディネーターとの連携を強化し、①いきいき体操や認知症カフェの立ち上げ支援を継続するとともに、さらに新しい活動の立ち上げができるように働きかける。②オンラインなどを活用し、既存の活動団体間交流の場を作り、相互の活性化を図る。③広報紙を活用し地域の社会資源や活動を紹介、住民に周知するとともに参加を呼びかける。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・医療職と連携する機会を持つことができなかったが、圏域内に増えた訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所との情報交換を行うことができた。
・区全体の居宅介護支援事業所と在宅医療・介護連携支援センターとの情報交換会を開催することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・ケアマネとの情報交換会で千葉市在宅医療・介護連携支援センターの紹介を行った。この時の話から講演会を開催する運びになった。
・圏域居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションとの情報交換会ができた。
・後期でも広報紙で訪問看護ステーションの紹介を続けた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>MSWなどの医療職と交流する機会は持てなかったが、圏域に増えた訪問看護ステーションとは情報交換会を通して連携を図れた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・オンラインを活用して、MSWとの事例検討会や多職種連携会議、あるいは自立に向けた地域ケア会議を開催し、専門職同士の繋がりを強化する。
・訪問看護ステーションや医療職と連携して住民対象のイベントを開催し、医療が身近にあることを感じてもらい、安心してその地域に住み続けられることを知ってもらう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">（3）認知症施策の推進</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チームに依頼し支援を始めるケースが続いた。担当介護支援専門員とも連携した結果、チームの支援から卒業できたり、成年後見制度利用につながったケースもあった。
・民生委員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催できた。
・認知症カフェは休業が続いているが、利用者に認知症予防に関するリーフレット等を送り、セルフケアに役立ててもらった。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍であっても、第２層生活支援コーディネーターと連携し、多くの活動ができた。ただし認知症カフェは再会できておらず、認知症サポーター養成講座とステップアップ講座も予定通りには開催できなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・前期に認知症初期集中支援チームにつなげたケースは全て終了となったが、後期も新たなニーズが発生し、チーム員との協働が続いている。
・民生委員向けに認知症サポーター養成講座を開催した。
・みかんの会２班にそれぞれ認知症地域推進員が参加、介護支援専門員や地域住民に活動や情報を周知するチラシを作成・配布した。
・オレンジカフェは引き続き休業中だが、登録者に「本人ミーティング」への参加を呼びかけるリーフレットを送る予定をしている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍であっても、第２層生活支援コーディネーターと連携し、多くの活動ができた。ただし認知症カフェは再会できておらず、認知症サポーター養成講座とステップアップ講座も予定通りには開催できなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">第二層生活支援コーディネーターとともに①感染症対策をとりながら認知症サポーター養成講座ならびにステップアップ講座を開催する。オンラインでの開催も検討する。さらに講座修了者が地域で活動できる場所を作る。 ②感染の状況にもよるが、「高齢者見守りSOS訓練」を実施する。 ③認知症カフェを再開する。</td></tr>
<tr><th colspan="5">2 第1号介護予防支援事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・要支援認定者だけでなく、要介護認定者に対しても、地域のボランティア団体や自主活動グループなどを紹介し、活用を促した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・マップA（インフォーマルサービス情報）ならびにマップB（高齢化率・認定率）の新規作成と更新は行ったが、活動を休止しているところが多く、周知ができていない。要支援者にも通いの場の情報を提供し、利用につながった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>地域診断に繋がるマップは作ったが、介護予防に役立ててもらえるような周知活動ができなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・第２層生活支援コーディネーターとの連携を強化して、生活支援サイトや地域のインフォーマルサポートを、多く活用してもらえるような周知活動を行う。
・休止している自主グループやサロンの活動再開に向けた後方支援を強化し、１つでも多くの活動を再開させたい。
・介護支援専門員に対して、インフォーマルサポートの活用を促す情報提供や周知活動を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・初回訪問の際、多くのケースで二職種で訪問し、緊急性や支援の方向性について客観性を保ち、的確な支援を提供することができた。
・毎朝の申し送り時や三職種会議等で、ケース検討の時間を設け、チームでの支援を提供した。終結判断についても三職種会議で行った。
・緑いきいきプラザの利用者を対象とした講座で、介護保険や老人ホームについて説明した。
・「災害時要確認者一覧」の情報を民生委員と共有した（本人了解のケース）。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・初回訪問は、できるだけ２職種で訪問するようにしたが、感染リスクを下げるためなどの事情から、１人での訪問も微増。この場合では他職種は情報共有のみということもあった。
・毎朝の申し送り時や３職種会議で支援の進捗状況を確認、終結の判断も行っている。
・緑いきいきプラザの利用者を対象とした講座（老人ホームについて）は１０月は開催できたが、１月は中止となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・初回相談件数は年間を通して大きな変動はなかったが、特に後期において新たな感染症リスクが高まり訪問も控えめにせざるを得なかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・引き続き、感染対策をとりつつ３職種がチームとなって対応していく。
・多問題を抱えるケースが増えているので、できるだけ初期から専門関係機関や民生委員と情報共有を行い、課題の深刻化を食い止める。
・感染状況をみながら、小規模イベントで個別相談窓口を設けるなど、相談できる場を身近なものにしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・二ヶ月に一回、虐待対応連絡会（オンライン）に出席し、情報共有やケース検討を行っている。また虐待の相談があった場合は、高齢支援班に連絡し、情報を共有、指示を仰ぎながら支援をしている。
・成年後見制度や日常生活支援事業についての相談が増えている。関係機関と連携し、必要に応じて司法書士につなぐなど対応ができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">隔月で開催される緑区虐待対応連絡会で、情報共有やケース検討を行い、日々の支援に役立てている。また虐待が疑われるケースについては、早期に緑区高齢支援班に連絡し、情報共有や対応を協議している。今年度はセンター内で高齢者虐待対応の勉強会を開催できた。なお２名の社会福祉士ともに虐待対応の研修を受け、それぞれ業務に役立てられる知識を身に着けることができた。消費者被害については、広報紙で周知を続けている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>成年後見制度や日常生活自立支援事業の相談が増え、それに伴い司法書士や千葉市成年後見支援センターに声をかけることが増えたが、これまでのつながりがあったことでスムーズに連携ができた。制度の周知活動はできなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・今後も支援当初から関係機関との連携がスムーズに運ぶよう、日ごろから意見交換等をまめに行っておく。実際の支援にあたっては、チームケアを原則とし、本人だけでなく家族への支援も行う。
・ICTを活用した連携のあり方を、関係機関と検討する。
・消費者被害を未然に防ぐため、広報紙を活用した注意喚起を継続する。</td></tr>
</table>

5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域ケアマネ連絡会をオンライン開催し、訪問看護ステーションとの連携強化を図った。他あんしんと合同で事例検討会を開催した。 ・在宅医療・介護連携支援センターに協力を仰ぎ、区内介護支援専門員を対象としたミニ講座を開催した。 ・新設された「委託連携加算」の説明などをきっかけに、ケアマネジメントの流れや必要な作業について、改めて周知した。		
後期	具体的な取り組み状況	・オンラインで開催した圏域ケアマネ連絡会で、訪問介護事業所との情報交換を行った。 ・あんしん鎌取と合同で、事例検討会を開催している。前期の事例をきっかけに、ハラスメントに関する講演会を、２月に開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	圏域のケアマネ連絡会や事例検討会をオンラインで開催することに、こちらも居宅も慣れてきたので、毎回スムーズに進行ができている。オンラインでの参加ができない事業所には、アンケートや資料を送るなどしてフォローもできている。だた誉田あんしんネットワーク会議に医療職を加えることは、感染予防のため人数制限をしたことで、実現できなかった。
	次年度に向けた展望	・第２層生活支援コーディネーターの協力を得て、地域の介護支援専門員が、インフォーマルサポートをケアプランに取り入れるために必要なことについて検討し、実践する。 ・日頃の活動、最近では特にコロナ禍での居宅介護支援について、アンケートをとったり、オンラインで情報交換をする場を作り、有用な情報を共有できる環境を作る。 ・医療職を交えた事例検討会などを、オンラインなどで開催する。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	・当センターと担当介護支援専門員で個別ケース会議を開き支援について検討し、民生委員や司法書士に協力を仰ぎ、解決に当たった。しかし「地域ケア会議」という形をとることはできなかった。 ・誉田あんしんネットワーク会議は参集型・書面型でそれぞれ１回開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・誉田あんしんネットワーク会議は参集型・書面開催型、それぞれ１回ずつ行えた。 ・経済的課題を抱えるケースについて、生活自立・仕事相談センターと支援にあたり、１ケースは個別ケース会議を開催し、他１ケースも開催の予定である。残り１ケースは経過が長く、現在は定期的な声かけを行っている。 ・圏域の多職種連携会議を、社会福祉士と第２層生活支援コーディネーターが中心となり企画、開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	コロナ禍ということもあり、個別ケース会議やそこから抽出された課題を話合う地域課題解決に向けた会議が開けなかった。一方で、経済的課題をもつケースに対して、迅速に関係機関と連携をとり支援を始めることができた。また多職種連携会議の開催では、関係機関からの協力を得て開催、好評を得た。自立に向けた地域ケア会議では、課題解決の糸口をみつけることができた。
	次年度に向けた展望	・個別ケース会議や自立促進ケア会議（千葉市主催以外）を開催する。 ・地域課題解決に向けた地域ケア会議と多職種連携会議（圏域・緑区）をそれぞれ年１回開催する。 ・誉田あんしんネットワーク会議の開催を隔月で予定し、参集型が難しい場合でも中止とはせず、書面で開催する。		
7　一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・ほんだ貯筋倶楽部を４回開催した。感染予防対策を取り、短時間での開催としたが、参加者からは「また来たい」との声をいただいた。活動を休止している間、介護予防のパンフレット等を配布し、健康意識を高める活動をした。 ・第２層生活支援コーディネーターと共に老人会や自治会でのミニ講座や健康測定会の開催について検討を重ねたが、感染症拡大が止まらず、全て中止となった。ただ開催はできなかったが、予定していたテーマに沿ったパンフレットなどを配布した。		
後期	具体的な取り組み状況	ほんだ貯筋倶楽部は緑区健康課、緑いきいきプラザと連携し２回開催できた。感染拡大のため休止中は、介護予防のパンフレットなどを郵送し、健康意識を高める活動をした。第２層生活支援コーディネーターとシニアリーダー体操、サロン各二か所ずつ訪問し、いきいき活動手帳の配布や介護予防普及啓発を行った。自主グループの活動紹介を広報紙で行い、圏域の自治会等に周知した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	ほんだ貯筋倶楽部の教室開催は参加者の唯一の居場所になった。また第２層生活支援コーディネーターとサロンやシニアリーダー教室に訪問し、いきいき活動手帳の配布、説明を行い、セルフケアができるように支援することができた。自主グループの活動紹介を広報紙に掲載し、地域に普及啓発することができた。
	次年度に向けた展望	感染症の状況をみながら、長寿会や自治会へ健康測定会等を企画し、地域住民に自分の健康度の把握や健康意識の向上を働きかける。第２層生活支援コーディネーターと共に、サロンやシニアリーダー教室を訪問して、地域住民の介護予防普及啓発を促進していきたい。		

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター土気</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">①高齢化率が高い地域については関係機関や地域の関係者との連携を強化し、地域課題の検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、集いの場等地域の拠点づくりの支援を行う。
②高齢化率が比較的低い地区では地域へ出向き、センターの周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を積極的に行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">①高齢化率が高い地域については関係機関や地域の関係者との連携を強化し、地域課題の検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、集いの場等地域の拠点づくりの支援を行う。
②高齢化率が比較的低い地区では地域へ出向き、センターの周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を積極的に行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・見守り活動や支え合い活動を行う住民主体の団体が開催する会議への参加、地域住民との交流から、地域資源や活動サークル等の通いの場について、情報収集と発信を行った。
・生活支援コーディネーターや地域ボランティアと連携し、高津戸町の寺院を借りて実施するサロンの活動再開に向けた意見交換や準備を行った。
・葬儀社のフロアを借りて実施する体操サークル（通いの場）の立ち上げ支援を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・見守り活動や支え合い活動を行う住民主体の団体が開催する会議への参加、地域住民との交流から、地域資源や活動サークル等の通いの場について、情報収集と発信を行った。
・生活支援コーディネーターや地域ボランティアと連携し、高津戸町の寺院を借りて実施するサロンの運営の継続支援を行った。
・葬儀社のフロアを借りて実施する体操サークルの立ち上げ及び運営継続の支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・見守り活動や支え合い活動を行う住民主体の団体が開催する会議へ参加し、地域の情報収集と発信を行なうことができた。
・高津戸町の寺で実施するサロン開催の運営支援や葬儀社のフロアを借りて実施する体操サークル（通いの場）等の立ち上げ支援を行うことができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・地域の関係者や生活支援コーディネーター等と連携協働し、住民主体の通いの場（活動サークル、地域のサロン等）が継続できるよう活動の支援を行う。
・高津戸町の寺院で行っているサロンは今後自治会館で行うこととなる為、活動の支援を継続して行う。
・葬儀社と連携を図り、体操サークルの支援を継続し、介護予防活動に取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・医療機関や訪問看護ステーション、介護サービス事業所等との連携を意識し、医療介護資源の情報収集を行い、高齢者の相談支援に生かすことができた。
・多職種連携会議については区域、圏域共に開催できていない。
・９月に在宅医療・介護連携支援センター、生活自立仕事相談センター緑と連携し、区内の介護支援専門員を対象にオンライン研修会（それぞれの機関の役割や活動内容の説明）を企画した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・相談支援の過程で医療機関や訪問看護ステーション、介護サービス事業所等との連携を意識し、医療介護資源の情報収集を行い、様々な事例の相談支援に生かすことができた。
・９月、２月に在宅医療・介護連携支援センターを通じ、生活自立仕事相談センター緑、権利擁護センターの弁護士と連携し、区内の介護支援専門員を対象にオンライン研修会を企画、実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・多職種連携会議の実施はできていないが、在宅医療・介護連携支援センターと連携し、介護支援専門員を対象とした研修会を実施できた。
・総合相談支援や介護予防ケアマネジメント業務を通じて、在宅医療に関わる訪問診療医や訪問看護ステーション、薬剤師等と連携を図ることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・在宅医療介護連携の促進を図る為、医療機関や訪問看護ステーション、介護専門職との事例検討会や多職種連携会議についてオンライン会議も含め実施できるようにする。
・個別ケース対応を通じて、医療機関や訪問看護ステーション、介護サービス事業所等との連携し、体制づくりを行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①認知症サポーター養成講座及び認知症SOS声掛け訓練について、実施できなかった。
②「カフェたんぽぽ」について、コロナの影響で再開に至っていないが、ボランティアとの打ち合わせを重ねる等、活動再開に向けた支援を行った。
③認知症の疑いがあるが医療に繋がっていないケースについて、認知症サポート医や認知症初期集中支援チームと連携し、医療機関への受診や入院、介護サービスの導入につなげることができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①認知症サポーター養成講座及び認知症SOS声掛け訓練について感染症拡大もあり、実施できなかった。
②「カフェたんぽぽ」について活動再開したが、年明けより再び活動休止となり、活動再開に向けた支援を行った。
③認知症の疑いがあるが医療に繋がっていないケースについて、認知症サポート医や認知症初期集中支援チームと連携し、医療機関への受診や介護サービスの導入につなげることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症に関する相談に対し、認知症サポート医や医療機関、認知症初期集中支援チーム等の関係機関と連携し、医療や介護サービスの利用につなげることができた為。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症サポーター養成講座について感染予防対策等を考慮し、実施できるよう工夫する。
・「カフェたんぽぽ」について感染状況を見ながら活動が継続できるよう支援する。
・認知症が疑われ、支援を要する方に対して、医療機関や認知症サポート医、認知症初期集中支援チームとの連携を継続し、早期に医療や介護サービスに繋げられるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①利用者に対してアセスメントを実施し、個々のニーズに合わせた住民主体の通いの場や地域のインフォーマルサービス等の情報提供を行い、ケアマネジメントを実施することができた。
②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の情報収集を行い、利用者や地域の介護支援専門員に対し、情報発信を行った。
③業務委託しているケースについて、進捗管理やプランチェックを実施することができた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①利用者に対してアセスメントを実施し、個々のニーズに合わせた住民主体の通いの場や地域のインフォーマルサービス等の情報提供を行い、ケアマネジメントを実施することができた。
②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の情報収集を行い、利用者や介護支援専門員に対し、情報発信を行った。
③業務委託しているケースについて、進捗管理やプランチェックを実施することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>A</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・個々のアセスメントを的確に行い、通いの場やインフォーマルサービス等、利用者のニーズに合わせたケアマネジメントを実施できた為。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・アセスメントにより通いの場や地域のインフォーマルサービス等、利用者のニーズに合わせたサービスを選択できるよう情報提供し、ケアマネジメントを実施する。
・生活支援コーディネーター等と連携を図り、地域資源の情報収集を行い、利用者や介護支援専門員に対し、情報発信する。
・業務委託しているケースについて進捗管理やケアプランチェック等を適切に行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合相談について、センター内会議でケースを共有し、緊急性の判断や支援方針等を検討しチームで対応した。
②高齢者だけでなく、その家族に関する課題も含め、世帯全体を包括的に支援できるよう関係機関と連携し対応した。必要に応じて個別ケース会議や地域ケア会議を実施し、課題解決に向けて取り組むことができた。
③民生委員の会合４か所に参加し、地区の高齢化に関する統計や相談実績、相談傾向等を提示し、連携体制づくりを行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合相談について、センター内会議でケースを共有し、緊急性の判断や支援方針等を検討しチームで対応した。
②高齢者だけでなく、その家族に関する課題も含め、世帯全体を包括的に支援できるよう関係機関と連携し対応した。困難事例に関して、個別ケース会議や地域ケア会議を実施し、課題解決に向けて取り組んだ。
③民生委員の会合４か所に参加し、高齢化に関する統計や相談実績、傾向等を提示し、連携体制づくりを行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・多種多様な相談に対して、センター内で情報共有し、関係機関と連携を図り対応することができた。
・高齢者だけでなく、その家族も含めた包括的支援を行うことができたため。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・相談事例についてセンター内での情報共有を継続して行い、緊急性の判断や支援方針、終結を検討する等、チームアプローチを行っていく。
・各相談支援機関と連携会議を行い、互いの役割について理解し、相談内容に応じて連携を図り、制度横断的に対応する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①高齢者虐待の相談について、区高齢障害支援課と情報共有を図り、事実確認やケース会議により緊急性を判断し、介護支援専門員等の関係機関と連携し対応した。
②権利擁護が必要なケースについて区高齢障害支援課や弁護士、司法書士等の専門職と連携し、成年後見制度利用に繋げることができた。
③民生委員や地域の関係者に対し、権利擁護制度や権利擁護が必要な高齢者を発見した際の早期相談の必要性について啓発を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①高齢者虐待の相談について、区高齢障害支援課と情報共有を図り、事実確認やケース会議により緊急性を判断し、介護支援専門員等の関係機関と連携し対応した。
②権利擁護が必要な方について区高齢障害支援課や弁護士、司法書士等と連携し、成年後見制度利用に繋げることができた。
③民生委員や地域の関係者に対し、権利擁護制度が必要な高齢者を発見した際の早期相談の必要性について啓発を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・虐待相談に対し、高齢障害支援課等関係機関と連携し対応をすることができた。
・成年後見制度や日常生活自立支援事業が必要と判断したケースについて、専門職と連携し制度利用に繋げることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・高齢者虐待防止、成年後見制度利用支援、消費者被害防止に関して、地域の関係者への周知、啓発活動を継続して行う。権利擁護に関する相談があった際は、各関係機関と連携を図り、必要な権利擁護制度に繋げていく。</td></tr>
</table>

5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①支援困難事例に関する介護支援専門員からの相談に対し、感染対策を講じて同行訪問や相談支援を行った。 ②地域の介護支援専門員に対して、オンラインによる勉強会や事例検討会を開催した。Zoomの操作スキルを習得してもらうため、勉強会を開催し、オンラインが不得意な介護支援専門員に対しては事業所への戸別訪問により、レクチャーした。 ③Zoomのブレイクアウトルームや投票などの機能を活用し、オンラインでグループワークを行えるように工夫し、研修会や事例検討会を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①支援困難事例に関する介護支援専門員からの相談に対し、感染対策を講じて同行訪問やケース会議を行った。 ②地域の介護支援専門員に対して、オンラインによる勉強会や事例検討会を開催した。Zoomの操作スキルを習得してもらうため、勉強会を開催し、オンラインが不得意な介護支援専門員に対しては事業所への戸別訪問により、レクチャーした。 ③Zoomのブレイクアウトルームや投票などの機能を活用し、グループワークができるよう工夫し、研修会や事例検討会を行った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・圏域の介護支援専門員がグループワークができるようなZoomのスキルを習得でき、圏域の全居宅介護支援事業所が研修会や事例検討会に参加できている。 ・介護支援専門員からの困難事例に関する相談に対し、個別ケース会議や地域ケア会議を行い、地域の関係者を含め、情報共有や支援の検討を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・圏域の民生委員と介護支援専門員との意見交換会が３年前から台風やコロナで中止となっている。今年度、圏域介護支援専門員がZoomのスキルを習得できた為、次年度は民生委員と顔の見える関係を作れるよう、Zoomを活用し、意見交換ができるように調整していきたい。 ・引き続き感染予防を講じつつ、困難事例等について介護支援専門員への後方支援を行っていく。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員から相談された困難事例２事例について、対象者と関わる地域の薬局や生活自立仕事相談センター、高齢障害支援課等と会議を実施し、情報共有と個別課題解決に向け検討を行った。 ②地域課題検討の為の地域ケア会議を１度実施した。地域の高齢化に関する統計資料や相談実績、相談傾向について民生委員、社協地区部会、自治会関係者、行政等へ提示し、地域課題の共有と検討を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員から相談を受けた困難事例２事例について、対象者と関わる地域の薬局や生活自立仕事相談センター、高齢障害支援課等と会議を実施し、情報共有と個別課題解決に向け検討を行った。 ②地域課題検討の為の地域ケア会議を３度実施した。地域の高齢化に関する統計資料や相談実績、傾向について民生委員、社協地区部会、自治会関係者、行政等へ提示し、地域課題の共有と検討を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・感染予防の為、対面での会議が制限され、地域課題検討の為の会議は４度のみの実施となったが、関係者間で情報共有を図ることができた。 ・個別ケースの地域ケア会議はタイムリーに実施することができた。 ・警察、金融機関との地域ケア会議について実施できなかった。
	次年度に向けた展望	・感染症の状況を見ながら、地域課題検討の為の地域ケア会議を開催する。 ・警察及び金融機関と認知症高齢者への対応の課題や必要な連携についての地域ケア会議開催を計画、実施する。		
7　一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	①地域の葬儀社から地域貢献のための活動を検討しているという話があり、友引の日に会場を借りられることになった。緑区健康課とも協働し千葉市いきいき体操を行うサークルの立ち上げ支援を行った。6月末から開始できたが8～9月は緊急事態宣言のため休止となった。 ②土気いきいきセンターを利用した運動教室は会場の利用人数に合わせて参加できる仕組みを作る事で、緊急事態宣言中も継続できた。休止中の活動は適宜連絡を行い状況把握している。		
後期	具体的な取り組み状況	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、会場に合わせて参加人数を制限しそれに伴うメンバー構成等参加者と共に調整を行い実施できた。葬儀場を会場とした新たな住民集いの場（ともびきクラブ）の立ち上げできた。 ・介護予防普及啓発のため、千葉市いきいき活動手帳の配布をサロンを中心に行った。サロンで手帳を継続して活用して頂けるよう、ボランティアに対して手帳の内容や活用の主旨について説明を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・コロナ禍でもできる方法を検討し、感染対策をボランティア等とも確認しながら継続ができた活動もあった。 ・生活支援コーディネーター、緑区健康課と協同し新たな住民集いの場の立ち上げができた。 ・千葉市いきいき活動手帳１５０冊配布し、啓発が図れた。
	次年度に向けた展望	・引き続きコロナ対策を行いながら活動ができるよう後方支援していく。 ・サロンを中心に千葉市いきいき活動手帳の説明・配布を行う（７サロンへの訪問を計画中） ・千葉地域リハビリテーション広域支援センターと連携してサロンや地域活動の場への訪問を計画する。 ・生活支援コーディネーターと協力しながら地域ニーズを掘り下げ、新たな資源の発掘や立ち上げを検討していく。		

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター真砂
担当圏域 地区課題	・独居・高齢世帯からの相談が増加。（令和2年度世帯別相談割合　独居高齢者　44.4%　高齢世帯　28.5%　同居　24.4%　その他　2.7%） ・認知症、精神、知的障害など多問題を抱える世帯が増え、成年後見制度への繋ぎが必要な方が急増。（前年比37.0%増） ・障害の制度や法的な問題に対しての専門職や支援者のサポートが不足している。 ・近隣との交流・見守り体制が希薄、相談・支援先を知らないことで問題が潜在化、事態の重症化を招き易い。 ・エレベーターのない低中層住宅がおよそ80棟あり、居住する高齢者の閉じこもりや外出困難が問題となっている。
活動方針 （総合）	・地域課題を住民へ伝え,見守りの意識を高める。住民の通報により支援が必要な高齢者が早期に発見され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合相談支援、権利擁護、介護予防ケアマネジメントなど適切な支援につなげる。 ・地域包括ケアシステムの推進に向けて、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、生活支援コーディネーターとの連携により地域住民や関係機関・団体とのネットワーク構築を図る。 ・在宅医療と介護、障害の情報収集に努め、複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。 ・普及啓発や連携会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う。

1　地域包括ケアシステムの構築

（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進

前期	具体的な取り組み状況	①千葉市の生活支援サイト、コロナ禍で再開している住民活動を総合相談支援及び介護予防普及啓発活動の場面で住民に向けて情報提供を行った。 ②ささえあいまさご定例会、真砂第3公園ラジオ体操、県すみれ会体操、東建折り紙の会、マリンタウン体操会（いきいき・シニアリーダー）、ふれあい会、シニアリーダー美浜区会長との意見交換、検見川ハイム体操会、ガーデン体操会へ参加し、見守り活動の重要性、活動への助言を行う。再開できない団体に対しても、現状を把握したうえで、再開に向けた助言を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①いきいき活動手帳の活用方法について、10/1-10/8（10回58名）真砂いきいきセンター「生きがい活動講座」のほか、12/1脳トレ美浜会（30名）において説明を行い、同手帳を参加者へ配布した。10/13当センターの保健師・看護師が手帳の活用研修に参加しているものの基本チェックリストの実施について、実施対象者が曖昧で十分な実施には至っていない。 ②-1　ささえあいまさご定例会に12/3、1/7に参加。担い手の不足及び今後の事務局の体制について話し合う。 ②-2　新型コロナウイルス感染拡大の為、マリンタウン体操会が1月から休止、ぐるり体操会（SL体操）11月に再開するも、2月より休止、ガーデン体操会は1月19日再開予定であったが、再開延期となった。イオン、コスタリゾン体操会の代替として新たに保健センターでSL体操会の立ち上げについて助言。 ③生活支援コーディネーターの配置なし。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・コロナウイルス感染拡大防止に関する相談助言及び活動再開に向けた支援及び活動参加などへの支援、「生きがい活動手帳」の普及啓発と生活支援、介護予防サービスの基盤整備の促進について取り組むことができた。2層生活支援コーディネーターの配置は出来ていないものの、次年度の採用計画に引き続き取り組むことから、B評価とした。
	次年度に向けた展望	・配布した生きがい活動手帳について評価並びに活用についての検討を行い、更に普及啓発を図る。 ・総合相談における基本チェックリスト実施対象者について、本人のニーズが見え難い方や介護申請希望であるが対象外と思われる方に絞り込み、次年度は積極的に実施する。 ・相談室にいきいき活動手帳、基本チェックリストを設置して取組みやすい環境をつくる。 ・2層生活支援コーディネーター採用。		

（2）在宅医療・介護連携の推進

前期	具体的な取り組み状況	①9/1美浜区ケアマネ連絡会で「カスタマーハラスメント」研修を在宅医療・介護連携支援センター、美浜区あんしん4センターで連携し開催した。 ②幕張総合高校看護学科実習の施設見学に協力し、あんしんケアセンターや在宅高齢者の医療・介護の連携について説明を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①-1　1/26　美浜区多職種連携会議「カスタマーハラスメント」を開催。真砂の専門職全員が参加し、GWのファシリテーターを積極的に務める。 ①-2　真砂圏域CM連絡会をオンラインで2/15に開催。URの生活支援アドバイザー、障害者基幹相談支援センターなどの新しい社会資源について共有したほか、地域の課題について意見交換を行った。オンライン実施にあたり、在宅医療介護連携支援センターに技術的な助言や協力を得ながら開催した。2/20に千葉県脳卒中連携の会、医師分科会の多職種カンファレンスに参加。コロナ克服への連携をテーマに話し合いを行う。 ②後期は実習協力依頼は無し。東都大学から月1回程度、真砂いきいきセンターからの依頼を受け、地域関係機関との連携について見学協力を行う。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・コロナ禍での医療・介護連携として宅医療介護連携支援センターから助言やサポートを受け、WEB会議を開催、ケアマネジャーや医療機関との意見交換、今後の連携の確認を行うことができた。また、民間企業、障害支援機関、県医師会を通じて、様々な医療機関や関係機関との繋がりを持つことができた為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	・今年度同様に、ICTを活用した医療関係者、ケアマネジャーや介護サービス事業者との連携会議、研修、事例検討会を開催する。 ・コロナ禍、感染拡大防止に最大限の注意を払い、医療・介護・福祉関連の学生及び従業者の方々の実習協力を積極的に行う。 ・在宅医療と介護、障害の制度やサービス等の情報収集に努め、複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。		

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①5/7千葉市立海浜病院の新人看護師及びコメディカルに対し、認知症サポーター養成講座を開催した（30名）。②認知症地域支援推進員活動として、7/30「認知症サポーターステップアップ講座」を美浜区で社会福祉協議会と連携し実施した（12名）。③美浜区認知症初期集中支援チームの定例会に参加し、事例検討を行う。支援困難な認知症高齢者支援での協働実績は無し。</td></tr>
<tr><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症サポーター養成講座、認知症サポーター養成講座受講者対象のステップアップ講座を開催できたこと、認知症初期集中支援チームの活用の効果を取り組みをとおし実感できた等の成果より、B評価とした。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①10月に真砂東小、11月に真砂西小の５・６年生へ、1月に美浜文化ホールで認知症サポーター養成講座を開催。
新たに専門職1名がキャラバンメイト養成研修を受講。
②認サポステップアップ講座を、当区を筆頭に市内5区で開催。緑、稲毛区で講師を担当すると共に、事業評価と課題をまとめた。
③認知症初期集中支援チーム（以下、支援チームと示す）の定例会に専門職が交代で参加。1月の定例会では真砂圏域の支援困難事例について検討した。支援チームの活用が認知症患者が住み慣れた地域で生活する為の環境整備の他、実際の支援において効果的であることを実感した。2/17若年性認知症支援セミナー看護師1名、社会福祉士1名参加。2/26認知症疾患医療センター研修会に社会福祉士1名、保健師1名が参加。3/16認知症地域支援推進員研修に主任介護支援専門員1名参加。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・認知症サポーター養成講座、認知症サポーター養成講座受講者対象のステップアップ講座を開催できたこと、認知症初期集中支援チームの活用の効果を取り組みをとおし実感できた等の成果より、B評価とした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、様々な世代の地域住民、企業向けに認知症サポーター養成講座を開催する。
・認知症初期集中支援チーム定例会の参加及び支援困難な認知症高齢者の早期対応に協働で取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①指定介護予防支援、ケアマネジメントにおいて総合事業の他、民間やNPO法人の生活支援サービスを組み合わせてケアプランを作成、委託先のケアマネジャーに対しても幅広い主体からサービスを選択するように指導・助言を行う。
②総合相談支援においても①同様に対応する。美浜区1層の生活支援コーディネーターより民間小売り企業の訪問販売の取り組みについて情報を受け、必要な方へ情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①総合事業の他、民間やNPO法人の生活支援サービスを組み合わせてケアプランを作成、委託先のケアマネジャーに対しても幅広く、様々な主体からサービスを選択するように指導・助言を行う。
②11/29美浜区SC第1層協議体へ参加。美浜区の町内自治会関係者より、あんしんケアセンターの実情、地域課題について広く区民へ提供して欲しいとの要望を受け、3/1開催の区民対話会へのご推薦を頂いた。真砂地区地域運営委員会の定例会にて地域課題の共有、住民主体の場の重要性、介護保険サービス、千葉市総合事業の活用について説明を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・総合相談支援、ケアプラン作成において、幅広く、様々な主体からサービスを選択することを徹底し、委託先のケアマネジャーに対しても同様に助言・指導を行ったこと。1層の生活支援コーディネーターと共に地域課題の把握に取り組み、地域住民に対し、区民対話会、真砂地区地域運営委員会を通じ地域課題や住民主体の場の重要性、介護予防について普及啓発を行うことができた為、B評価とした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・千葉市総合事業の他、介護予防支援と一体的に実施すると共に、介護予防事業や住民主体のサービス、インフォーマルサービス等を活用し、地域住民のニーズに合わせたサービスを提案し利用に繋げる。サービス提案はケアプランに位置付けた事業所ごとの割合を確認し、公正中立を徹底する。
・住民主体の活動の場やインフォーマルサービスについて高齢者が地域活動に参加できるように、千葉市のサイト、生活支援コーディネーターのネットワークを活用し情報を提供する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①1及び2とも計画通り実施。多様な相談に対し、状況に応じて適切な支援に繋げている。2件の困難ケースに対し、地域ケア会議を開催した。
②総合相談の実績を毎月集計し千葉市へ報告。地域課題として、独居、高齢者世帯の増加に加え、外出困難になり易い環境により問題が潜在化及び関わる支援も長期化している。認知症、精神疾患等を原因とする8050問題や相続や成年後見制度の利用が必要なケースの増加が著しいことを把握している。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①-1及び①-2とも計画通り実施。多様な相談に対し、状況に応じて適切な支援に繋げている。うち２件の支援困難ケースに対し、地域ケア会議を開催した。後期はケアマネジャーへ84名の紹介（R3.10-R4.2月）を行ったが、ケアマネジャーへ紹介が困難なケースや状況が増えており、84件を紹介するために180件の依頼を掛ける必要があった。
②総合相談の実績を毎月集計し千葉市へ報告。次年度計画にあたり、総合相談の集計、分析を行い地域課題の再確認を行った。認知症、精神疾患等を原因とする8050問題、相続相談に伴い成年後見制度の利用が必要なケースの増加、司法や精神疾患への支援に対しての専門性が求められ、地域住民、あんしん専門職、他の支援者にもサポートが必要である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・ケース会議を細目に行うことで相談件数の増加に対応が出来ている。ケアマネジャーの紹介についても地域の居宅介護支援事業所とのネットワークにより必要な方すべてに紹介できた。精神疾患や認知症により判断能力が不十分な方の支援に際して、ご家族からの支援が期待できないケースについて、千葉市成年後見支援センターや弁護士など専門職にも相談しながら支援に取り組むことが出来た為、B評価とした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・新規及び変化のあるケースは朝礼で報告、情報共有を行う。緊急性の高いケースは随時支援方針を検討し、対応方針を決定する。困難ケースは地域ケア会議で情報の共有、支援方針、対応を協議する。
・保健福祉制度、地域活動や自費サービス等の情報提供、介護認定代行申請、介護支援専門員の紹介を行う。
・年に1回、総合相談支援の継続・終結確認及び実績を集計、地域の課題を把握する。なお、集計は、地域ごとから、内容別の集計に改める。過去5年間の内容別新規、延べ件数の推移を集計し、増加している相談内容の背景、課題を分析する。</td></tr>
</table>

4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①前期では虐待（DV被害、疑い含め）ケース12名に対し、行政や関係機関と連携し対応した。②8/30千葉県高齢者虐待防止研修に新入職の社会福祉士、保健師2名が参加。③千葉市消費生活センター、見守り情報（詐欺・悪質商法被害、対策）を自治会、自主グループ、ミニ講座参加者へ提供した。実際に被害に遭われた方からの相談や対応の実績は無し。		
後期	具体的な取り組み状況	①疑いも含め虐待・DV被害に対し、高齢障害支援課や警察、関係機関と連携し、適切な支援を行う。（R3.10-R4.2まで、新規5名、継続支援15名、高齢障害支援課との連携29回） ②11/24・12/6社会福祉士1名に苦情解決研修、1/19看護師、社会福祉士に高齢者虐待対応研修、2/17社会福祉士に高齢者虐待対応研修、2/20看護師・社会福祉士に市町村町申立て研修を計画し実施。 ③詐欺・悪質商法の手口や対策などを千葉西警察署、千葉市消費生活センターと連携し、委託先のケアマネジャーに対しFAX、2/15のCM連絡会、2/17地域運営委員会専門部会で情報提供及び注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・高齢者虐待（疑い）ケースへの対応を行政や警察、関係機関と連携し適切に支援を行うことができた。成年後見制度の利用支援・促進について千葉市成年後見支援センター、区高齢障害支援課、弁護士等の専門職に助言を得ながら進めることができていた。高齢者の権利擁護の普及啓発については参集の他、書面及びオンラインで行った。権利擁護に関する研修により、職員の資質向上に取り組めた。
	次年度に向けた展望	・専門職全てが、必ず1回は外部の虐待防止研修を受講。 ・関係者が高齢者虐待の認識を共有するコア会議の実施。 ・虐待事実確認チェックリストの作成。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①「真砂地区地域運営委員会」、「美浜区あんしん運営会議」、「支え合いのまち推進協（書面参加）」参加。8月から新たに美浜区基幹相談支援センター地域部会へ参加、8050問題などの意見交換を行う。 ②困難事例を担当する地域のケアマネジャーの相談（利用者37名）に応じ、必要に応じて同行訪問や関係機関とのケース会議の調整を行う。 ③9月に美浜区ケアマネ連絡会を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	①真砂地区地域運営委員会（3回）、専門部会安心、安全班（4回）参加。障害者基幹相談センター部会（2回）、美浜区1層協議体、ささえあいのまち推進協、美浜区あんしん運営会議、千葉市あんしん管理者会議、県脳卒中連携の会に参加し、地域の関係機関や団体とのネットワークの構築・連携を図る。 ②支援困難事例を担当するケアマネジャーへ同行訪問、ケース会議への参加などでケースに対し助言や指導を行った（3件）。 ③2/15にオンラインで真砂圏域ケアマネジャー連絡会を開催し、地域課題及び新しい社会資源の共有、ゴミ捨てや階段昇降などの支援について意見交換を行った。また要支援者のケアプランについての指導助言により、ニーズ把握及び資質向上を図った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・地域住民、ケアマネジャーや関係機関との連携会議の機会を多く持つことで、地域のネットワーク構築に取り組むことができた。支援困難ケースを抱えるケアマネジャーへの同行訪問、後任ケアマネジャーの手配、またオンラインによる真砂圏域のケアマネ連絡会の開催により、地域のケアマネジャーへのニーズ把握、資質向上、ケアマネジメントのサポートを行うことができた為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	・高齢者への適切な支援のため、地域の関係機関や団体とのネットワークの構築・連携を図り、支援環境の整備を進める。 ・介護支援専門員に対し、支援困難事例への助言、指導を行う。 ・真砂圏域のケアマネ連絡会及び美浜区の主任介護支援専門員連絡会を開催し、介護支援専門員のニーズ把握、資質の向上に取り組む。		
6　地域ケア会議				
前期	具体的な取り組み状況	①-1支援困難事例2名に対し、計3回の地域ケア会議を開催し、課題の共有と役割分担の確認を行った。 ①-2前期、千葉市の自立促進ケア会議の計画なし。 ①-3生活援助型訪問サービスの検証について対象ケース無し。 ①-4地域課題の共有、ネットワーク構築のケア会議は3回、専門部会準備会として4回実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	①-1　認知症、精神疾患に関する事例２件で開催。 ①-2千葉市自立促進ケア会議へ保健師・社会福祉士が傍聴参加。 ①-3対象事例なし。 ①-4　地域住民と「暮らしの安心安全部会」を立上げ、会議を４回開催。交通安全、子供や高齢者の見守りについて、警察との連携や支援先情報の提供方法など検討中。真砂地区地域運営委員会へ報告し、地域の取り組みに繋げることを目標に活動を次年度も継続。美浜区あんしん4センターの共催で1/26に「カスタマーハラスメント」をテーマに美浜区多職種連携会議を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・生活援助型中心型サービスの検証は対象事例が無かったが、定例及び必要に応じて開催することができた。医療介護福祉の関係者だけではなく、地域住民も含めた会議の開催が定期的に行えるようになり、地域の課題やあんしんケアセンターの普及啓発に効果を上げている為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	・地域ケア会議を千葉市の要綱に基づき「個別事例の検討」「自立支援強化」「生活援助中心型サービスの検証」「地域課題の分析及び解決」に分け、地域の状況に合わせて開催する。		

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①体操会などの開催はコロナ禍で実施できず。真砂いきいきセンターの生きがい活動講座で「熱中症予防・あんしんケアセンター・介護予防」をテーマに8/17-8/25で計10回開催。
②コロナ禍でも活動している5団体について、活動支援を行う（15回）。他5団体の状況を確認、内2団体は活動中であったが、茶話会のため参加は保留。残りの2団体は再開見通し未定。1団体は11月頃、世話人で再開の話合いを行うこととなった。美浜区のシニアリーダー会長と区内、真砂の状況を確認、真砂は活動無し。美浜区内では半分程度の活動であることを把握した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①あんしんケアセンター主催による体操会の開催は新型コロナウイルス感染拡大で実施できず。介護予防のセルフケアの取り組みとして真砂いきいきセンターの生きがい活動講座で「いきいき活動手帳」の説明と手帳の配布を行う。更に参加者の口コミで、脳トレの自主グループから希望により「生きがい活動手帳」の説明、配布を行った。
②介護予防活動支援について活動中の自主グループ7団体の支援を行う。活動休止中の自主グループに対しては、引き続き状況の確認と相談助言を行っている。休止団体の代替として、新たな体操会立上を美浜区シニアリーダー会長からの情報により把握し、活動に参加した。またラジオ体操での繋がりから、当センターへ近隣保育所からも地域の方との関係を作りたいとの意向が寄せられた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・再開した自主グループへの活動支援の他、再開できない団体に対して現状の把握と団体への助言を行い、住民のモチベーションの維持に取組ことができた。地域ケア会議で生活支援コーディネーターと地域課題について意見交換する機会を持った。生きがい活動手帳の説明、配布ができた。次年度は手帳の活用について配布先に評価を行う計画あり、継続した介護予防の取り組みが行えた為、B評価とした。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の為、保健福祉センター等との連携を強化する。
・真砂だよりの発行により健康づくりや介護予防の取り組み、あんしんケアセンターの活動内容の理解を深める。
・基本チェックリスト実施、いきいき活動手帳を配布によるセルフケアの促進。</td></tr>
</table>

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td>センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター磯辺</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">地域により高齢化率や地域特性に大きな差がある。
医療機関、介護事業所などの社会資源や高齢者が歩いて行ける範囲の商店なども少なく、またエレベーターのない中層団地が多く、高齢者の外出の機会が減っている。
高齢化率が高い地域は8050問題や複合的課題を抱えたケースの増加がみられる。一方で生活支援にニーズのある人と担い手になる人の効果的なマッチングも課題となっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会等との連携を深め協働して取り組む。
また、関係機関との連携を取りながら地域での住民主体となれる活動の促進を図る。
地域ケア会議を実施し、地域課題を明確にし、関係機関と共有する。□</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・海浜幕張コーポでは見守り会や防災班と協力し全世帯へアンケート調査を実施した。
・高浜５丁目は住民主体の支え合い活動に向けて話し合いを行った。
・絆カフェには生活支援コーディネーターが週２回参加し、通いの場の維持に繋がった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">再開支援をしたが、再度蔓延防止となり中止を強いられた。
再開支援にあたっては、感染予防のパンフレットを使用して、住民に安心してもらえるようにした。
高浜５丁目、海浜幕張コーポ、打瀬４番街、絆カフェ等には継続した関わりを持った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">活動支援は積極的に行っていき、それぞれの課題は見えてみたが、分析までには至らなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・高浜５丁目、打瀬４番街の支え合い活動の構築を目指す。
・海浜幕張コーポは再度話し合いの場を設ける。
・絆カフェは地域の相談の場になっており、今後も活用できるように支援する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・総合相談を集計し傾向が分かるようにした。
・美浜区連携の会でネットワークの充実と拡大を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">美浜区連携の会開催により医療介護連携の機会を提供することができた。
在宅医療介護連携支援センターとの連携がとれた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">地域の病院からの情報提供も、連携システムを使って発信することができた。
しかしコロナの影響により、対面での連携推進の場を作ることができず、会参加者に一体感を提供するには工夫が足りなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・個々のケースにおいて、機関同志がさらに連携を取りやすくなるように、顔が見える場を提供していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・住民主体の活動への助言や支援を行うことが出来た。
・認知症初期集中支援チームとの連携を図れた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">ほっとくるカフェを立ち上げ認知症の方の居場所づくりを行った。
キッズ認サポを3回実施した。
認知症初期集中支援チームとの連携を深めた。
認知症を考える会やそよ風の活動支援を実施した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>生活支援コーディネーターを中心に認知症への取り組みを活発に行えていた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チームの効果的な利用方法を考え、ケアマネを含めた普及啓発に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・生活支援サイトについて、ケアマネ連絡会等集まりや個別相談で情報提供した。
・「歩こう会」「ラジオ体操」他、住民の集まる場を1ヶ所新たに立ち上げ、リハパートナーの協力も得た。
・「食と健康の場」は2回開催したがコロナの緊急事態宣言中は中止となった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">支援の認定を受けサービスの利用が必要な方からの相談に対しては、総合事業が今後重度者へも提供が増えることを勘案し、住民主体のサービスやインフォーマルサービスの可能性を探り、利用につなげた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>ケアプランにインフォーマルサービスを位置づけることができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・総合事業の時点ではフォーマルサービスに偏らず、種々の制度や民間サービスを利用する。
・うたせの各自治会集会所の利用条件を確認し集約する</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・地域ケア会議等のケース会議では他機関と連携して検討することが出来た。
・不足している資源の予測は付いているが、根拠を明らかに出来なかった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">複合的課題のケースが増加し基幹センター等、他機関との連携をとっているが、継続支援の在り方に苦慮する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>他機関との連携姿勢はとっている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">適切な支援に結びつけるため、センター内でアセスメントの評価を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・総合相談で独居の方への「千葉市緊急通報システム」「安心カード」「後見の可能性」の確認を意識できるようになった。
・週２回のケース会議でも話し合いが出来た。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">独居の方への千葉市緊急通報システム、安心カードの支援は進んだ。
多職種と連絡を取る機会は増えているが、機関によっては時間を要する事があり連携しづらかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>消費者被害についての情報提供をする機会が足らなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">警察と協力して、消費者被害防止の啓発に努めていく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・個別の相談のほか、ケアマネ連絡会、事業所訪問などにより、ケアマネ支援を行った。
・地域ケア会議にケアマネに参加してもらうことにより、ケアマネのネットワーク構築を支援した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">個別ケースの相談は不定期だが、増えてきた。
地域ケア会議を活用して、ケアマネが多職種の意見を聞ける機会も用意できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>個別ケースでのケアマネ支援は増えてきているものの、ケアマネ連絡会など、集合形式の支援は十分ではなかった。
在宅医療介護連携支援センターの協力により開催できたものもある。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・ケアマネ連絡会などの開催は集合形式にとらわれず、WEBでのケアマネ支援に取り組む
・地域ケア会議を活用した、ケアマネ支援を継続する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・困難事例に関しては、比較的タイムリーに開催できた。
・個別の事例については、十分開催できたが、共通課題についての会議開催ができなかった。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">他機関を含めた圏域での多職種会議を行うことができた。
共通課題については取り組めなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>共通課題についての会議開催ができていない。
個別ケース（困難事例）は、タイムリーに実施できるようになった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">共通課題についての会議開催に取り組む</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナの影響を考慮し、屋内から屋外の活動へきりかえ、新しく「歩こう会」「ラジオ体操」を立ち上げた。
・自主体操グループに対し、アンケートを行い、継続の意思を確認できた。
・基本チェックリストは、行わなかった。
・活動を継続している所へは再度感染予防対策の確認、実施状況の確認をした。
・地域の支え合い活動についてのニーズを聞き取り、どのように進めていきたいか、住民と考える機会を持った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">薬局と共同して「ほっとくるカフェ」を新規に立ち上げることができた。（月2回）
前期に立ち上げたラジオ体操や歩こう会を支援している。
絆かふぇ（月と木）の活動は民生委員と協力し早期にアプローチが必要な人を支援する場になっている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>カフェの新規立ち上げなど成果を残す活動が出来た一方、コロナ禍で対面における普及啓発活動が思うようにできなかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・コロナ予防対策の正しい情報を発信しつつ、住民が主体的に活動できるような活動の場を新しく増やす。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名	千葉市あんしんケアセンター高洲
担当圏域 地区課題	１．独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンが不在であったり、遠距離に在住していることで医療面、認知面での問題に対し発見が遅くなり対応も困難となっている。 ２．集合住宅で占められている地域で他市、他県から移住してくる方が多く地域の資源が分からなかったり、コミュニティをうまく活用出来ないことで引きこもりになっている方が多い。 ３．サービス事業者、高齢者施設が少ないことで適切なサービスに結びつけていくことが遅くなる傾向がみられる。
活動方針 （総合）	・感染予防が必要とされる中,総合相談の支援、関係機関との会議、介護予防等安全かつ有効に実施していく。 ・生活支援コーディネーターとの連携を図り改めて地域資源の調査に努め、情報を住民に提供していく事で介護予防の促進に努めていく。 ・昨年度の事務所の移転により来苑者や相談件数が増加している中、地域の中核として積極的な普及啓発に努めていく。

1　地域包括ケアシステムの構築

（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進

前期	具体的な取り組み状況	・住民の抱える問題の解決に向けて、コロナ、介護予防、消費者被害、地域資源等の情報を随時センター建物内に掲示し普及啓発に努めた。 ・関係機関との連携強化を目指し、予防リーフレットの設置並びに各機関の活動状況の確認を、生活支援コーディネーターとの協働にて進めた。 ・総合相談への活用を目指し、地域資源を記した冊子の見直しを行い民生委員に配布した。		
後期	具体的な取り組み状況	・住民の抱える問題の解決に向けて、コロナ、介護予防、消費者被害、地域資源等の情報を、随時センター建物内に掲示し普及啓発に努めた。 ・関係機関との連携強化を目指し、生活支援コーディネーターとの協働により、各機関の活動状況の確認と住民に配布できるよう予防リーフレットに関する調整を進め設置することが出来た。 ・地域資源を記載している冊子の見直しを行い民生委員に配布した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	随時生活支援コーディネーターと情報共有しながら地域の動きを確認していたものの、総合相談が多い為把握しきれなかった。
年度総括	次年度に向けた展望	・各地区の民生委員の会議に出席し地域の情報や課題、資源を確認する。 ・生活支援コーディネーターが収集した地域情報や、研修で得た知識の報告を受け、センタースタッフの質の向上を図る。 ・掲示板や各機関に設置しているリーフレットを用い、介護予防に関する情報を地域に提供する。		

（2）在宅医療・介護連携の推進

前期	具体的な取り組み状況	・コロナワクチンの接種時期ということもあり、問い合わせや苦情が多かった中で柔軟な対応を行った。 ・在宅医療・介護連携支援センター、区あんしんケアセンターと連携を図りケアマネ連絡会をオンラインで実施した。 ・圏域には独居世帯で受診支援を必要とする事案が多く、適宜医療機関への相談、連絡調整を行った。また介護保険、施設入所、サービス、後見等に関しても随時医療機関に相談し連携強化に取り組んだ。		
後期	具体的な取り組み状況	・カスタマーハラスメントを題材とした美浜区多職種連携会議に参加し、顔の見える関係づくりを築けた。 ・認定看護管理者の実習を引き受け、医療職へ、地域包括の業務や医療機関との連携の在り方などを説明した。 ・キーパーソン不在の相談者が多い。その為、あんしん職員が医療機関に出向き、介護保険、施設入所、認知症、後見制度の利用等に関する問題へ取組む機会が増え、その活動により医療機関をはじめとする関係機関との連携に繋がった。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	コロナ禍により、体調不良者や心身のレベル低下者等による相談が多くなり、問題の早期解決のため、医療機関、介護サービス事業者、介護施設等と連携を図り、支援することができた。
年度総括	次年度に向けた展望	・区内、圏域内の多職種連携会議を開催する。 ・医療、福祉関連の従事者の実習を受け入れ連携を目指していく。 ・事案の問題解決に向けて、関りの根拠を示しながら、関係機関へ必要な連携を図っていく。		

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期チームの定例会に出席し、圏域のケース確認を随時行った。 ・
キッズサポーター講座の開催した。(３回講演　７月１３日　)
・認知症推進員事業において２つの班（医療班、認知症カフェ班）での活動に班員として参加した。
・後見制度活用において後見人、行政、医療機関との連携を図ることが出来た。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・認知症初期集中支援チーム定例会に出席し、意見交換や情報共有を行った。
・美浜区内の小学校を対象にキッズ認知症サポーター講座を開催した。
・認知症地域支援推委員として医療介護連携班、認知症カフェ班の活動に参加した。
・認知症高齢者の行方不明における情報提供書確認後、積極的に状況確認を行い支援にあたった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍により住民や関係機関に対し講座や周知活動を行うことが難しかったが、公共機関内にリーフレットを設置したり、掲示板の利用、介護支援専門員への配布等予防普及啓発を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・キッズ認知症サポーター講座の開催は区との話し合いで今後の方針を決めていく。
・認知症初期集中支援チームの定例会に参加し、事例選定においては随時センター内で検討していく。
・関係機関と横のつながりをもつことで認知症の方の早期発見、早期対応に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・コロナ禍により心身ともに予防が必要な方への情報提供を行った。
・社会資源の活動状況の確認及び発掘に努めた。
・介護予防支援における委託ケアマネージャーに対しての公正中立を図った。
・委託ケアマネージャーに対しての相談対応を随時行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・介護支援専門員と生活支援コーディネーターとの顔合わせの機会をもうけ、生活支援サイトや地域資源等の情報共有を行った。
・UR高洲第２団地において福祉用具の展示会を行い相談対応を行った。
・高浜のラジオ体操に参加している中、参加者からの相談が出始め、柔軟に対応している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>介護保険の申請を希望する方が多い中、自助努力を促したり、インフォーマルサービスの紹介をすることで個々のニーズに合った対応を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・利用者本位のサービスを位置づける為、社会資源とうまく結びつけたプラン作成をする。
・要支援者のケアプラン委託が難しく、自センターでの受け持ち件数が増える中、総合相談、地域活動業務とのバランスを図り、質を落とすことなく対応していく。
・自立促進ケア会議に職員が満遍なく出席することで、専門家の意見をもとに質の高い予防支援を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="5">3　総合相談支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・あんしんケアセンター移転後に、改めて地域の相談窓口であることを示す普及啓発を行った。
・行政　病院　民生委員　NPO法人等の関係機関と連携を図り、ケース等の問題解決に取り組めた。
・地域課題の共有と課題解決を目的に、個別ケースを用いた地域ケア会議を開催した。
・相談件数が増加する中、効率的なケース対応を進めるため、総合相談終結票を作成した。（相談管理）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・民生委員の会議に出席し、新しい委員の方にあんしんケアセンターの業務説明を行った。
・困難事例の対応が多い中、高齢障害支援課と積極的にカンファレンスを行い解決に努めた。
・相談件数が増加する中、効率的なケース対応をしていくため、総合相談終結票を作成した。
・UR生活支援アドバイザー開催のお祭りや福祉用具展示会に参加し相談ブースを構え対応した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>相談を受けてから迅速な対応を心がけ、積極的な訪問を行っていることに対しては評価出来るが、過去の相談に対しての省みや時間が経過した相談に対してのアプローチ不足により未解決の相談がたまってきている。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の発掘や活動状況の確認を行い相談解決に努める。
・相談が放置されないよう終結したかを毎月のモニタリングで確認し、未解決のケースに対しアプローチする。
・関係機関と連携を図り、普及啓発を行うことで、相談ケースの早期発見、早期対応を目指す。
・感染予防をしっかり行った上で、地域行事に参加し普及啓発活動を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">4　権利擁護</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・虐待予防ケース会議随時行った。
・市から送られてくる行方不明、徘徊者の情報をもとに積極的にケアマネージャ―への確認や新規の相談として家族に連絡をとって支援につなげた。
・国民生活センターのリーフレットを利用し配布、掲示、設置により普及啓発を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・虐待予防における会議を随時行った。
・後見利用の対象者と思われる方に対して専門機関の方と協力して制度につなげた。
・警察から送られてくる消費者被害予防のお知らせや国民生活センターのリーフレットの配布や掲示を随時行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>後見制度、消費者被害等の講義はできなかったものの、周知活動としてリーフレットの配布や掲示物による普及活動が出来た。虐待ケースにおいては迅速に高齢障害支援課に報告し、連携を図り対応した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・疑いも含めた虐待ケースに対し関係機関との連携により、早期発見、早期対応に努める。
・警察からの消費者被害の情報を掲示、配布していくことで住民に注意喚起を行う。
・後見制度においては介護支援専門員からの相談が増えている中、指導できる技術を身につける為、日頃の相談に徹底して関わる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">5　包括的・継続的ケアマネジメント支援</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・居宅介護支援事業所からの困難ケースの相談に対応した。
・前期は虐待ケースが多く、高齢障害支援課との協力体制を作り、解決に向けた動きが出来た。
・事業所とのネットワークの構築を目指し、事業所訪問やコロナにおける業務状況の確認を行った。
・美浜区でケアマネ連絡会の開催をオンラインにて行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・圏域のケアマネ連絡会を開催し、事例検討会やコロナ禍における情報共有を行った。
・介護支援専門員からの相談においては後見制度を取り扱う専門機関の紹介や申し立ての協力、虐待がらみのケース、身元のいない方の対応といった相談支援を行った。
・介護支援専門員からの相談は記録に残したり、会議での情報共有において全職員が対応出来る措置をとった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍において予防を図り最低限の連絡会を開催することが出来た。
・各介護支援専門員からの困難ケースの相談には柔軟に対応した。
・介護支援専門員へのプランの委託依頼においては同行訪問を主とし丁寧な引継ぎを行った。
・生活支援コーディネーターを通じて社会資源の情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・介護支援専門員が相談しやすい場として認めてもらうよう連絡会の開催、日々の業務等で連携を図る。
・要支援者の委託が厳しくなっている中、居宅介護支援事業者の状況確認に努める。困難事例においてはアフターケアもしっかり行う。
・圏域の介護支援専門員が自立促進会議に出席し、地域の状況、資源の確認が出来るよう配慮する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・以前から問題視されていた方に対しての個別の地域ケア会議を実施した。
・関係機関との連携会議を適時行った。
・総合相談から今までの関りがなかった地域、自治会との話し合いを行うことが出来た。
・民生委員との連携、会議の出席を随時行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">・圏域内の団地の活動の場が損なわれるとの問題があげられた中、関係者を集め地域ケア会議を行い解決に努めた。
・自立促進ケア会議では事例を提供し、会議の意味を全職員に理解してもらうよう努めた。
・美浜区の多職種連携会議に参加し、オンラインではあるがグループワーク等で横のつながりを持った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍、感染予防を図り各種会議を実施した。
・個別ケースの会議の対象となっている方がいたものの、他の相談業務に追われ開催することが出来なかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・地域課題における会議は定期的開催を目指す。
・個別事例の会議は対象者を選定し、必要に応じた会議の開催を目指す。
・自立促進ケア会議は積極的な事例提供や参加を目指していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="6">7　一般介護予防事業</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・センター建物内において人の集まる場所が確保され、掲示物が普及啓発として有効活用された。
・生活支援コーディネーターと連携を図り、各地域の場所を借り普及啓発を行った。
・生活支援コーディネーターの資源調査により、コロナ禍の中実施されている予防事業をセンター職員が把握し総合相談、ケアプランの作成に役立てた。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">・他機関と共催で行っているサークルの方向性を決める為の地域ケア会議を開催した。
・民生委員会議に出席し、介護予防のリーフレット、地域資源の冊子を配布し普及啓発を行った。
・低栄養予防対象者に積極的アプローチを図り支援につなげた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">コロナ禍において地域の通いの場の状況をある程度把握出来たものの、生活支援コーディネーターからの情報が多く、センターとしてはアプローチは少なかった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">・地域の通いの場の運営状況を確認していくことで総合相談に活かす。
・地域の催しに参加し介護予防の普及啓発に努める。
・地域資源の冊子を随時更新し住民、関係機関に配布する。</td></tr>
</table>

令和３年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

<table>
<tr><td colspan="2">センター名</td><td colspan="4">千葉市あんしんケアセンター幸町</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当圏域
地区課題</td><td colspan="4">・独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題がある。
・地域により見守り機能や地域活動に差があり、問題が潜在化しやすい。
・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、生活が不活性化している。地域だけでなく家族との関係性がより希薄になっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動方針
（総合）</td><td colspan="4">・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、独居及び高齢者世帯の見守り体制を構築する。
・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、より深刻になった潜在的な引きこもり等、問題の早期発見につなげる。
・ネットワークの強化を図ると共に、地域力の向上を支援する。
・コミュニティーの少ない地域の実情を把握し、相談の支援体制を整える。</td></tr>
<tr><td colspan="6">1　地域包括ケアシステムの構築</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）生活支援・介護予防サービスの基盤整備の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①コロナ禍で個別ケース対応が多く、生活支援コーディネーターと協働した取り組みはできなかったが、個別相談の中で地域の情報を収集することができた。
②オンラインで地域組織との連携を検討したが、通信環境的に難しく、個別で連携を図った。
③コロナ禍の為、対面での講座は行うことができなかったが、定期的に地域の機関紙に情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①総合相談を通して、地域課題の把握や地域組織と情報の共有を図った。
②機関紙やUR等の地域の取組みの中で、介護予防に関する情報を地域に提供した。
③地域支え合い型支援事業の取り組み状況を継続して確認し、事業対象者につなげた。また他圏域の生活支援コーディネーターに地域の取組み内容を紹介し、関係者との連携を図った。センター内で地域課題を話し合い、把握している問題をまとめた。
④美浜区生活支援コーディネーター第1層協議体にて情報の共有を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・コロナ禍で積極的な生活支援・介護サービスの基盤整備の促進ができなかった。
・生活支援コーディネーターと協働した取り組みを行うことができなかった。（食品アクセス問題等）</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">把握した地域課題及びセンターの活動を次に受託するセンターに引き継ぎ、生活支援・介護予防サービスの基盤整備につなげる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">（2）在宅医療・介護連携の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①区内センター及び在宅医療介護連携支援センターと協同してオンラインによる介護支援専門員研修を行った。
後期の多職種連携会議開催に関して検討した。
②市、及び関係機関と新型コロナ感染症及びワクチン接種について情報の共有化を図り、対応した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="4">①区内センター及び在宅医療・介護連携支援センターと協働し、「カスタマーハラスメントの対応」をテーマに多職種連携会議を開催した。(1/26)
在宅医療介護連携支援センターと連携し、個別ケースの対応を検討した。
②圏域内の薬局を訪問し、あんしんケアセンターの周知と地域の情報および課題の共有を図った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td colspan="2">・新型コロナ感染症対策を講じながら、オンラインで多職種連携会議を開催することができた。
・在宅医療介護連携支援センターや薬局等と連携を図りながら、多職種連携会議や個別のケース会議で情報の共有や連携の強化を図った。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="4">センターで構築してきた連携体制を次の受託法人に引き継ぐ。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">（3）認知症施策の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①認知症の人と家族の会が開催した「千葉市認知症介護講習会」にてあんしんケアセンターの役割について講演を行った。
②認知症初期集中支援チームの定例会に出席し、意見交換を行った。認知症疾患医療センターが主催する研修について、意見交換を行った。
③区内2か所の学校で、区高齢障害支援課と協働でKids認知症サポーター養成講座を開催した。
④個別相談対応に追われ、チームオレンジの活動に参加できなかった。
⑤個別ケース対応の中で圏域内の金融機関と連携を図った。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①圏域内のコンビニエンスストアに訪問し、あんしんケアセンターの周知を図った。
②認知症初期集中支援チーム（以下支援チーム）会議に定期的に出席し、美浜区の情報の共有を図った。また、支援チーム会議の取り組みに関してセンター内で検討し、事例提供を行った。
③企業向け認知症サポーター養成講座を開催する。（2/24）
④個別ケースや地域課題から見えてくる今後必要になる支援について検討した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍で積極的な取り組みができなかったが、できる範囲での周知活動等を行うことができた。
・地域住民に身近な関係機関に訪問することで、今後の連携の基盤とすることができた。
・センター内で支援チームの取り組みを見直すことで、支援体制を話し合う機会になった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">・支援チーム会議の事例を次に受託する法人に引継ぎ、継続して検討を行う。
・引き続き圏域内のコンビニエンスストア等との連携を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="5">2　第1号介護予防支援事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①介護予防教室の問い合わせがあったが、緊急事態宣言下で休止した事業が多かった。必要性を確認しながら介護申請を行い、サービスの利用につなげた。
②ケアマネジメントCの作成を行い、地域支え合い型支援事業を支援した。
③委託の居宅介護支援事業所のケアプラン及びサービス内容が適正かどうかの確認を行った。地域支え合い型通所介護の利用に関し、適正な利用につながるよう支援した。</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①コロナの収束が見えず、事業の休止等もあり、対象者に適した活動につなげることが難しかった。
②コロナ禍であんしん主催の体操教室や多職種と協働した介護予防の取り組みを行うことはできなかった。
③委託の居宅介護支援事業所にケアプラン及びサービス内容が適正かどうかの確認を随時行った。
④ケアマネジメントCの作成を行い、地域支え合い支援事業を支援した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍で感染のリスクを鑑み積極的な介護予防の取り組みを行うことができなかった。
・要支援を受託できる居宅介護支援事業所が少なく、委託先が偏りがちになった。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">地域支え合い支援事業及びあんしん主催の体操教室や地域での介護予防の取り組みを継続して行うことができるよう、次の法人に引き継ぐ。</td></tr>
</table>

3　総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①民生委員、関係機関から重度化したケースの相談が増え、適宜対応した。 ②個別ケースに関わる関係機関とケースの情報を共有し、対応策の検討を重ねるなど連携を強化した。 ③コロナ禍において、外出や訪問の制限があり、見守り体制を強化することができなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	①センター内で検討しながら民生委員やUR、地域の関係機関と連携し、個別ケースの支援を行った。 ②生活自立仕事相談センターや障害者基幹相談支援センターと連携し、複合的な問題を抱える高齢者の支援につなげた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・コロナ禍での閉じこもりや地域の見守りの希薄化により、重度化するケースもあったが、関係機関と連携を図りながら支援することができた。 ・コロナ禍で支援を必要とする高齢者の把握が積極的にできなかった。 ・複合的な問題を抱えたケース、緊急性が高いケース等優先順位を確認し、関係機関と連携を図ることで問題解決に向けた支援を行うことができた。
	次年度に向けた展望	継続的に支援が必要なケースをリスト化し、関係性を絶やさないように次に受託する法人に引き継ぐ。		
4　権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①複合的な問題を抱えるケースの対応の検討と実施をとおし、弁護士等関係機関の連携を強化した。 ②コロナ禍で対面での周知活動を行う事が難しかったが、地域の機関紙で消費者被害等の情報提供や啓発を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①ケースの対応を通して、関係機関と連携を図った。虐待が疑われるケースのケース会議を行い、関係者と情報の共有を図った。 ②権利擁護に関して地域新聞に記事を掲載した。また、民生委員や薬局にチラシを配布して啓発を行った。 ③認知症の方の意思決定対応として「人生会議」に参加し、支援を検討した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・コロナ禍のため、講座開催等対面での周知活動は難しかったが、紙面での情報提供や啓発を行った。 ・関係機関との連携により迅速な対応ができた。
	次年度に向けた展望	今まで構築してきたネットワークを次の受託法人に引き継ぎ、必要な支援が円滑に行われるようにする。		
5　包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員が担当する困難事例に対し、同行訪問や個別ケース会議を開催し、後方支援を行った。 ②区内センターおよび医療介護連携支援センターと協働し、オンラインにて介護支援専門員研修会を開催した。カスタマーハラスメントに関して情報を共有し、意見交換を行った。 ③個別ケースの対応の中で、介護支援専門員と地域組織及び関係機関との連携を図った。圏域内の居宅介護支援事業所と連絡会を行い、情報の共有を図った。 ④在宅医療介護連携支援センターと連携し、ケースの対応や研修会の開催、新型コロナウイルス感染症の情報共有等を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員が担当する困難事例に対して同行訪問や個別ケース会議を開催し、後方支援を行った。個別ケース対応の中で地域及び関係機関との連携を図った。 ②継続的に支援が必要なケースをリスト化した。 ③圏域内の介護支援専門員連絡会を開催する。（3/17）		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・介護支援専門員の困難事例の後方支援を行うことができた。 ・個別ケースの対応により介護支援専門員との関係強化とともに、地域の関係機関との連携強化につながった。
	次年度に向けた展望	継続的支援が必要なケースを次の受託法人に滞りなく引き継ぎ、今後も安定した支援体制を整える。		

<table>
<tr><td colspan="5">6　地域ケア会議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①必要時に個別ケース会議を開催した。
②自立促進ケア会議は後期に取り組む事になった。
③コロナ禍のため、幸町2丁目連携会議を書面で開催した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①個別課題解決のための地域ケア会議を開催した。
②自立促進ケア会議に出席し、圏域内の居宅介護支援事業所の事例を検討した。
③コロナ感染症に留意しながら対面で地域ケア会議を開催し、「団地の騒音問題」に関し検討を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>B</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>コロナ禍であっても感染対策を講じながら対面での会議やオンラインでの会議を開催し、情報の共有化や課題解決に向けての検討を行うことができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">今まで構築したネットワークが継続して機能できるよう、次の受託法人に引き継ぐ。</td></tr>
<tr><td colspan="5">7　一般介護予防事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①個別のケース対応が多く、生活支援コーディネーターと協働しながらの活動はできなかった。
②コロナ禍であんしん主催の介護予防教室は開催することができなかったが、地域の機関紙等で介護予防の情報提供を行った。・UR及び美浜いきいきプラザと協働し、介護予防の講座を行った。
③ コロナ禍で地域カフェや住民主体の通いの場は休止となった。再開に向けて感染拡大防止の情報提供を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期</td><td>具体的な取り組み状況</td><td colspan="3">①コロナが収束せず、あんしん主催の介護予防教室の開催ができなかったが、参加者の評価を行った。URコミュニティーが実施している介護予防普及啓発活動の取り組みに参加し、いきいき活動手帳の活用を検討した。書面やオンライン等での介護予防の取組を行うことはできなかった。
②一般介護予防事業に関して生活支援コーディネーターとの意見交換の機会がなかった。
③センター内で検討し、地域課題をまとめた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年度総括</td><td>自己評価</td><td>C</td><td>自己評価を選択した理由</td><td>・コロナ禍であんしん主催の介護予防の取組みを行うことができなかった。
・関係機関の取り組みに参加し、ミニ講座を行ったり、住民のニーズを把握することができた。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けた展望</td><td colspan="3">あんしん主催の体操教室等、地域で実現可能な「コロナ禍での取り組み」を次に受託する法人に引き継ぐ。
幸町1丁目の千葉ガーデンタウン有線テレビ放送局を活用して、介護予防の情報を配信する。</td></tr>
</table>